ＩＳＳＮ　０３８６－５８７８
土木研究所資料　第４４６８号

土 木 研 究 所 資 料

アルカリ骨材反応抑制対策前に建設されたコンクリート構造物の劣化進行に関する実態調査

令和８年３月

国立研究開発法人土木研究所
先端材料資源研究センター材料資源研究グループ

Copyright © (2026) by P.W.R.I.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced by any means, nor transmitted, nor translated into a machine language without the written permission of the Chief Executive of P.W.R.I.

この報告書は、国立研究開発法人土木研究所理事長の承認を得て刊行したものである。したがって、本報告書の全部又は一部の転載、複製は、国立研究開発法人土木研究所理事長の文書による承認を得ずしてこれを行ってはならない。

土木研究所資料
第4468号2026年3月

アルカリ骨材反応抑制対策前に建設されたコンクリート構造物の劣化進行に関する実態調査

材料資源研究グループ　上席研究員　古賀裕久
研究員　小沢拓弥
交流研究員　仲野弘識

要　旨

実構造物におけるアルカリ骨材反応による劣化の進行状況や対策の効果に関する知見の継続的な蓄積を目的に，過去に追跡調査が実施されているアルカリ骨材反応抑制対策前に建設されたコンクリート構造物69件を対象に，再度追跡調査を実施した。その結果，供用開始から37年～65年が経過している調査対象の大部分が経過観察の状態に推移しており，ある程度の期間が経過すると劣化の進行が緩やかになる傾向があること，水分の浸入を遮断することや膨張を物理的に拘束する対策が有効であることが確認された。ただし，一部の構造物では，水掛かりを受ける箇所で再劣化もみられた。

キーワード：アルカリ骨材反応，アルカリシリカ反応，実構造物，追跡調査，補修・補強

目　次

1. 背景と目的 …… 1

2. 調査概要 …… 2
2.1 調査対象 …… 2
2.1.1 調査対象の選定 …… 2
2.1.2 対象構造物の特徴 …… 3
2.2 調査方法 …… 4
2.2.1 調査概要 …… 4
2.2.2 劣化度の判定 …… 5

3. 調査結果 …… 7
3.1 劣化度の比較 …… 7
3.2. 補修・補強の実情 …… 12
3.3 劣化部位の特徴 …… 14

4. 考察 …… 15
4.1 劣化状態の推移 …… 15
4.1.1 1985年調査時点で補修必要と判断された構造物 …… 15
4.1.2 1985年調査時点で経過観察と判断された構造物 …… 16
4.1.3. 試験結果と考察 …… 16
4.2 補修・補強の効果 …… 17
4.2.1 2003年調査以降には補修・補強していない構造物 …… 17
4.2.2 2003年調査の前後で補修・必要している構造物 …… 18
4.2.3 2003年調査以降のみ補修・補強している構造物 …… 19
4.2.4 補修・補強をしていない構造物 …… 19
4.2.5 補修・補強の効果のまとめ …… 19

5. まとめ …… 20

1. 背景と目的

我が国では，1980 年代前半からアルカリ骨材反応（以下，ASR）によるコンクリート構造物の早期劣化が問題とされるようになった。それまで我が国では，ASR により劣化したコンクリート構造物の事例は，ほとんど存在しないと認識されてきた。これは，1961 年に各地方における 104 種類の骨材を化学試験法によって検査した結果，反応性を有する骨材が 2 種類のみであったことを受けたためである[1)]。しかし，1982 年頃，阪神地区の一部のコンクリート構造物に発生している亀甲状のひび割れが ASR によるものであることが明らかになった。その後，中国，北陸地方でも ASR による劣化が顕在化し，社会問題となった。

これに対し，1985 年～1987 年には，旧建設省が中心として建設省総合技術開発プロジェクト「コンクリートの耐久性向上技術の開発」[2)]が実施され，産学官の多くの研究者が参画し，ASR に関するコンクリート構造物の劣化状況やメカニズムに関する集中的な研究が行われた。その研究成果は，1986 年の旧建設省の通達「アルカリ骨材反応暫定対策について」や JIS A 5308「レディーミクストコンクリート」における抑制対策の原型となり，現在も運用されている。抑制対策が運用されるようになった 1987 年以降に建設されたコンクリート構造物では，ASR による劣化事例が著しく減少しており[3)]，抑制対策は大きな効果を上げている。

一方，実構造物における ASR による劣化の進行過程は十分に解明されておらず，ASR により劣化した実構造物に対する補修・補強の効果についても，十分には明らかになっていない。今後，ASR により劣化した実構造物に対する効果的な維持管理方法を確立するためには，劣化した実構造物の経時的な変化を調査し，その知見を継続的に蓄積していくことが必要である。

土木研究所では 2003 年～2004 年において，抑制対策が運用されるよりも以前に建設された構造物のうち，過去の調査で ASR による劣化が疑われた構造物を対象に追跡調査（以下，過去調査）を実施している[4)]。そこで，本研究では，過去調査で対象となった構造物を対象に追加で追跡調査を行い，過去調査から現時点までにおける ASR による劣化の進行状況および補修・補強の効果について整理した。

【参考文献】

1) 近藤泰夫，北川欣一：アルカリ・骨材反応に関する研究（第 2 報：各地骨材のアルカリ骨材反応の試験結果及びポツオラン反応による防止等に就て），セメント技術年報，Vol.V，pp.379-399，1951
2) （一財）土木研究センター：建設省総合技術開発プロジェクト・コンクリートの耐久性向上技術の開発，1989.5
3) 河野広隆，古賀裕久：道路橋に見るアルカリ骨材反応の実態，土木技術資料，Vol.47，No.12，pp.66-71，2005.12
4) （独）土木研究所：土木研究所資料　アルカリ骨材反応により劣化したコンクリート構造物の追跡調査，2005.2

2. 調査概要

2.1 調査対象

2.1.1 調査対象の選定

表-2.1 に調査概要を示す。調査対象は，過去調査で対象となった構造物とした。過去調査[1)]では，1985 年に実施された「コンクリート構造物劣化実態調査」，1987 年に実施された「コンクリート構造物の補修事例集」，1999 年に実施された「既存コンクリート構造物の健全度実態調査」の 3 つの資料[2-4)]から ASR による劣化が疑われた構造物 69 件を選定している。以下に，これらの資料の概要を示す。

(1) コンクリートの劣化実態調査報告(1)[2)]「調査年：1985 年，対象件数：50 件」

原因不明のひび割れを生じている構造物 92 件に対して，ASR による劣化かどうかを明らかにするため，構造物の設計施工条件，立地環境条件の調査ならびに被害状況について現地での調査を実施している。また，一部の構造物については，膨張量測定などのコア試験を行っている。その結果，ASR の疑いのある構造物は 79 件であった。なお，本調査および過去調査では，ASR の疑いのある構造物のうち 50 件を対象とした。

(2) 土木研究所彙報－コンクリート構造物の補修事例集－[3)]「調査年：1987 年，対象件数：2 件」

補修されたコンクリート構造物の補修前の損傷状況と補修方法，補修後の経過について実態調査を行っている。対象構造物の形式は全て橋梁で，全国で 33 の橋について調査を行っている。劣化原因は，塩害，ASR，凍害，その他と区別されており，そのうち ASR に概要するのは 2 件であった。

(3) 既存コンクリート構造物の健全度実態調査－1999 年調査結果－[4)]「調査年：1999 年，対象件数：17 件」

全国のコンクリート構造物の健全度の実態を明らかにするため，2,099 件の構造物について設計施工条件，立地環境条件の調査ならびに外観調査を行っている。対象は，橋梁上部構造，橋梁下部構造，擁壁，カルバート，河川構造物，トンネルの 6 種類で，竣工年，地域および周辺環境が偏らないように，無作為に選定された。その結果，ASR による劣化の影響を受けていると考えられる構造物が 17 件であった。

なお，各資料の調査が実施された 1985 年，1987 年，1999 年の時点を「1985 年調査時点」，2003 年～2004 年に実施された追跡調査時点を「2003 年調査時点」，本追跡調査時点を「2025 年調査時点」とする。

表-2.1　調査概要

調査種別	調査年	調査時点の呼称	摘要
過去調査[1)]	1985 年[2)]，1987 年[3)]，1999 年[4)]	1985 年調査時点	2 つの調査時点における構造物の劣化度を判定，比較
	2003 年～2004 年	2003 年調査時点	
本調査	2020 年～2025 年	2025 年調査時点	現時点における構造物の劣化度を判定し，過去調査と比較

2.1.2 対象構造物の特徴

調査対象とした構造物を以下に示す。

(1) 地域

表-2.2 に調査対象となった構造物の地域分布を示す。地域としては，北陸地方が最も多く，次に中国地方の構造物が多い。

(2) 構造物の種類

表-2.3 に調査対象となった構造物の種類を示す。構造物の種類としては，橋台が最も多く，次に橋脚が多い。

(3) 竣工年と竣工から本調査までの年数

表-2.4 に調査対象となった構造物の竣工年を，**表-2.5** に竣工から本調査までの年数を示す。竣工年としては，1970 年台に竣工した構造物が最も多く，次に 1960 年台が多い。竣工から本調査までの経過年数としては，46~55 年が最も多く，次に 56~65 年が多い。

表-2.2　調査対象構造物の地域分布

地域	構造物数
北海道	1
東北	1
関東	2
北陸	37
中部	2
近畿	6
中国	15
四国	4
九州	1

表-2.3　調査対象構造物の種類

構造物の種類	構造物数
橋台	33
橋脚	17
擁壁	12
防波堤	1
水門	2
砂防ダム	1
ボックスカルバート	1
堰	1
流路工	1

表-2.4　調査対象構造物の竣工年

竣工年	構造物数
1940 年～1949 年	1
1950 年～1959 年	3
1960 年～1969 年	22
1970 年～1979 年	36
1980 年～1985 年	5
不明	2

表-2.5　竣工から本調査までの経過年数

経過年数	構造物数
36 年～45 年	10
46 年～55 年	28
56 年～65 年	15
現存しない等	16

2.2 調査方法

2.2.1 調査概要

過去調査では，1985 年調査時点と 2003 年調査時点の劣化度を判定し，その結果を比較している。本調査では新たに 2025 年調査時点における劣化度を判定し，過去調査の判定結果と比較することとした。本調査は，構造物の現地確認または全国道路点検データベースより取得した 2020 年～2024 年の定期点検調書の確認により行った。また，一部の構造物については，調査結果を補完するため，特定の地点における 360 度パノラマ画像を閲覧可能な Web サービス（Google ストリートビュー）も活用した。ここで，現地確認した構造物は 15 件，定期点検調書により確認した構造物は 28 件，Web サービスにより確認した構造物は 9 件，情報不足または現存しない構造物は 17 件であった。

調査項目は，過去調査と同様にひび割れの延長や幅，発生している範囲などの構造物の現在の状態，補修・補強の有無や工法とした。また，現地確認は，地上から目視できる範囲内で実施することとし，点検車や足場の設置は行っていない。

2.2.2 劣化度の判定

構造物の外観調査を行うと，ひび割れの本数やひび割れ幅などについてある程度明らかにすることができる。しかし，各構造物本体に占める劣化部位の大きさ（範囲，ひび割れ長さ等）や周辺環境は様々であることから，こうした変状の程度と構造物としての耐久性への影響の大きさを結びつけるのは簡単ではない。

そこで，本調査では2025年調査時点の劣化度の判定として，現地確認や写真，図面から得られる劣化の状況ならびに構造物の重要性などを総合的に判断し，同一の判定者が過去調査と同様の判定基準を用いて，構造物の劣化度の判定を行った。**表-2.6**に判定基準を，**写真-2.1**，**写真-2.2**に補修必要，経過観察の例を示す。なお，1985年調査時点および2003年調査時点の劣化度は，過去調査の判定を用いた。また，本調査における劣化度の判定は，ASRに起因すると考えられる変状の程度に着目して評価したものであり，橋梁定期点検要領に基づく健全性の診断区分とは，評価の目的および判定基準が異なる。このため，本調査における劣化度の判定は，定期点検調書における健全性の評価結果と必ずしも一致しない。

表-2.6　判定基準

区分	内容
補修必要	ASRによるひび割れが発生し，内部の鉄筋が腐食しやすい状態になっているため，補修を行う必要がある。
検討必要	今回の調査だけでは補修が必要か，経過観察でよいか明確にできない。鉄筋の部分的なはつり出しを行うなど詳細調査により判断する必要がある。
経過観察	構造物に生じている劣化の原因は，ASRによるものである可能性が高い。しかし，劣化の程度が軽微であり当面は劣化箇所の経過観察を行うと良い。
対策済み	構造物は現存し，何らかの対策を実施している。
ASRではない	種々の情報から総合的に判断すると構造物に生じた変状はASRによるものとは考えにくい。
情報不足	補修の要否を判断するための情報が不足している。
現存せず	理由は明確ではないが，現存していない。



写真-2.1　補修必要の例



写真-2.2　経過観察の例

【参考文献】

1)　独立行政法人土木研究所 : 土木研究所資料　アルカリ骨材反応により劣化したコンクリート構造物の追跡調査，2005.2

2)　建設省土木研究所：土木研究所資料 コンクリートの劣化実態調査報告(1)，1986.4

3)　建設省土木研究所：土木研究所彙報 コンクリート構造物の補修事例集，Vol.49，1988.11

4)　独立行政法人土木研究所：土木研究所資料 既存コンクリート構造物の健全度実態調査結果－1999 年調査結果－，2002.3

3. 調査結果

3.1 劣化度の比較

図-3.1 に判定結果の推移を，**表-3.1**，**表-3.2** に過去調査および本調査における劣化度の判定結果を示す。1985 年調査時点では，69 件中 30 件（43%）が補修必要，37 件（54%）が経過観察と判定された。それに対して，2003 年調査時点では，8 件（12%）が補修必要，3 件（4%）が検討必要，44 件（64%）が経過観察，2025 年調査時点では，3 件（4%）が補修必要，3 件（4%）が検討必要，44 件（64%）が経過観察と判定されており，時間経過に伴い補修必要の判定が減って経過観察の判定が増える傾向にあった。また，2025 年調査時点で現存せずと判定された構造物は 9 件あり，2003 年調査時点からの変化はなかった。なお，各構造物の詳細は資料編の構造物カルテに示す。

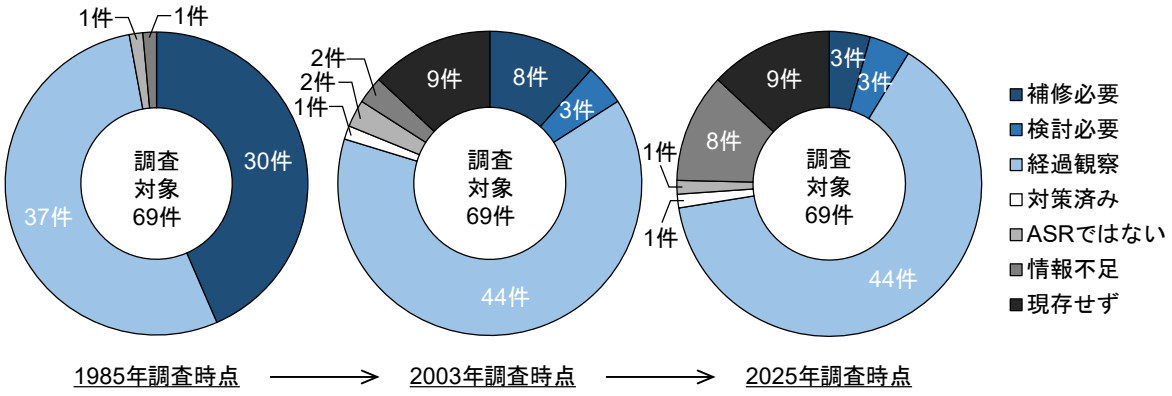


図-3.1 劣化度の判定結果の推移

表-3.1　劣化度判定結果（1/2）

判定基準
1. 補修必要
2. 検討必要
3. 経過観察
4. 対策済み
5. ASR ではない
6. 情報不足
7. 現存せず

整理番号	竣工年度	1985 年調査以前の補修			1985 年調査時点			1985 年調査から 2003 年調査までの補修			2003 年調査時点			2003 年調査から 2025 年調査までの補修		
		有無	実施年度	方法	調査年度	経過年数	判定	有無	実施年度	方法	調査年度	経過年数	判定	有無	実施年度	方法
A9901	1958	無	-	-	1999	41	3	無	-	-	2003	45	3	無	-	-
B9902	1971	無	-	-	1999	28	3	無	-	-	2003	32	3	有	2021	ひび割れ充填 断面修復
C9903	1973	無	-	-	1999	26	3	無	-	-	2003	30	2	有	2007	ひび割れ注入 断面修復
C9904	1980	無	-	-	1999	19	3	無	-	-	2003	23	3	有	2005	ひび割れ注入
D8503	1973	有	不明	表面被覆	1985	12	3	有	2000	ひび割れ注入 表面被覆	2003	30	3	−	-	-
D8504	1970	無	-	-	1985	15	1	−	-	-	2003	33	7	−	-	-
D8506	1983	無	-	-	1985	2	3	無	-	-	2003	20	3	有	2004 2017	表面被覆 断面修復
D8507	1977	無	-	-	1985	8	3	無	-	-	2003	26	3	有	2006	ひび割れ注入
D8508	1969	無	-	-	1985	16	3	無	-	-	2003	34	3	−	-	-
D8509	1960	無	-	-	1985	25	3	有	不明	表面被覆	2003	43	5	有	2009	表面被覆
D8510	1968	有	不明	ひび割れ注入	1985	17	3	無	-	-	2003	35	3	有	2022	縁端拡幅（落橋防止装置）
D8511	1974	無	-	-	1985	11	3	無	-	-	2003	29	3	有	不明 2007	表面被覆 落橋防止装置
D8512	1969	無	-	-	1985	16	3	無	-	-	2003	34	3	有	2015	落橋防止装置
D8513	1964	無	-	-	1985	21	5	無	-	-	2003	39	5	無	-	-
D8514	1966	無	-	-	1985	19	3	無	-	-	2003	37	3	有	2017	縁端拡幅（落橋防止装置）
D9905	1985	無	-	-	1999	14	3	無	-	-	2003	18	3	有	2010	ひび割れ注入 断面修復
D9906	1970	有	1991	表面被覆	1999	29	3	有	2000	表面被覆	2003	33	3	無	-	-
D9907	1971	有	1990	表面被覆	1999	28	1	−	-	-	2003	32	7	−	-	-
D9908	1973	無	-	-	1999	26	1	無	-	-	2003	30	3	無	-	-
D9909	1974	無	-	-	1999	25	1	無	-	-	2003	29	1	無	-	-
E8518	1967	無	-	-	1985	18	3	無	-	-	2003	36	3	ー	-	-
E8536	1971	無	-	-	1985	14	3	有	1997	RC 巻立て	2003	32	3	無	-	-
F8537	1974	有	不明	-	1985	11	3	有	1997	鋼鈑巻立て	2003	29	2	有	2009	表面保護
F8539	1977	無	-	-	1985	8	1	有	1994	表面被覆 鋼鈑巻立て	2003	26	1	有	2015	断面修復
F8540	1979	無	-	-	1985	6	3	無	-	-	2003	24	3	−	-	-
F8542	1979	無	-	-	1985	6	1	有	不明	鋼鈑巻立て	2003	24	3	無	-	-
F8801	不明	有	1984	表面被覆	1988	-	6	−	-	-	2003	不明	6	−	-	-
F9910	1964	無	-	-	1999	35	1	無	-	-	2003	39	3	有	不明	ひび割れ注入 断面修復
G8552	1972	無	-	-	1985	13	1	有	不明	表面被覆	2003	31	3	有	2005	ひび割れ注入 （亜硝酸）
G8553	1973	無	-	-	1985	12	3	有	不明	橋脚全鋼鈑	2003	30	4	無	-	-
G8802	1973	有	1984	ひび割れ注入 表面被覆	1988	15	3	無	-	-	2003	30	2	有	2011	ひび割れ注入
G9911	1977	有	1997	ひび割れ注入	1999	22	3	無	-	-	2003	26	3	有	2005	断面修復
G9912	1964	無	-	-	1999	35	1	有	2000	ひび割れ充填	2003	39	3	無	-	-
G9913	1973	無	-	-	1999	26	3	有	2000	ひび割れ充填	2003	30	3	無	-	-
G9914	1982	無	-	-	1999	17	3	無	-	-	2003	21	3	無	-	-

整理番号	2025年調査時点			コメント
	調査年度	経過年数	判定	
A9901	2022	64	5	橋台側面での鉄筋露出など，2003年調査から劣化の進行が認められるが，凍害が主たる要因と推察されるため，ASRではないと判定
B9902	2021	50	3	橋台側面については断面修復されており，変状は認められないことから，経過観察と判定
C9903	2019	46	1	橋脚梁部では，かぶりコンクリートの剥離や鉄筋の露出もみられ，第三者被害の恐れもあることから，補修必要と判定
C9904	2019	39	2	橋台前面には，遊離石灰を伴うひび割れが広範囲に発生しており，落橋防止装置付近にもひび割れが確認されることから，検討必要と判定
D8503	-	-	6	情報不足
D8504	-	-	7	現存せず
D8506	2023	40	3	梁部下面でひび割れが発生しているが，2023年の定期点検では，前回点検時からの変化は確認されていないことから，経過観察と判定
D8507	2022	45	3	2003年調査時点からひび割れの本数は増えているが，2022年の定期点検では，前回点検からの変化は確認されていないことから，経過観察と判定
D8508	-	-	6	情報不足
D8509	2021	61	3	橋脚梁下に亀甲状のひび割れが発生しているが，ひび割れ幅など劣化の程度は軽微であることから，経過観察と判定
D8510	2022	54	3	橋台全体にひび割れが見られるが，2003年調査時点と比較すると大きな進展は見られず，劣化の進行は遅いと推定されるため，経過観察と判定
D8511	2022	48	3	記録には残っていなかったが，表面被覆が施されており，変状が見られないことから，経過観察と判定
D8512	2022	53	3	遊離石灰を伴う二方向のひび割れが見られるが，2003年調査時点と比較して劣化の進展は見られないため，経過観察と判定
D8513	2024	60	3	ひび割れ性状や建設年代などからASRによる劣化と判断したが，2003年調査時点と比較して大きな変化は見られないことから，経過観察と判定
D8514	2020	54	3	最大ひび割れ幅は増加しているものの，実際の測定箇所は不明であるため，全体的な傾向から，経過観察と判定
D9905	2022	37	3	断面修復箇所に変状は見られず，ひび割れの様子にも変化は見られないことから，経過観察と判定
D9906	2019	49	3	橋脚で被覆材の破れおよびひび割れが見られるが，劣化の程度は比較的軽微であることから，経過観察と判定
D9907	-	-	7	現存せず
D9908	2022	49	3	2003年調査時点と比較してひび割れの進展に変化は見られず，竣工から49年が経過しているため，経過観察と判定
D9909	2024	50	3	2003年調査時点と比較してひび割れの進展に変化は見られず，竣工から50年が経過しているため，経過観察と判定
E8518	-	-	6	情報不足
E8536	2019	48	3	巻立て部にひび割れがみられるが，乾燥収縮が原因と推察され，劣化の程度も軽微であることから，経過観察と判定
F8537	2024	50	3	柱部は鋼鈑巻立て，梁部は表面被覆が行われており，いずれも変状は確認できないことから，経過観察と判定
F8539	2019	42	3	梁部側面にひび割れがみられるが，現状は側面にとどまっており，劣化の程度も軽微であることから，経過観察と判定
F8540	-	-	6	情報不足
F8542	2023	44	6	情報不足
F8801	-	-	6	情報不足
F9910	2021	57	3	補修箇所，未補修箇所ともに変状は見られないため，経過観察と判定
G8552	2021	49	3	補修箇所，未補修箇所ともに変状は見られないため，経過観察と判定
G8553	2020	47	4	橋脚全体が鋼鈑で覆われており，変状も見られないため，対策済みと判定
G8802	2022	49	2	橋脚の一部で梁部に錆汁が生じており，その他にも全体的にひび割れや浮きが見られるため，検討必要と判定
G9911	2023	46	3	一部で漏水や滞水が確認されているが，現状うきやひび割れが生じていないため，経過観察と判定
G9912	2024	60	3	ASRが原因だと思われるひび割れや白色の析出物が多数確認できるが，2003年調査時点からの進展は小さいように見えるため，経過観察と判定
G9913	2024	51	3	補修箇所に再劣化が見られないことや竣工から51年が経過していることから，経過観察と判定
G9914	2023	41	3	全体的な傾向としては，2003年調査時点から劣化は進行していないように見えるため，経過観察と判定

表-3.2　劣化度判定結果（2/2）

判定基準
1. 補修必要
2. 検討必要
3. 経過観察
4. 対策済み
5. ASR ではない
6. 情報不足
7. 現存せず

整理番号	竣工年度	1985 年調査以前の補修			1985 年調査時点			1985 年調査から 2003 年調査までの補修			2003 年調査時点			2003 年調査から 2025 年調査までの補修		
		有無	実施年度	方法	調査年度	経過年数	判定	有無	実施年度	方法	調査年度	経過年数	判定	有無	実施年度	方法
H8554	1979	有	1985	ひび割れ注入 表面被覆	1985	6	3	有	2002	表面被覆	2003	24	3	有	2005 2013	RC 巻立て ひび割れ注入
H8555	1973	無	-	-	1985	12	1	有	1986	ひび割れ注入	2003	30	3	有	2006 2013 2019	ひび割れ注入 亜硝酸注入 断面修復
H9915	1978	無	-	-	1999	21	1	無	-	-	2003	25	6	有	2011	ひび割れ注入
H9916	1981	無	-	-	1999	18	1	無	-	-	2003	22	1	－	-	-
J9917	1981	無	-	-	1999	18	3	無	-	-	2003	22	3	有	不明	ひび割れ注入
N8515	1966	無	-	-	1985	19	1	無	-	-	2003	37	3	無	-	-
N8516	1965	無	-	-	1985	20	3	無	-	-	2003	38	3	有	不明	ひび割れ注入
N8517	1972	無	-	-	1985	13	1	有	不明	ひび割れ注入	2003	31	3	無	-	-
O8519	1959	無	-	-	1985	26	3	－	-	-	2003	44	7	－	-	-
O8520	1972	無	-	-	1985	13	1	有	不明	RC 巻立て 表面被覆	2003	31	3	無	-	-
O8521	1968	無	-	-	1985	17	3	－	-	-	2003	35	7	－	-	-
O8522	1972	無	-	-	1985	13	1	有	不明	表面被覆	2003	31	1	有	不明	縁端拡幅（変位制御装置）
O8523	1967	無	-	-	1985	18	3	無	-	-	2003	36	3	有	不明	ひび割れ充填
O8537	1973	無	-	-	1985	12	3	有	不明	表面被覆	2003	30	3	無	-	-
O8538	1966	無	-	-	1985	19	3	有	不明	表面被覆	2003	37	3	無	-	-
O8526	1971	無	-	-	1985	14	1	有	不明	ひび割れ注入	2003	32	3	無	-	-
O8527	1960	無	-	-	1985	25	1	有	不明	表面被覆	2003	43	3	有	不明	縁端拡幅
O8528	1966	無	-	-	1985	19	1	有	不明	表面被覆	2003	37	3	有	不明	ひび割れ注入
O8529	1970	無	-	-	1985	15	1	無	-	-	2003	33	1	無	-	-
O8530	1959	無	-	-	1985	26	1	－	-	-	2003	44	7	－	-	-
O8531	1961	無	-	-	1985	24	3	無	-	-	2003	42	3	有	不明	ひび割れ注入
O8532	1960	無	-	-	1985	25	1	有	不明	表面被覆 アンカー補強	2003	43	3	有	不明	アンカー補強
O8536	1968	無	-	-	1985	17	3	無	-	-	2003	35	3	無	-	-
O8533	1969	無	-	-	1985	16	1	有	不明	表面被覆	2003	34	1	有	2005	ひび割れ注入 表面被覆
O8534	1960	無	-	-	1985	25	1	有	不明	表面被覆	2003	43	3	有	2005	表面被覆
O8535	1967	無	-	-	1985	18	1	有	不明	表面被覆	2003	36	1	無	-	-
P8545	1973	無	-	-	1985	12	1	－	-	-	2004	31	7	－	-	-
P8546	1973	無	-	-	1985	12	1	－	-	-	2004	31	7	－	-	-
P8547	1973	無	-	-	1985	12	1	有	不明	表面被覆	2004	31	1	有	不明	ひび割れ注入
P8548	1977	無	-	-	1985	8	3	無	-	-	2004	27	3	－	-	-
P8549	1973	無	-	-	1985	12	3	無	-	-	2004	31	3	無	-	-
P8550	1973	無	-	-	1985	12	1	有	不明	ひび割れ充填 表面被覆	2004	31	3	無	-	-
P8551	1974	無	-	-	1985	11	3	－	-	-	2004	30	7	－	-	-
P8552	1974	無	-	-	1985	11	1	－	-	-	2004	30	7	－	-	-

整理番号	2025年調査時点			コメント
	調査年度	経過年数	判定	
H8554	2020	41	3	ASRが原因と思われる変状は発生していないため，経過観察と判定
H8555	2020	47	3	断面修復が実施されており，現状は再劣化が見られないため，経過観察と判定
H9915	2021	43	3	ASRが原因と思われるひび割れが複数発生しているが，本数が少ないこと，ひび割れ幅が小さいことから，経過観察と判定
H9916	-	-	6	情報不足
J9917	2023	42	3	未補修部の一部でひび割れが発生しているが，残存膨張量の計測から膨張挙動が一定になっていることから，経過観察と判定
N8515	2025	59	3	ひび割れ幅は拡大しているが，新たなひび割れの進展は見られないこと，2003年調査から20年以上が経過していることから，経過観察と判定
N8516	2025	60	3	ひび割れ幅は拡大しているが，新たなひび割れの進展は見られないこと，竣工から60年が経過していることから，経過観察と判定
N8517	2025	53	2	ひび割れ注入箇所にひび割れが見られ，一部ではズレも見られたため，検討必要と判定
O8519	-	-	7	現存せず
O8520	2025	53	3	橋脚梁部では，表面被覆の著しい劣化が見られるが，鋼材腐食の兆候などは見られないため，経過観察と判定
O8521	-	-	7	現存せず
O8522	2025	53	3	現状はASRが原因と思われる変状は確認できないため，経過観察と判定
O8523	2025	58	3	ひび割れ幅の進展は見られるが，竣工から58年が経過していることを考慮して，経過観察と判定
O8537	2025	52	3	表面被覆の一部で析出物が見られたが，浮きは確認されず，2003年調査時点と比較して大きな変化は見られないため，経過観察と判定
O8538	2025	59	3	表面保護工に変化は見られなかったため，経過観察と判定
O8526	2025	54	3	ひび割れがやや進行しているようにも見えるものの，重大な状況ではないと判断し，経過観察と判定
O8527	2025	65	3	2003年調査時点で確認された表面被覆は除去されていたが，ひび割れは見られなかったため，経過観察と判定
O8528	2025	59	3	ひび割れ注入箇所の一部でひび割れが見られたものの，進行が軽微であるため，経過観察と判定
O8529	2025	55	3	ひび割れ幅は大きくなっていたが，新たなひび割れの発生などの進展は認められなかったため，経過観察と判定
O8530	-	-	7	現存せず
O8531	2025	64	3	全体としてひび割れは広範囲に分布していたが，進行はみられなかったため，経過観察と判定
O8532	2025	65	3	2003年調査時点で確認された橋台の表面被覆は除去されていたが，重大なひび割れは確認されなかったため，経過観察と判定
O8536	2025	57	3	2003年調査時点と比較して，ASRによるひび割れに変化は見られなかったため，経過観察と判定
O8533	2022	53	1	被覆材がはがれによって露出しているひび割れの幅が比較的大きく，沿岸部にある構造物であることから，補修必要と判定
O8534	2021	61	1	被覆材がはがれによって露出しているひび割れの幅が比較的大きく，沿岸部にある構造物であることから，補修必要と判定
O8535	2020	53	3	橋台前面にASRが原因と思われるひび割れが発生しているが，程度は軽微であり，竣工から50年以上経過していることから，経過観察と判定
P8545	-	-	7	現存せず
P8546	-	-	7	現存せず
P8547	2025	52	3	橋脚に施工されたひび割れ充填箇所には再劣化はなく，擁壁の劣化も軽微であるため，経過観察と判定
P8548	-	-	6	情報不足
P8549	2025	52	3	上部で部分的に鉄筋が露出しているが，構造物の用途を考えると問題となるようなものではないと判断し，経過観察と判定
P8550	2025	52	3	表面被覆の割れや析出物が見られ，再劣化が確認できるが，被覆材が残っており，深刻な劣化は確認できないため，経過観察と判定
P8551	-	-	7	現存せず
P8552	2020	-	7	現存せず

3.2 補修・補強対策の実情

図-3.2 に過去調査および本調査における補修・補強の履歴を示す。なお，補修・補強の履歴の調査は，現地や写真，定期点検調書，橋梁管理カルテで確認できる範囲で行った。

1985 年調査時点では，既に補修・補強が行われていた構造物は 9 件（13%）であった。2003 年調査時点では，補修・補強が行われたあるいは現存していないなど，何らかの対策が施された構造物は 39 件（57%）となり，2025 年調査時点では 52 件（75%）に達した。

表-3.3 に補修・補強工法の内訳を示す。1985 年調査時点までに用いられた補修工法は，表面被覆工法またはひび割れ注入工法であった。1985 年調査時点以降から 2003 年調査時点までに用いられた補修工法は，表面被覆工法や巻立て工法，ひび割れ注入工法が多かった。また，2003 年調査時点から 2025 年調査時点までに用いられた工法は，ひび割れ注入工法および断面修復工法が多かった。ただし，これらの補修が ASR による劣化のみを対象としたものかは不明であった。**写真-3.1～写真-3.5** に補修・補強工法の例を示す。

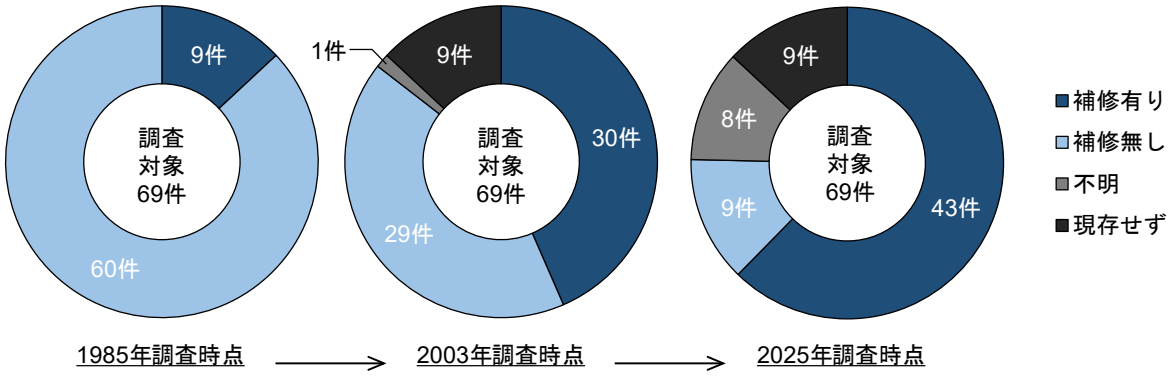


図-3.2 補修・補強の履歴

表-3.3 補修・補強工法の内訳※

a) 1985 年調査時点

補修・補強工法	件数
表面被覆	6[2]※1
ひび割れ注入	4[2]※1
不明	1

b) 2003 年調査時点

補修・補強工法	件数
表面被覆	18[5]※1
ひび割れ注入	4[1]※1
ひび割れ充填	3[1]※1
アンカー補強	1[1]※1
巻立て	6[2]※1

c) 2025 年調査時点

補修・補強工法	件数
表面被覆	6[3]※1
ひび割れ注入	16[6]※1
ひび割れ充填	2[1]※1
アンカー補強	1
巻立て	1[1]※1
断面修復	8[6]※1
その他※2	6[1]※1

※1 [ ]内は，他の工法を併用している構造物の件数を示す。

※2 落橋防止装置などの取付けに伴い，既存の断面に新規断面が取付けられている場合。
既存の断面にも補修などがされている可能性もあるが，外観上は判断できない。



写真-3.1　表面被覆工法の例



写真-3.2 ひび割れ注入工法の例



写真-3.3　断面修復工法の例



写真-3.4 鋼鈑巻立て工法の例





写真-3.5 変位制御装置設置に伴う橋台の縁端拡幅の例（左：2003 年調査時点 [1)]，右：2025 年調査時点）

3.3 劣化部位の特徴

劣化が顕在化している箇所は，橋台では竪壁や胸壁の前面や側面（**写真-3.6**），橋脚では梁の側面や下面（**写真-3.7**）など，上部からの水の影響を受けやすい箇所が主であった。擁壁については，背面側から水分の影響を受けるため，ほぼ全面に劣化が生じている（**写真-3.8**）事例が多かった。

また，過去調査では指摘されていないが，今回，橋台や橋脚に ASR による劣化が見られる橋梁のうち径間が短く下部構造と同じ地域のコンクリートが使われていると思われる橋梁の桁を確認したところ，比較的軽微ではあるものの，ASR が原因と疑われる橋軸方向のひび割れが確認されたものがあった（**写真-3.9**）。このため，あらためて過去の資料も振り返ったが，ASR は下部構造に生じやすいという意識が強く，上部構造についての記録は十分になかった。このため，上部構造のひび割れの発生時期は不明である。



写真-3.6 橋台端部の劣化状況



写真-3.7 橋脚はり部の劣化状況



写真-3.8 擁壁の劣化状況



写真-3.9 橋梁桁部の劣化状況

【参考文献】

1) 独立行政法人土木研究所 : 土木研究所資料　アルカリ骨材反応により劣化したコンクリート構造物の追跡調査，2005.2

4. 考察

4.1 劣化状態の推移

ASR により劣化した構造物の劣化の進行状況を把握するため，現存している構造物について過去調査における劣化度の判定が 2025 年調査時点でどのように変化したか，その推移を整理した。**図-4.1** および**図-4.2** に 2025 年調査時点で現存している構造物の判定の推移を示す。なお，**図-4.1** および**図-4.2** は，2003 年および 2025 年調査時点で補修必要，検討必要または経過観察のいずれかに判定が推移した構造物のみを対象とした。

4.1.1 1985 年調査時点で補修必要と判定された構造物

図-4.1 より，1985 年調査時点で補修必要と判定された構造物は 21 件であったが，2003 年調査時点では 14 件（67%）が経過観察に推移していた。さらに，2025 年調査時点では，供用開始より 42 年～65 年が経過しているが，18 件（86%）が経過観察に推移した。また，1985 年調査時点では，いずれも補修履歴がなかったのに対し，2025 年調査時点では，21 件のうち 17 件（81%）に補修履歴があった。補修履歴のある構造物のうち 3 件は，補修必要または検討必要と判定されており，一部には補修箇所の再劣化や未補修箇所の劣化が発生していた。これらの構造物に施されている補修工法は，表面被覆工法またはひび割れ注入工法であり，いずれも水掛かりを受ける箇所であった。表面被覆工法が施された構造物は，海岸線に隣接する橋台であり，被覆材が破れてひび割れが露出していることから補修必要と判定した（**写真-4.1(a)**）。ひび割れ注入工法が施された構造物は，橋脚梁部で上部から水分の影響を受ける環境にあり，ひび割れ注入箇所に再びひび割れが生じたり，未補修箇所に新たなひび割れが生じたりしていた（**写真-4.1(b)**）。

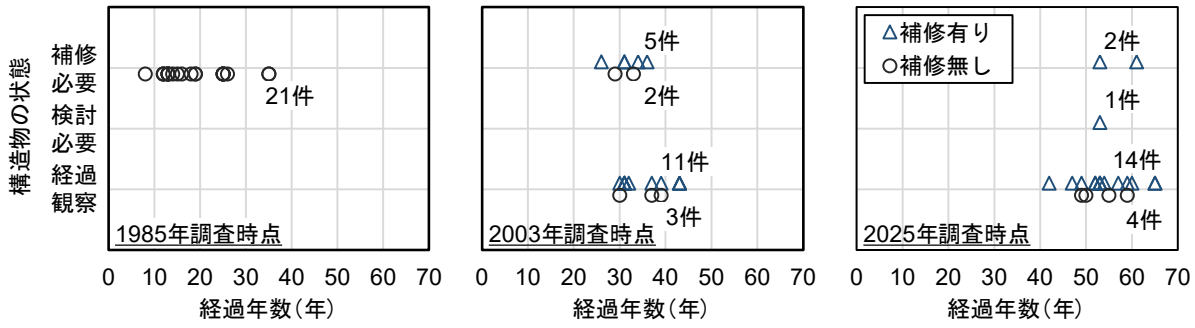


図-4.1 1985 年調査時点で補修必要と判定された構造物の判定の推移

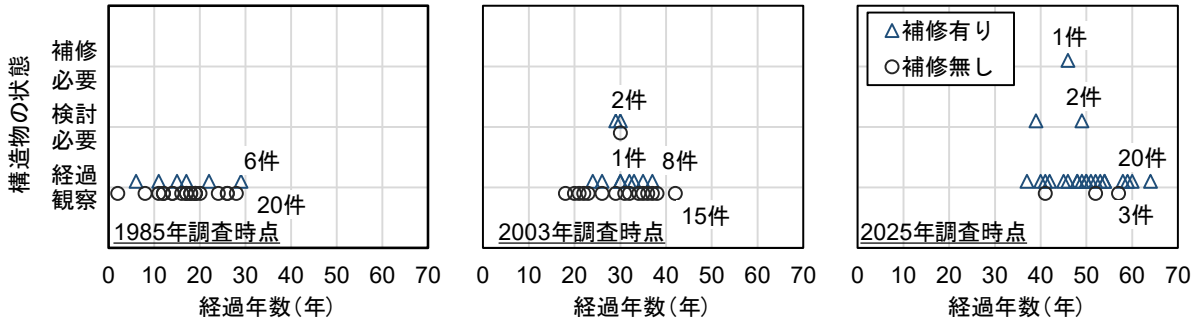
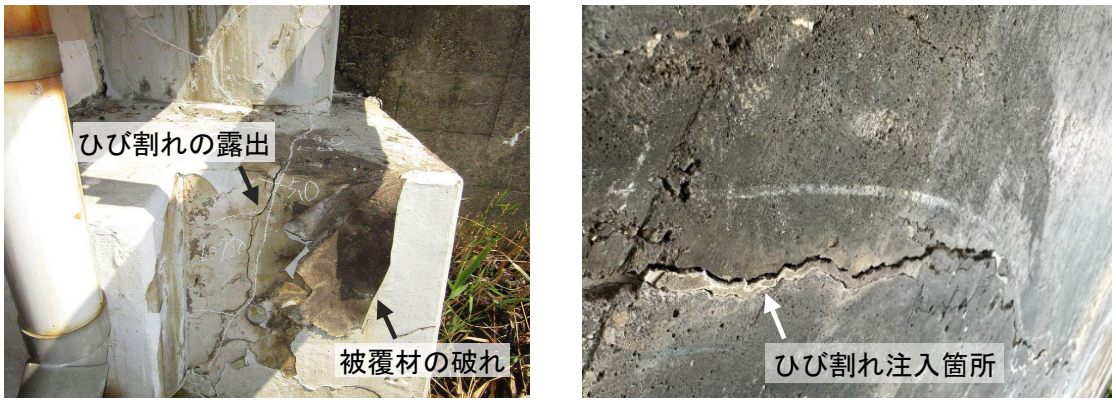


図-4.2 1985 年調査時点で経過観察と判定された構造物の判定の推移



(a) 表面被覆工法の場合　　(b) ひび割れ注入工法の場合

写真-4.1 補修箇所の再劣化状況

4.1.2 1985 年調査時点で経過観察と判定された構造物

図-4.2 より，1985 年調査時点で経過観察と判定された構造物は 26 件であり，2003 年調査時点では 23 件（88%）が経過観察のまま推移した。さらに，2025 年調査時点では，供用開始より 37 年～64 年が経過しているが，2003 年調査時点と同様に 23 件（88%）が経過観察のまま推移した。また，1985 年調査時点では，26 件のうち 6 件（23%）の構造物に補修履歴があったのに対し，2025 年調査時点では，23 件（88%）に補修履歴があった。補修履歴のある構造物のうち 3 件は，補修必要または検討必要と判定されており，補修箇所の再劣化や未補修箇所の劣化が発生していた。劣化が見られた箇所に施されている補修工法は，いずれもひび割れ注入工法であり，水掛かりを受ける橋脚および橋台であった。劣化の状況は，ひび割れ注入箇所や新規のひび割れから水分が浸入し，鋼材腐食が生じているものや凍結融解作用による影響を受けた状態であった。一方，2003 年調査時点で経過観察と判定されかつ補修履歴がなかった 15 件中 6 件は数年のうちに補修されていた。これらの構造物は，劣化の程度が比較的軽微な状態で補修がされたものと推察される。これらについて 2003 年調査時点の状態を確認すると，6 件中 5 件は 1985 年調査時点と比較してひび割れの数が増えていたり，広範囲に発生したりしているものの，ひび割れ幅が小さいあるいはひび割れが析出物によって塞がっていることから，直ちに補修の必要がないと判定されたものであった。

4.1.3 劣化状態の推移のまとめ

経過観察と判定された構造物は，1985 年調査時点では 47 件中 26 件であったのに対して，供用開始より 37 年以上が経過した 2025 年調査時点では 41 件となり，大部分の構造物が経過観察の状態に推移していた。なお，現存していない構造物数は，2003 年調査時点から増加していなかった。これらの結果から，ASR による膨張が収束しているかは明確には分からないが，ASR による劣化は，時間経過に伴い一様に進行し続けるのではなく，ある程度の期間が経過すると進行が緩やかになる傾向があると考えられる。一方，一部の構造物では，水掛かりを受ける箇所で再劣化も見られたことから，供用開始から 40 年以上が経過している場合でも，環境条件や補修材の種類などによっては補修箇所が再劣化する可能性がある。

4.2 補修・補強の効果

補修・補強後の経過を把握するため，2025 年調査時点での判定が，ASR ではない，情報不足，現存せずを除く 50 件の構造物を対象として，補修・補強を実施した時期ごとに区分し，2025 年調査時点における劣化度の判定や構造物の種類，置かれている環境，用いられる補修・補強工法などの特徴を整理した（**表-4.1**, **表-4.2**）。なお，一部の構造物では，補修材料や補修時期の詳細が不明であったため，目視調査による評価を基本とし，補修・補強の効果について考察を行った。

4.2.1 2003 年調査以降には補修・補強していない構造物

2003 年調査以前に補修・補強しているが，2003 年調査以降には補修・補強していない構造物は 12 件であった。構造物の種類は，橋脚，橋台および擁壁である。これらの構造物のうち，経過観察と判定された 11 件は，少なくとも 20 年程度は追加の補修・補強を行っていないにもかかわらず，状態を維持していることから，補修・補強は有効であったと考えられる。適用された工法は，表面被覆工法や巻立て工法，ひび割れ充填工法などの他，これらを併用したものであった。最も適用件数が多かった表面被覆工法については，6 件中 1 件を除いて，現在も被覆材が概ね健全な状態であった（**写真-4.2(a)**）。被覆材が損傷する原因としては，水分の浸入に起因した ASR による膨張の進行や被覆材の付着力の低下が考えられる。そのため，これらの構造物は，膨張が収束してから補修が行われた，あるいは水分の浸入を遮断できていたと考えられる。次に適用件数が多かった巻立て工法は，いずれも橋脚に対して用いられていた。巻き立て工法の主な目的は，耐震補強であったと考えられるが，ASR によるコンクリートの膨張が物理的に拘束されたことから，結果的に

表-4.1　補修・補強の実施時期による構造物の区分

区分	補修の有無		構造物数（件）
	2003 年以前	2003 年以後	
(1)	有り	無し	12
(2)	有り	有り	15
(3)	無し	有り	15
(4)	無し	無し	8

表-4.2　各区分における内訳（件）

(a) 劣化度の判定による内訳

	(1)	(2)	(3)	(4)
補修必要	0	2	1	0
検討必要	1	1	1	0
経過観察	11	12	13	8

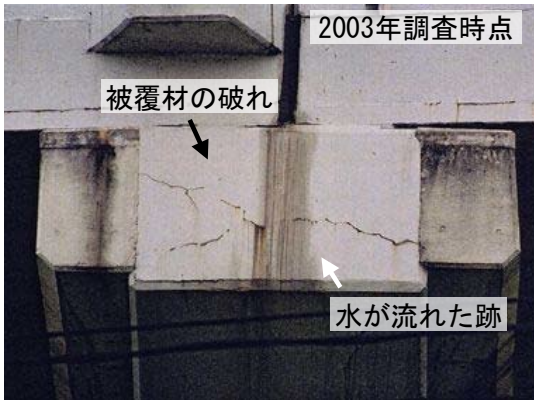
(b) 補修工法による内訳※

	(1)	(2)	(3)
表面被覆工法	6[2]	11[2]	1
ひび割れ注入工法	2	1	10[2]
ひび割れ充填工法	3[1]	0	1[1]
巻き立て工法	3[1]	2[1]	0
その他	0	3[1]	6[3]

※[ ]内は他の工法と併用している構造物の件数とする。
なお，(1), (2)は 2003 年調査時点で，(3)は 2025 年調査時点で確認された補修・補強工法の内訳を示している。



(a) 被覆材の残存状況



(b) 上部構造からの水の流下状況 [1)]





(c) 水分の浸入の対策状況 （左：2003 年調査時点 [1)]，右：2025 年調査時点）

写真-4.2　表面被覆工法に関する各状況

ASR による劣化にも効果があったと推察される。

これらの構造物の補修時期は，遅い場合でも供用開始から 35 年程度までであったことから，ASR による劣化の進行が緩やかになる前に補修されているものもあったと推察されるが，対策後も比較的良好な状態を維持しているため，水分の浸入を遮断することおよび膨張を物理的に拘束することの効果があったと考えられる。

4.2.2 2003 年調査の前後で補修・補強している構造物

2003 年調査の前後で補修・補強している構造物は 15 件であり，そのうち 補修必要が 2 件，検討必要が 1 件，経過観察が 12 件であった。これらの構造物では，少なくとも 1 回は補修・補強箇所が再劣化したと考えられる。15 件中 11 件の補修方法が表面被覆工法で，うち 10 件では，被覆材が撤去され，別の工法で補修・補強が行われており，1 件では補修材が破れて劣化が生じていた。4.2.1 で述べた被覆材が健全な状態を保っていた構造物と比較すると，構造物の供用年数や補修の実施時期に明確な差は見られなかったが，再劣化していた箇所に上部から水が流れた跡が見られたり（**写真-4.2(b)**），被覆材が撤去された箇所にホースや水きりが新たに設置されていたりしている（**写真-4.2(c)**）ことから，水分が浸入したことで，ASR による膨張が促進されたこと，あるいは被覆材が損傷したことが再劣化の原因と推察される。

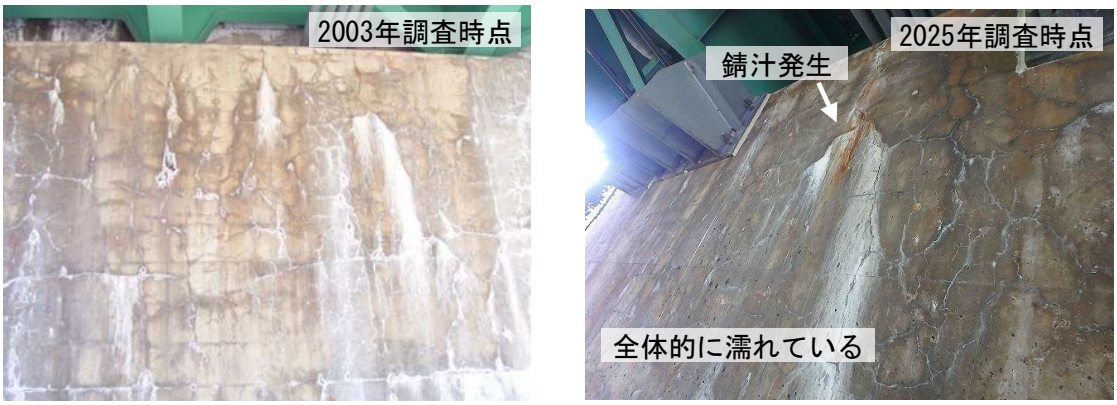


写真-4.3 水分の浸入による再劣化状況（左：2003 年調査時点 [1)]，右：2025 年調査時点）

4.2.3 2003 年調査以降のみ補修・補強している構造物

過去調査以降のみ補修・補強している構造物は 15 件であり，そのうち 13 件が経過観察であった。一方，補修必要および検討必要がそれぞれ 1 件あり，これらは補修後，比較的早期に再劣化したと考えられる。補修から本調査時点までの経過年数は，12 年または 14 年であり，補修方法は，ひび割れ注入工法またはひび割れ注入工法と断面修復工法の併用であった。再劣化した理由として，補修箇所に限らず全体的にひび割れが進行していること，構造物表面が全体的に濡れていることから，ASR による膨張挙動が収束していない中，上部構造から流下する水分を十分に抑制できず，構造物の内部に浸入した水分によって膨張が進展したためと推察される（**写真-4.3**）。

4.2.4 補修・補強をしていない構造物

本調査時点で過去に一度も補修･補強をしていない構造物は 8 件であり，全てが 経過観察の判定であった。構造物の種類としては，擁壁が 4 件，橋台が 3 件，防波堤が 1 件であった。また，構造物の供用開始年は，1964 年～1982 年に分散しており，明確な傾向は見られなかった。

4.2.5 補修・補強の効果のまとめ

2003 年調査時点から劣化の進行が見られなかった箇所では，水分の浸入を遮断することや膨張を物理的に拘束することの効果が確認された一方，劣化の進行が見られた箇所では，水分が浸入した形跡が確認された。また，劣化の進行の有無に対して，構造物の種類や供用年数，補修の実施時期などに明確な傾向は見られなかった。ASR による劣化の継続の要因は必ずしも明瞭ではないが，個々の部位ごとの水掛かりの状況などの環境条件や適用された補修の方法などのわずかな違いが影響したと推察される。

【参考文献】

1) 独立行政法人土木研究所：土木研究所資料　アルカリ骨材反応により劣化したコンクリート構造物の追跡調査，2005.2

5. まとめ

本研究では，過去にASRによる劣化が疑われ追跡調査が実施されているASR抑制対策以前に建設された構造物69件を対象に，再度追跡調査を実施し，ASRによる劣化の進行状況や補修・補強の効果について整理した。

得られた知見を以下に示す。

(1) 供用開始から37年～65年が経過している調査対象の大部分が経過観察の状態に推移していた。また，現存していない構造物数は，2003年調査時点から増加していなかった。

(2) 劣化の進行が見られなかった箇所では，水分の浸入を遮断することや膨張を物理的に拘束することの効果が確認され，劣化の進行が見られた箇所では，水分が浸入した形跡が確認された。

(3) 劣化の進行の有無に対して，構造物の種類や供用年数，補修の実施時期などに明確な傾向は見られなかった。

以上より，ASRによる劣化は，ある程度の期間が経過すると進行が緩やかになると考えられる。ただし，水掛かりを受ける箇所などでは，供用開始から40年以上が経過している場合でも再劣化する可能性はある。

資　　料

構造物カルテ

構造物カルテリスト

整理番号	竣工年度	構造物種類	調査年度			頁
A9901	1958	橋脚	1999	2003	2022	1
B9902	1971	橋台	1999	2003	2021	5
C9903	1973	橋脚	1999	2003	2019	9
C9904	1980	橋台	1999	2003	2019	13
D8503	1973	水門	1985	2003	－	17
D8504	1970	堰	1985	2003	－	21
D8506	1983	橋脚	1985	2003	2023	25
D8507	1977	橋台	1985	2003	2022	29
D8508	1969	橋台	1985	2003	－	33
D8509	1960	橋脚	1985	2003	2021	37
D8510	1968	橋台	1985	2003	2022	41
D8511	1974	橋台	1985	2003	2022	45
D8512	1969	橋台	1985	2003	2022	49
D8513	1964	橋台	1985	2003	2024	53
D8514	1966	橋台	1985	2003	2020	57
D9905	1985	橋台	1999	2003	2022	61
D9906	1970	橋台	1999	2003	2019	65
D9907	1971	橋台	1999	2003	－	69
D9908	1973	擁壁	1999	2003	2022	73
D9909	1974	擁壁	1999	2003	2024	77
E8518	1967	擁壁	1985	2003	－	81
E8536	1971	橋脚	1985	2003	2019	85
F8537	1974	橋脚	1985	2003	2024	89
F8539	1977	橋脚	1985	2003	2019	93
F8540	1979	流路工	1985	2003	－	97
F8542	1979	橋脚	1985	2003	2023	101
F8801	不明	橋脚	1988	2003	－	105
F9910	1964	ボックスカルバート	1999	2003	2021	109
G8552	1972	橋台	1985	2003	2021	113
G8553	1973	橋脚	1985	2003	2020	117
G8802	1973	橋脚	1988	2003	2022	121
G9911	1977	橋台	1999	2003	2023	125
G9912	1964	擁壁	1999	2003	2024	129
G9913	1973	擁壁	1999	2003	2024	133
G9914	1982	擁壁	1999	2003	2023	137

整理番号	竣工年度	構造物種類	調査年度			頁
H8554	1979	橋台	1985	2003	2020	141
H8555	1973	橋台	1985	2003	2020	145
H9915	1978	橋脚	1999	2003	2021	149
H9916	1981	擁壁	1999	2003	－	153
J9917	1981	橋脚	1999	2003	2023	157
N8515	1966	擁壁	1985	2003	2025	161
N8516	1965	橋台	1985	2003	2025	165
N8517	1972	橋脚	1985	2003	2025	169
O8519	1959	橋台	1985	2003	－	173
O8520	1972	橋脚	1985	2003	2025	177
O8521	1968	橋台	1985	2003	－	181
O8522	1972	橋台	1985	2003	2025	185
O8523	1967	橋脚	1985	2003	2025	189
O8537	1973	橋台	1985	2003	2025	193
O8538	1966	橋台	1985	2003	2025	197
O8526	1971	橋台	1985	2003	2025	201
O8527	1960	橋脚	1985	2003	2025	205
O8528	1966	橋台	1985	2003	2025	209
O8529	1970	橋台	1985	2003	2025	213
O8530	1959	橋台	1985	2003	－	217
O8531	1961	橋台	1985	2003	2025	221
O8532	1960	橋台	1985	2003	2025	225
O8536	1968	橋台	1985	2003	2025	229
O8533	1969	橋台	1985	2003	2022	233
O8534	1960	橋台	1985	2003	2021	237
O8535	1967	橋台	1985	2003	2020	241
P8545	1973	擁壁	1985	2004	－	245
P8546	1973	擁壁	1985	2004	－	249
P8547	1973	橋台	1985	2004	2025	253
P8548	1977	砂防ダム	1985	2004	－	257
P8549	1973	防波堤	1985	2004	2025	261
P8550	1973	擁壁	1985	2004	2025	265
P8551	1974	水門	1985	2004	－	269
P8552	1974	擁壁	1985	2004	－	273

1985年調査時点

構造物コード　　A9901

基本データ

1. 所在地　　：北海道上川郡
2. 路線名・河川名　：国道39号
3. 構造物種類　　：橋梁
4. 竣工年　　：1958年
5. 周辺環境　　：海岸線より60km

全景写真無し

調査結果

1. 調査年月　　：1999年9月
2. 調査位置　　：P2橋脚
3. 補修の有無　　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　　：

・はく離：角欠け1～2ヵ所
豆板・変色無し，さび汁無し，鋼材露出無し，浮き無し



劣化状況の評価

・上部工のジョイント部からの水の影響により，壁式橋脚端部のｺﾝｸﾘｰﾄ（沓隠し？）がひび割れている。ひび割れ幅についての明記は無いが，写真からは白い析出物が染み出している跡が見られ，ひび割れをふさいでいる状況も考えられる。よって，”経過観察”と判定。なお，角部は凍害によるスケーリングが見られ，この部分は凍害とアル骨の複合劣化が生じていると考えられる。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　A9901

調査結果

1. 調査年月　：2003年6月
2. 調査位置　：P2橋脚
3. 補修の有無　：前回調査以降補修無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：親柱等の骨材の露出状況から骨材は川砂利と判断される。対象構造物であるP2橋脚にひび割れは見受けられない。

全景写真無し

劣化状況の評価

・劣化部位の写真がなく判断が困難。調査者のコメントから判断すると，ひび割れに進展はなく，竣工から45年が経過してなおこの程度の損傷にとどまっていることを考えると，”経過観察”と判定。



劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　　A9901

調査結果

1. 調査年月　　：2022年6月
2. 調査位置　　：P2橋脚
3. 補修の有無　　：無し
4. 補修方法　　：―
5. 最大ひび割れ幅　：1.0mm
6. 調査者所見　　：

・ 判定：ASRではないが、劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：2017年の定期点検調書では、鉄筋の露出は指摘されていなかった。



劣化状況の評価

橋脚側面では広範囲に鉄筋の露出が確認されており，2003年調査から劣化の進行が認められる。また，劣化部位は雨水や日照の影響を受けやすい環境にあり，伸縮装置からの漏水も継続している。一方，ASR単独の劣化によってここまでの鉄筋露出が生じることは考えにくく，少なくとも2003年調査からの劣化の進行については，凍害が主たる要因と推察される。よって，″ASRではない″と判定した。





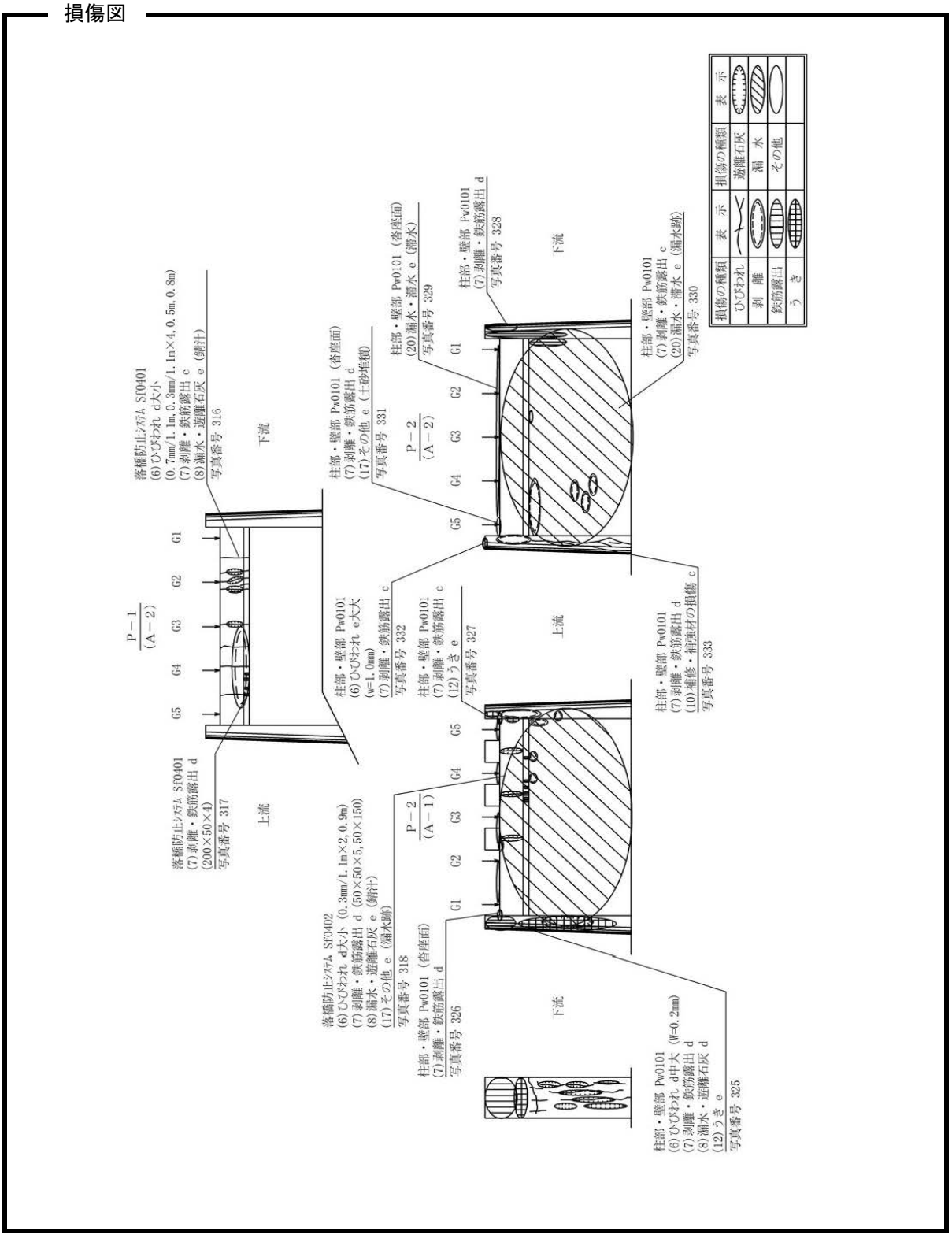


判定結果 ⟶ **ASRではない**

2025年調査時点

構造物コード　　A9901

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　B9902

基本データ

1. 所在地　：青森県青森市
2. 路線名・河川名　：一般国道7号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1971年
5. 周辺環境　：海岸線より3.5km



調査結果

1. 調査年月　：1999年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・ はく離：うろこ状はく離3～5ヵ所
鋼材露出：主鉄筋1～2ヵ所
豆板・変色無し，さび汁無し，浮き無し



劣化状況の評価

・ 橋台の沓座拡幅部に亀甲状のひび割れが見られる。ひび割れ損傷図の結果より，ひび割れの範囲は部分的であり，当時の調査者によるコメントでも追跡調査，記録を行えばよいという判定がされているため，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　B9902

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：前回調査時からほとんど進んでいないが，今年度補修を行う予定である。



劣化状況の評価

・写真が非常に部分的であるが，撮影箇所だけで判断すると，ひび割れは進展していないように見える。調査者の判定も参考とし，”経過観察”と判定。



劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　B9902

調査結果

1. 調査年月　：2021年8月
2. 調査位置　：A1橋台
3. 補修の有無　：有(2021)
4. 補修方法　：断面修復、ひび割れ充填
5. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所・未補修箇ともにほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

橋台側面については断面修復されており，変状は認められないことから，″経過観察″と判定した。なお，落橋防止装置の設置に伴い橋台前面が拡幅されているため，判定は側面のみで行った。



2016.05時点



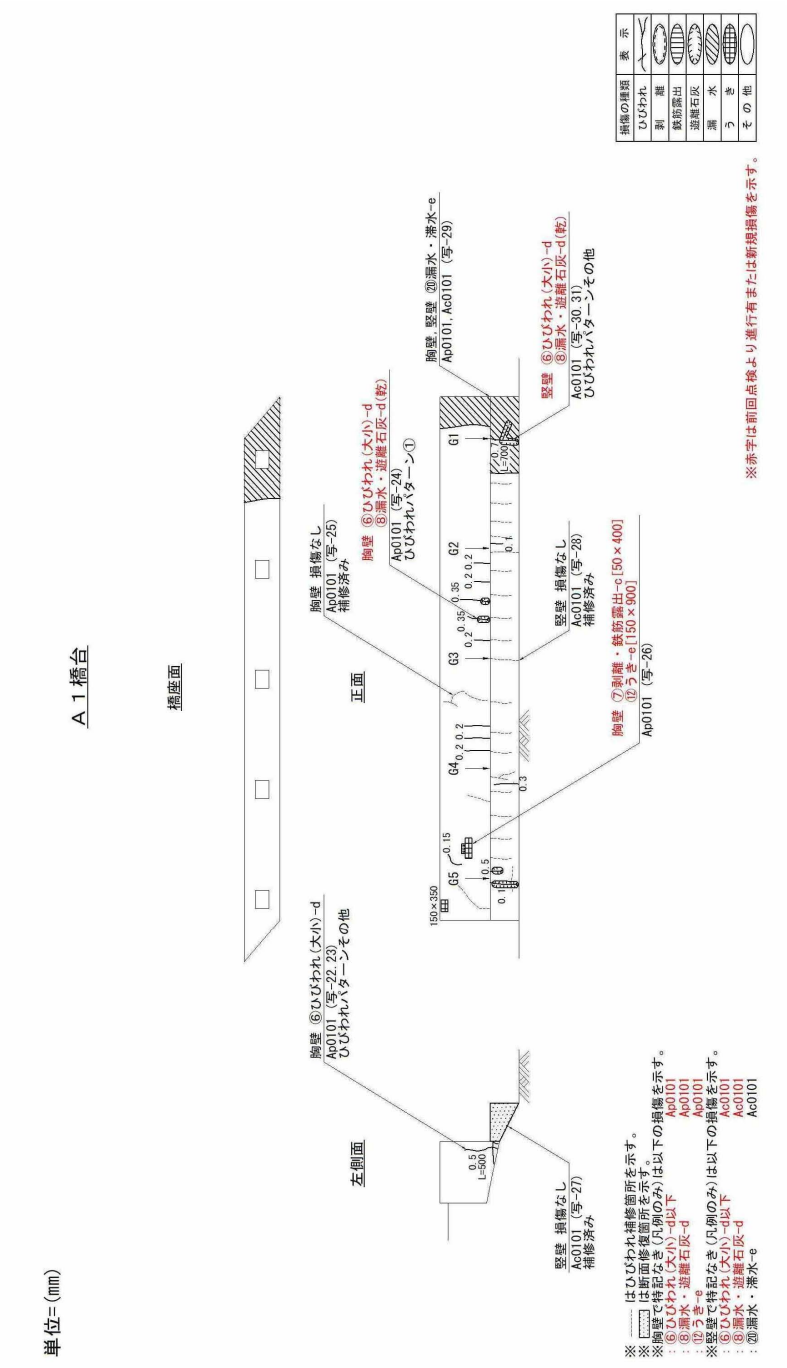


判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　B9902

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　C9903

基本データ

1. 所在地　：長野県上水内郡
2. 路線名・河川名　：国道18号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より40km



調査結果

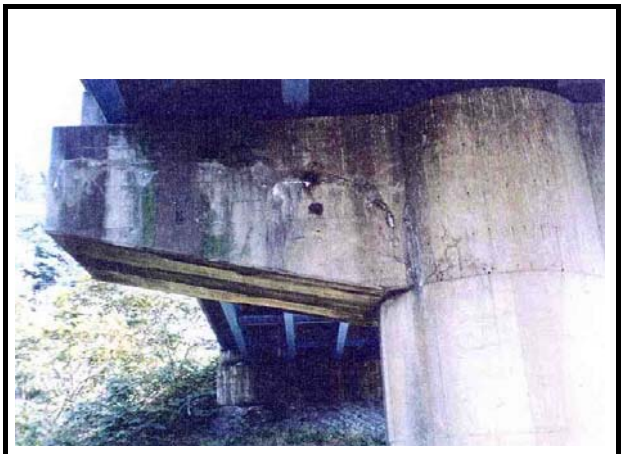
1. 調査年月　：1999年
2. 調査位置　：橋脚はり部
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（3～5本，延長約10m）
5. 調査者所見　：

・ はく離（角かけ）は建設機械の衝突と推察。
外観：変色あり
はく離無し，さび汁無し，鋼材露出無し，浮き無し



劣化状況の評価

・ 橋脚はり部に水平方向ひび割れが発生しているが，ひび割れは白い析出物により塞がっている状況である。写真のひび割れの状況から判断し，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　C9903

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：A1,A2橋台，P1,P2橋脚
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 橋台・橋脚判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。



劣化状況の評価

・ 前回調査時は橋脚はり部のみであったが，今回調査は橋台も追加して調査している。橋台では竪壁前面，ｳｲﾝｸﾞに亀甲状のひび割れが見られた。橋脚は，はり部全面にひび割れが発生していた。現時点では，目視調査だけでは明確な判定が困難であるため，”検討必要”と判定。







判定結果 → 検討必要

2025年調査時点

構造物コード　C9903

調査結果

1. 調査年月　：2019年10月
2. 調査位置　：A1,A2橋台・P1,P2橋脚
3. 補修の有無　：有(2007)
4. 補修方法　：ひび割れ注入、断面修復
5. 最大ひび割れ幅　：1.0mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：2014年に発生した最大震度6弱の地震による損傷が下部構造各所にみられる。



劣化状況の評価

水掛かりを受ける橋脚梁部では，かぶりコンクリートの剥離や鉄筋の露出が見られ，凍害との複合劣化も疑われる。第三者被害の恐れもあることから，″補修必要″と判定した。一方，橋台については，劣化の進行が認められるものの，その程度は小さいものと思われる。





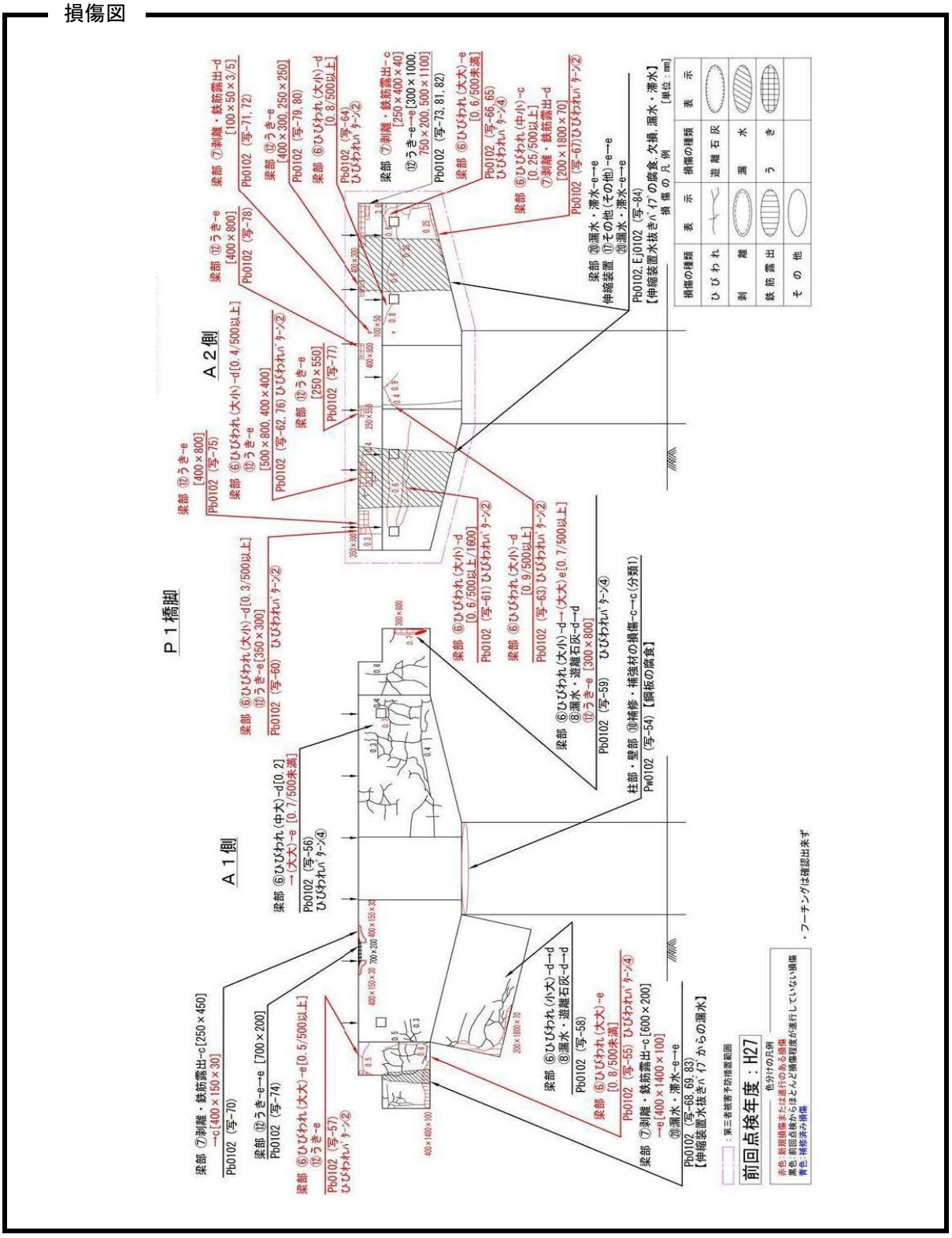


判定結果 ⟶ **補修必要**

2025年調査時点

構造物コード　C9903

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　C9904

基本データ

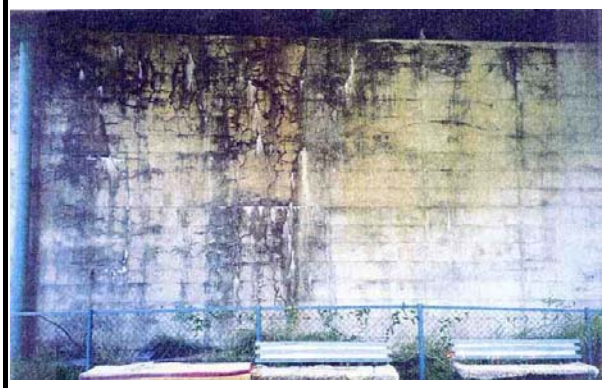
1. 所在地　：長野県上水内郡
2. 路線名・河川名　：国道19号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1980年
5. 周辺環境　：海岸線より60km



調査結果

1. 調査年月　：1999年
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・ ひび割れの亀甲状延長見積もり不可能。
外観：変色あり
さび汁：1～2ヵ所あり
はく離無し，鋼材露出無し，浮き無し



劣化状況の評価

・ 橋台の前面に亀甲状のひび割れが見られる。ひび割れの発生箇所は茶色に変色している。ひび割れは広範囲であるが，幅はさほど大きくないように見える。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　C9904

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：橋台，橋脚
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 橋台・橋脚判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない
・ ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・ 前回調査時は橋台竪壁前面のみであったが，今回調査は橋脚も調査している。橋台では竪壁前面に亀甲状のひび割れが多数見られるが，ひび割れからは白い析出物が浸出しており塞がっている状態であった。また，橋脚ははり部側面にひび割れが発生しているがひび割れ幅が小さい。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　C9904

調査結果

1. 調査年月　：2019年10月
2. 調査位置　：A1,A2橋台、P1,P2,P4橋脚
3. 補修の有無　：有(2003,2005)
4. 補修方法　：鋼鈑巻立て(P4),ひび割れ注入(A1)
5. 最大ひび割れ幅　：0.6mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

A1橋台前面には，遊離石灰を伴う亀甲状のひび割れが広範囲に確認され，局所的に錆汁も見られる。また，定期点検（R2）によれば，前回点検時と比較して損傷の進行が記述されている。特に落橋防止装置付近では，広範囲なひび割れが見られ，アンカーボルトの定着への影響が懸念されることから，補修の要否を検討する必要があると考え，"検討必要"と判定した。





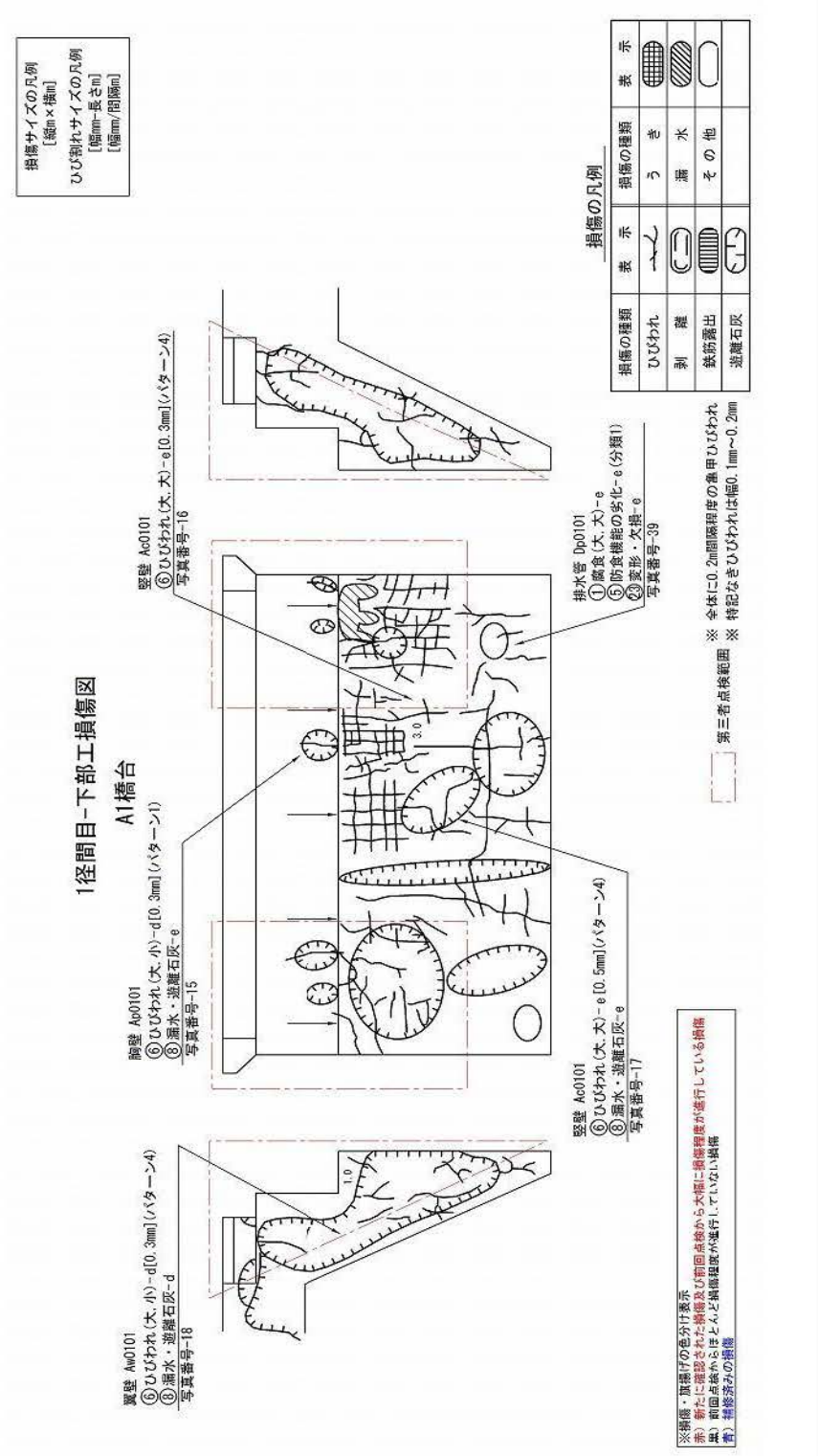


判定結果 → **検討必要**

2025年調査時点

構造物コード　C9904

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D8503

基本データ

1. 所在地　：長野県長野市
2. 路線名・河川名　：千曲川
3. 構造物種類　：水門
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より57km



調査結果

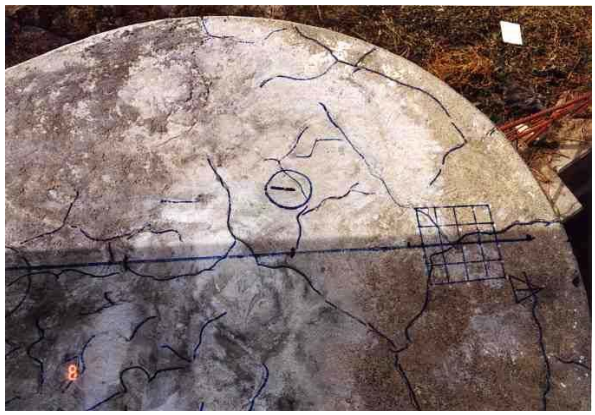
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸側堰柱
3. 補修の有無　：有（表面被覆）
4. 最大ひび割れ幅　：10mm（調査者による）
5. 調査者所見　：

・特に無し



劣化状況の評価

・表面はモルタルで補修されているようにも見受けられる。ひび割れ幅は最大で10mmと記載されているが，添付されている写真10数枚からは，そのひび割れ部分を確認することはできなかった。ひび割れの状態をみるかぎり，広い範囲に広がっているが，幅は小さい。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　D8503

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：水門
3. 補修の有無　：有（2000年）
4. 補修方法　：ひび割れ注入+表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：1.0mm
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所の劣化が見られる
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し

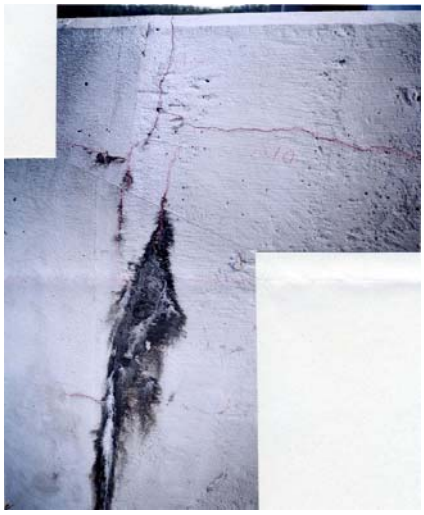


劣化状況の評価

・ひび割れ幅が大きく，全体に広がっていたため補修を行ったと推定。ひび割れが若干発生しているが，アルカリ骨材反応によるものか判断が困難である。現時点では，構造物の健全性は保たれているといえる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D8503

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **情報不足**

2025年調査時点

構造物コード　D8503

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　D8504

基本データ

1. 所在地　：新潟県新潟市
2. 路線名・河川名　：関屋分水路
3. 構造物種類　：堰
4. 竣工年　：1970年
5. 周辺環境　：海岸線より10m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.85mm
5. 調査者所見　：

・ 左岸橋台側面の河川側-側面全体にひび割れが広がっており，遊離石灰が全体的に付着している。同条件と思われるP1の健全な面と非常に対象的である。



劣化状況の評価

・ ひび割れ幅は最大で0.85mmと記載されているが，写真からはそれ以上のひび割れも確認できた。ひび割れ幅が大きな場所では，部分的には，ひび割れ注入により外部からの劣化因子を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

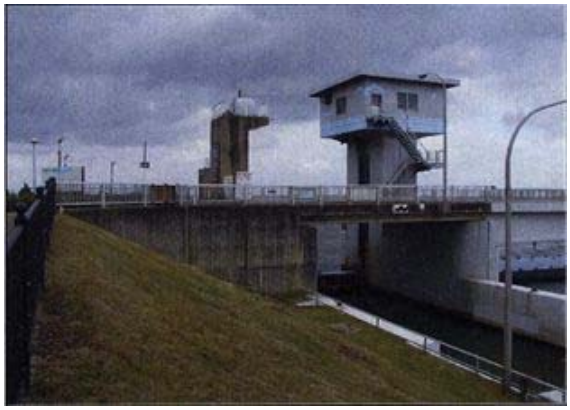
2003年調査時点

構造物コード　　D8504

調査結果

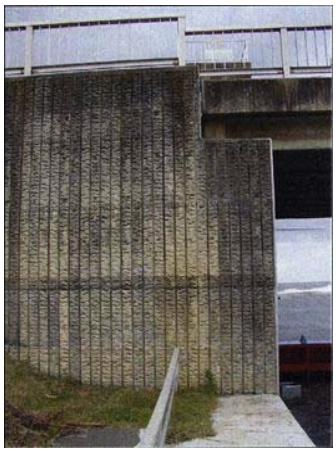
1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：改築（1991年）
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：―
6. 調査者所見　：

・既設橋台は1991年に全て取り壊し撤去し，全面的に作り替えている。



劣化状況の評価

・1985年の調査時点で，ひび割れが広がっており，補修が必要と判断された。改築理由としては，アルカリ骨材反応による劣化が進行したためと推定される。







判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　D8504

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **現存せず**

2025年調査時点

構造物コード　D8504

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　D8506

基本データ

1. 所在地　：新潟県新潟市
2. 路線名・河川名　：一般国道7号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1983年
5. 周辺環境　：海岸線からの距離は不明



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：P3橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明
5. 調査者所見　：

・ 主なクラックは，はり部と躯体との付け根付近と，はり中間部に分布したクラック及びはり天端より縦に伸びるクラックでいずれも全面。



劣化状況の評価

・ 調査者の所見では全面にクラックが発生しているとの記述があるが，写真で判断する限り，ひび割れ幅の幅は小さい。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　D8506

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：P3橋脚
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

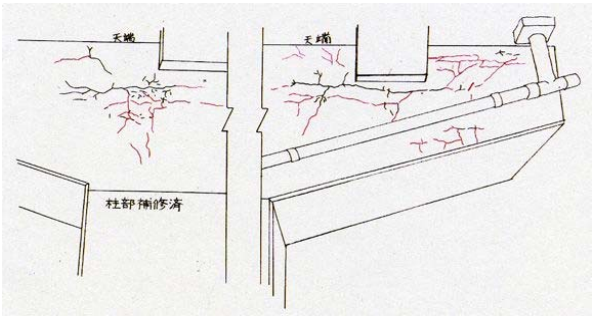
・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・前回の調査（竣工後12年）から18年が経過したが，劣化の進行としては，ひび割れの数がわずかに増えた程度である。また，ひび割れ幅も小さいように見受けられる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D8506

調査結果

1. 調査年月　：2023年12月
2. 調査位置　：P3橋脚
3. 補修の有無　：有（2004, 2017）
4. 補修方法　：表面被覆、断面修復
5. 最大ひび割れ幅　：0.8mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

2003年調査時点で変状が確認できなかった梁部下面にもひび割れが生じており，劣化の進行が認められる。一方，定期点検（R6）によれば，前回点検時と比較して大きな変化は見られず，コンタクトチップによる観察も実施されていることから，"経過観察"と判定した。





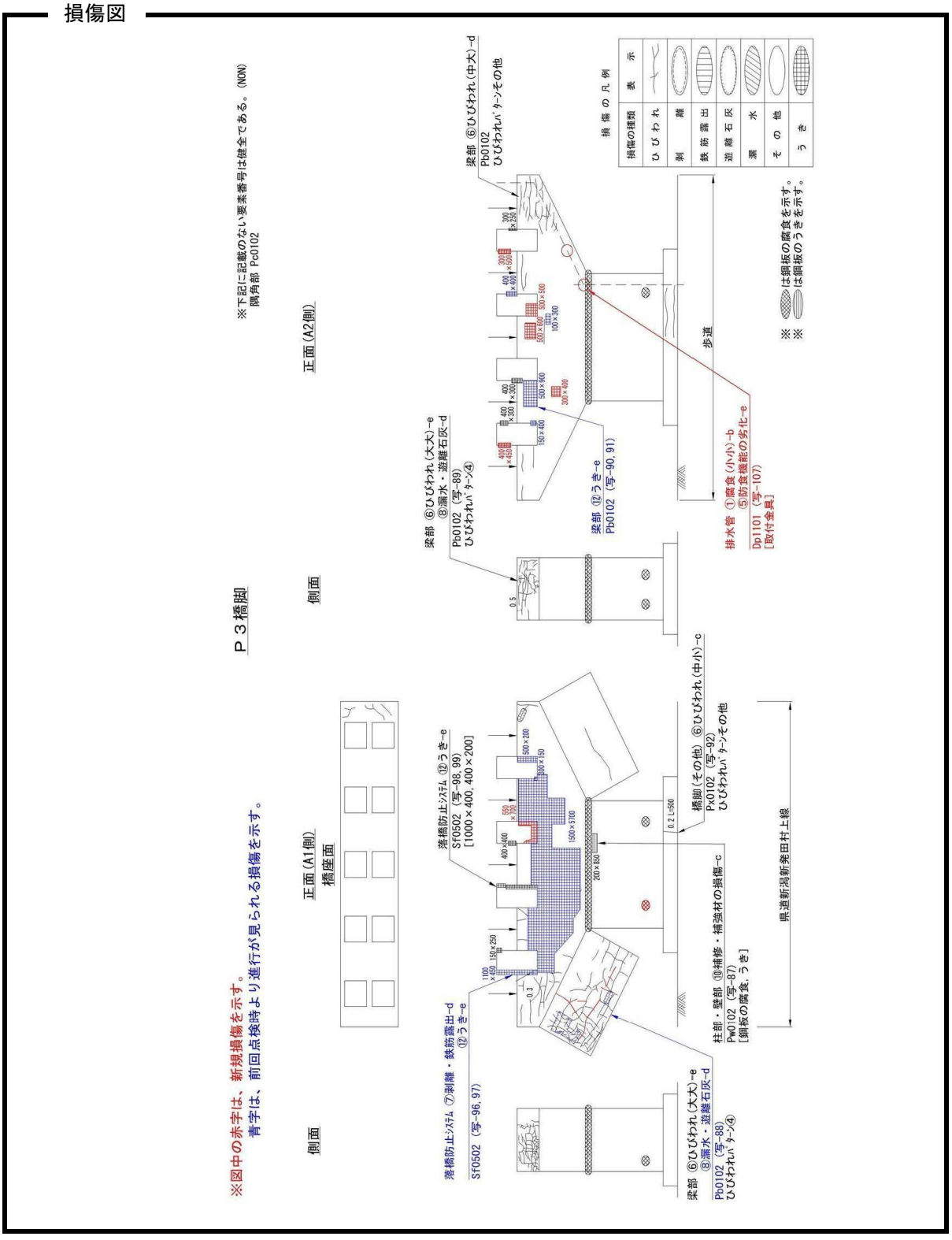


判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D8506

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D8507

基本データ

1. 所在地　：新潟県新潟市
2. 路線名・河川名　：一般国道8号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1977年
5. 周辺環境　：海岸線より3.5km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.08mm
5. 調査者所見　：

・ A2橋台前面の張出部にクラックが多く見られた。川より50m以上離れており，桁下空間は高い。クラックは張出し部の中間部に多く，両張出し部とも同様であった。クラックは横方向より枝状に発生している。



劣化状況の評価

・ はり部にひび割れが発生しているが，ひび割れ幅が最大でも0.08mmと小さいため，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　D8507

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：左岸橋台（推定，明記無し）
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

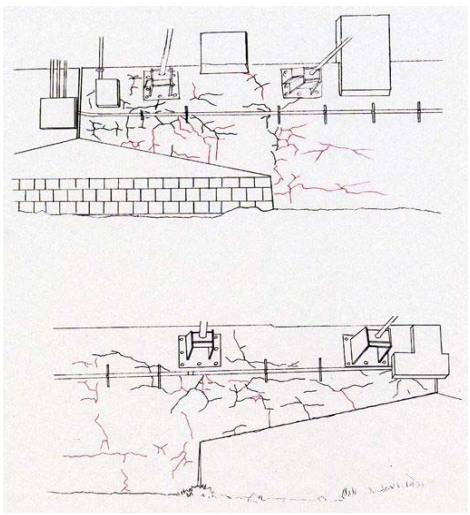
・判定：ｱﾙｶﾘ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・ひび割れ本数が前回調査時に比べて増えているが，前回同様ひび割れ幅は大きくないように見受けられる。前回の調査から18年が経過したにもかかわらず，劣化状況に大きな変化はないと考えられることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8507

調査結果

1. 調査年月　：2022年11月
2. 調査位置　：A1橋台
3. 補修の有無　：有（2006年）
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所は健全だが、未補修箇所に劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

2003年調査時点と比較するとひび割れ本数が増えているため，劣化の進行が認められる。一方，定期点検（R5）によれば，前回点検時と比較して大きな変化は見られず，ひび割れ幅も小さいことから，"経過観察"と判定した。





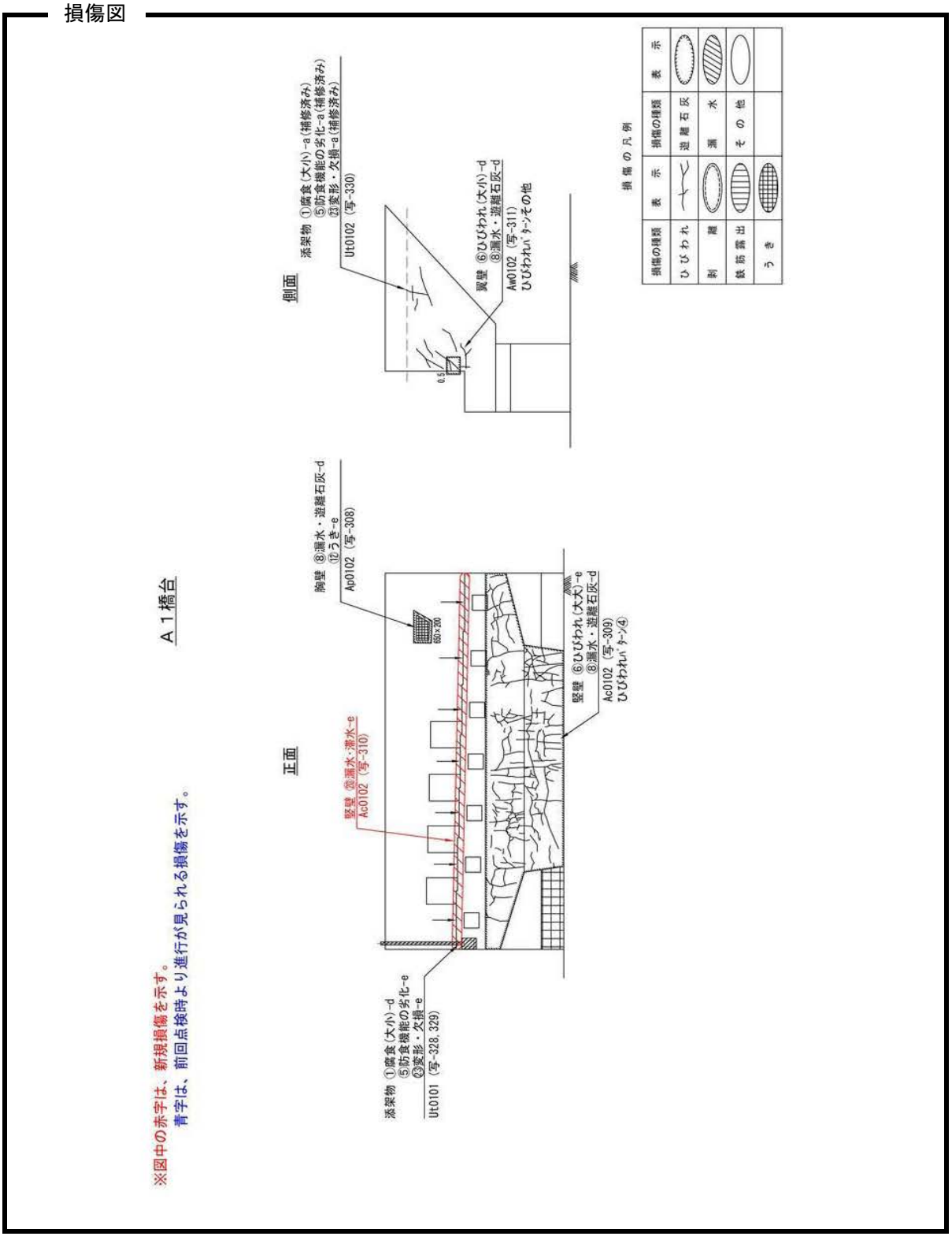


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8507

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D8508

基本データ

1. 所在地　：新潟県新潟市
2. 路線名・河川名　：国道116号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1969年
5. 周辺環境　：海岸線より2.5km



調査結果

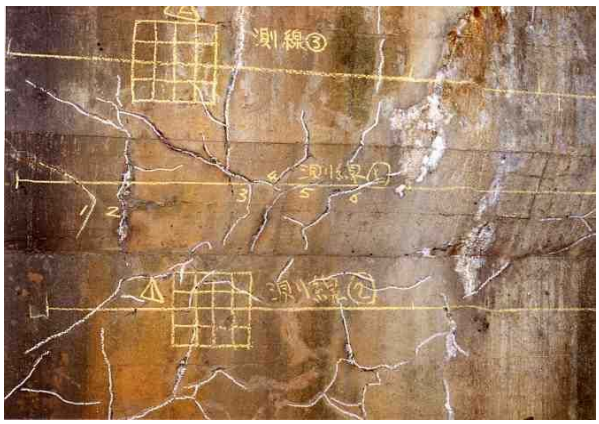
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.06mm
5. 調査者所見　：

・ A1橋台前面の調査。橋台のすぐ前に川があり，桁下空間は少なく日当たりは悪いが，風通しは良い。クラックはいずれもストッパー下に集中しており，特にストッパー部の下に縦方向に応力クラックとみられる縦方向のクラックが見られる。写真では判別できないくらいの非常に小さなクラックが数多く見られた。



劣化状況の評価

・ ひび割れは広範囲に見られるが，ひび割れ幅が最大でも0.06mmと小さく，桁出物でひび割れが塞がっているため，”経過観察”と判定。



判定結果 → **経過観察**

2003年調査時点

構造物コード　　D8508

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

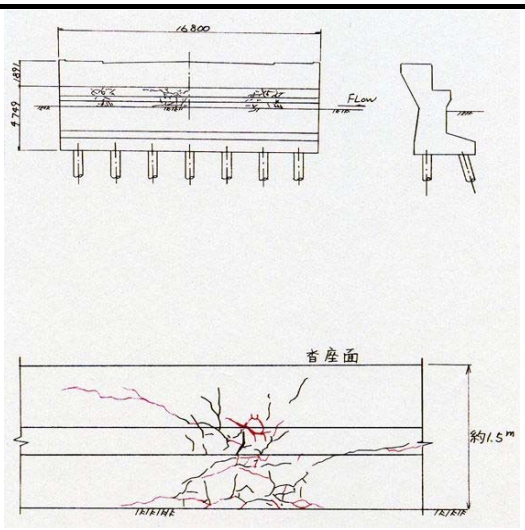
・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・ひび割れ本数が前回調査時に比べて増えているが，前回同様ひび割れ幅は大きくないように見受けられる。前回の調査から18年が経過したにもかかわらず，劣化状況に大きな変化はないと考えられることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8508

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ 情報不足

2025年調査時点

構造物コード　D8508

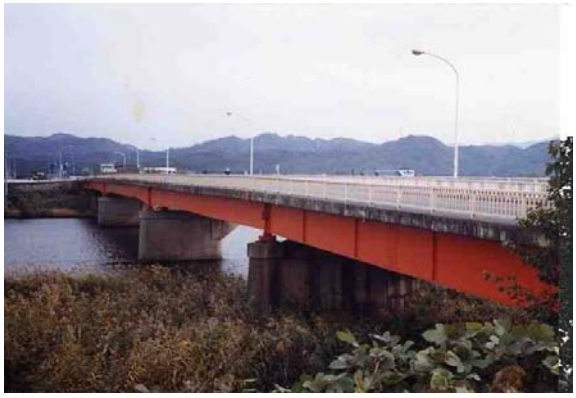
損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　D8509

基本データ

1. 所在地　：新潟県新発田市
2. 路線名・河川名　：国道7号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1960年
5. 周辺環境　：海岸線より1,822m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明
5. 調査者所見　：

・ P1橋脚のクラック調査。歩道橋追加のための張り出し部の両端及び下面にクラックが網目状にある。他の橋脚にはP1のようなクラックはみられない。型枠用セパコーン部よりクラックの発生が見られる。張り出し部の約1.5mから先端にかけてクラックの数が多い。



劣化状況の評価

・ ひび割れは，梁の張り出し部に広範囲に広がっているが，ひび割れ幅は小さく，析出物で塞がっているように見受けられる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

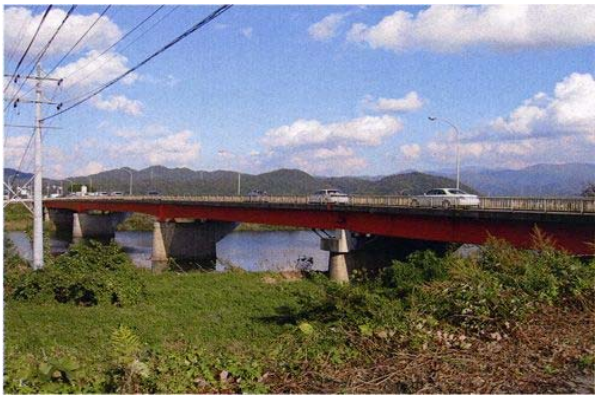
2003年調査時点

構造物コード　　D8509

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有（補修年は不明）
4. 補修方法　：はり部に表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

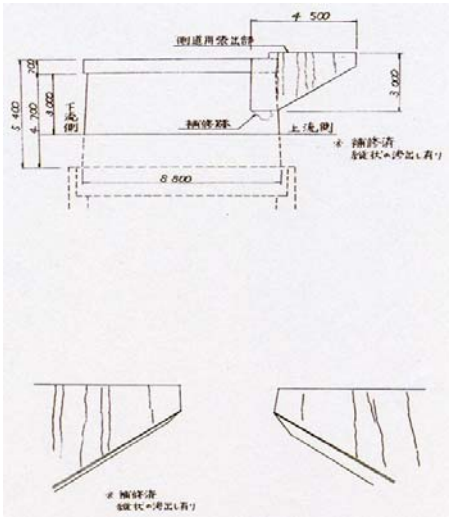
・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる
・ ｺﾒﾝﾄ：特に無し

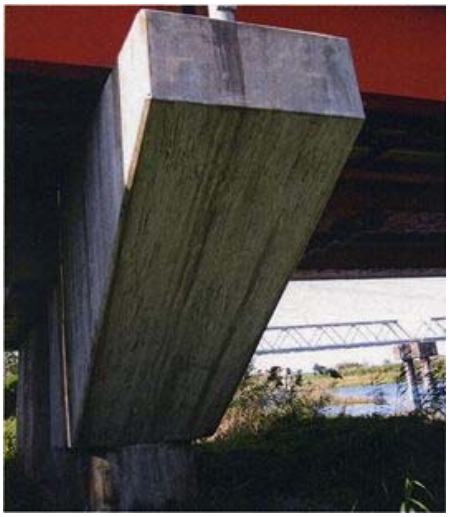


劣化状況の評価

・ 過去の調査以降に表面被覆が行われている。写真からは，補修箇所にひび割れを確認することはできなかった。写真には，縦状の滲み出しがあるが，この部分がひび割れであったとしてもアルカリ骨材反応によるものではないと判断される。







判定結果　→　ASRではない

2025年調査時点

構造物コード　D8509

調査結果

1. 調査年月　：2021年9月
2. 調査位置　：P1橋脚
3. 補修の有無　：有（2009）
4. 補修方法　：表面被覆工法
5. 最大ひび割れ幅　：0.6mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

2003年調査時点では，変状が見られなかった梁下に亀甲状のひび割れが見られた。定期点検（R4）では，乾燥収縮も疑われているが，建設年代や他の部材（A2橋台）でもASRによるひび割れが見られることから，ASRによる劣化と判断した。ただし，ひび割れ幅など劣化の程度は軽微であることから，"経過観察"と判定した。



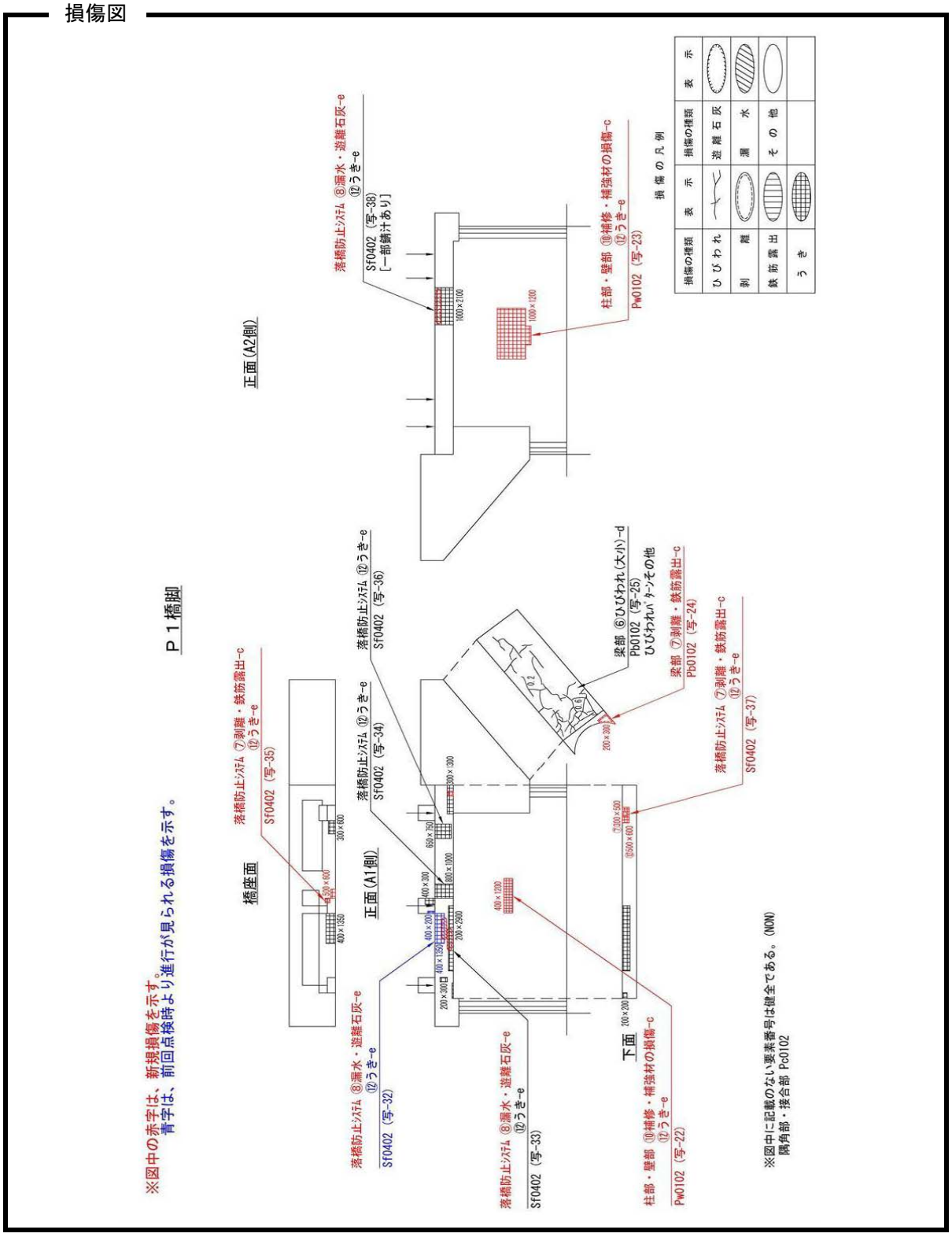


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8509

損傷図

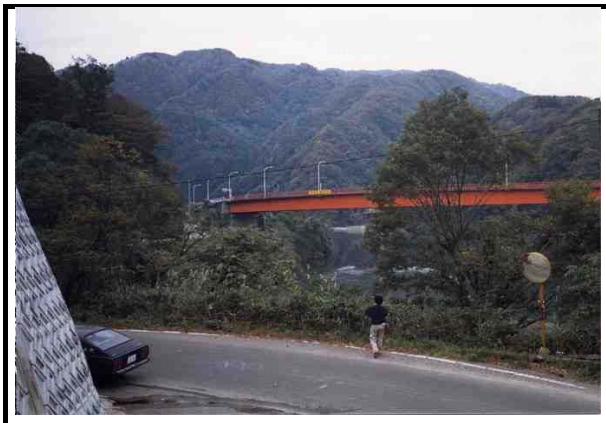


1985年調査時点

構造物コード　　D8510

基本データ

1. 所在地　：新潟県東蒲原郡
2. 路線名・河川名　：国道49号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1968年
5. 周辺環境　：海岸線からの距離は不明



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：有（ひび割れ注入）
4. 最大ひび割れ幅　：不明
5. 調査者所見　：

・ クラックは主に上流側ウイング及び橋台前面のコーナー部に有り，一部補修の跡があった。クラックは天端付近に多い。上流側コーナー部のクラックは補修されている。



劣化状況の評価

・ 大きなひび割れがあったと思われる箇所については，ひび割れ注入による補修が実施されている。他の部分には特に目立ったひび割れは確認できなかったことから，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　D8510

調査結果

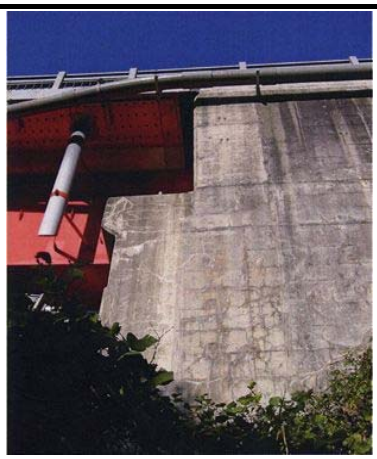
1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

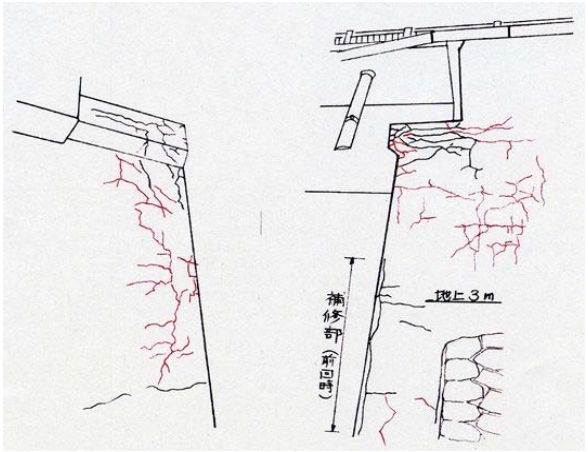
・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・ひび割れ本数が前回調査時に比べて増えているが，前回の調査から18年が経過したにもかかわらず，ひび割れ幅の変化はほとんどないように見受けられる。新しいひび割れは白い析出物で塞がっている状態である。よって，劣化状況に大きな変化はないと考えられることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8510

調査結果

1. 調査年月　：2022年10月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：－
5. 最大ひび割れ幅　：1.2mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

橋台全体にひび割れが見られ，一部では遊離石灰を伴っているが，2003年調査時点と比較してひび割れの進展に大きな変化は見られない。補修箇所も写真では再劣化しているようには見えない。また，定期点検（R5）によれば，前回点検時と比較して大きな変化は見られず，劣化の進行は遅いと推定されている。よって，″経過観察″と判定した。





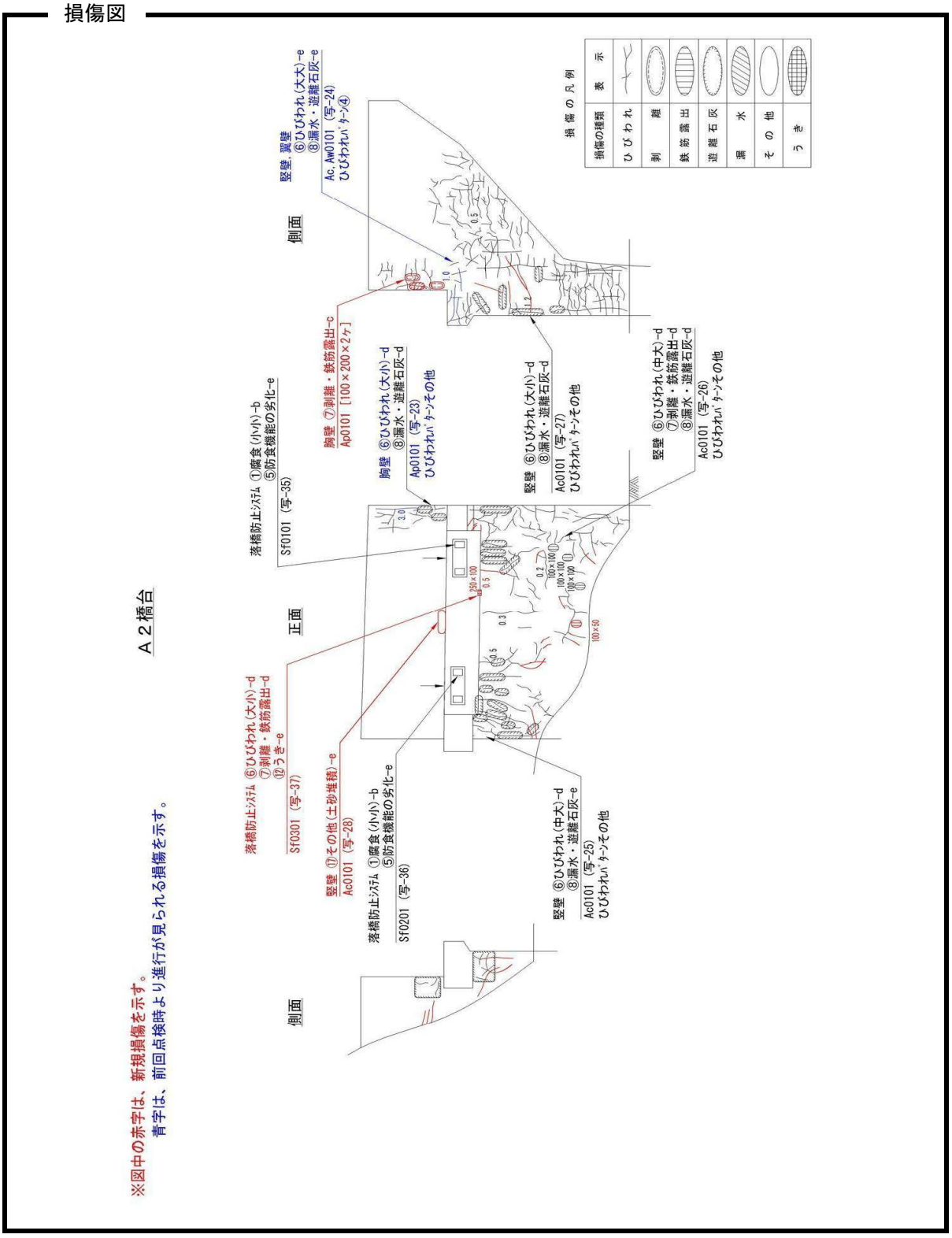


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8510

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D8511

基本データ

1. 所在地　　：新潟県中蒲原郡
2. 路線名・河川名　：国道49号線
3. 構造物種類　　：橋梁
4. 竣工年　　：1974年
5. 周辺環境　　：海岸線からの距離は不明



調査結果

1. 調査年月　　：1985年10月
2. 調査位置　　：橋台
3. 補修の有無　　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.6㎜
5. 調査者所見　　：

・ クラックは，Ａ１アバット前面サイドの部分にある。この部分は上部に桁が無く，将来増設があるのか，ストッパー用の鉄筋がむき出しになっていた。クラックが集中しているのは，この両サイドの日当たりの良いところに集中している。



劣化状況の評価

・ 隣接する橋台の竪壁前面，パラペット前面にひび割れが見られるが，ひび割れ幅が小さく，範囲も広くないように見受けられる。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。



判定結果　→　**経過観察**

2003年調査時点

構造物コード　　D8511

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：－
5. 最大ひび割れ幅　：約10㎜程度
6. 調査者所見　：

・判定：前回調査以降は補修を実施しておらず，アルカリ骨材反応による劣化の進行が見られる
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・ひび割れの数は増えているように見受けられるが，前回の調査から18年が経過したにもかかわらず，劣化状況に大きな変化はないと考えられることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D8511

調査結果

1. 調査年月　：2022年8月
2. 調査位置　：A1橋台
3. 補修の有無　：有？
4. 補修方法　：表面被覆？
5. 最大ひび割れ幅　：－
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

橋梁カルテ等の記録には残っていなかったが，表面被覆が施されており，写真では変状が見られないことから，″経過観察″と判定した。

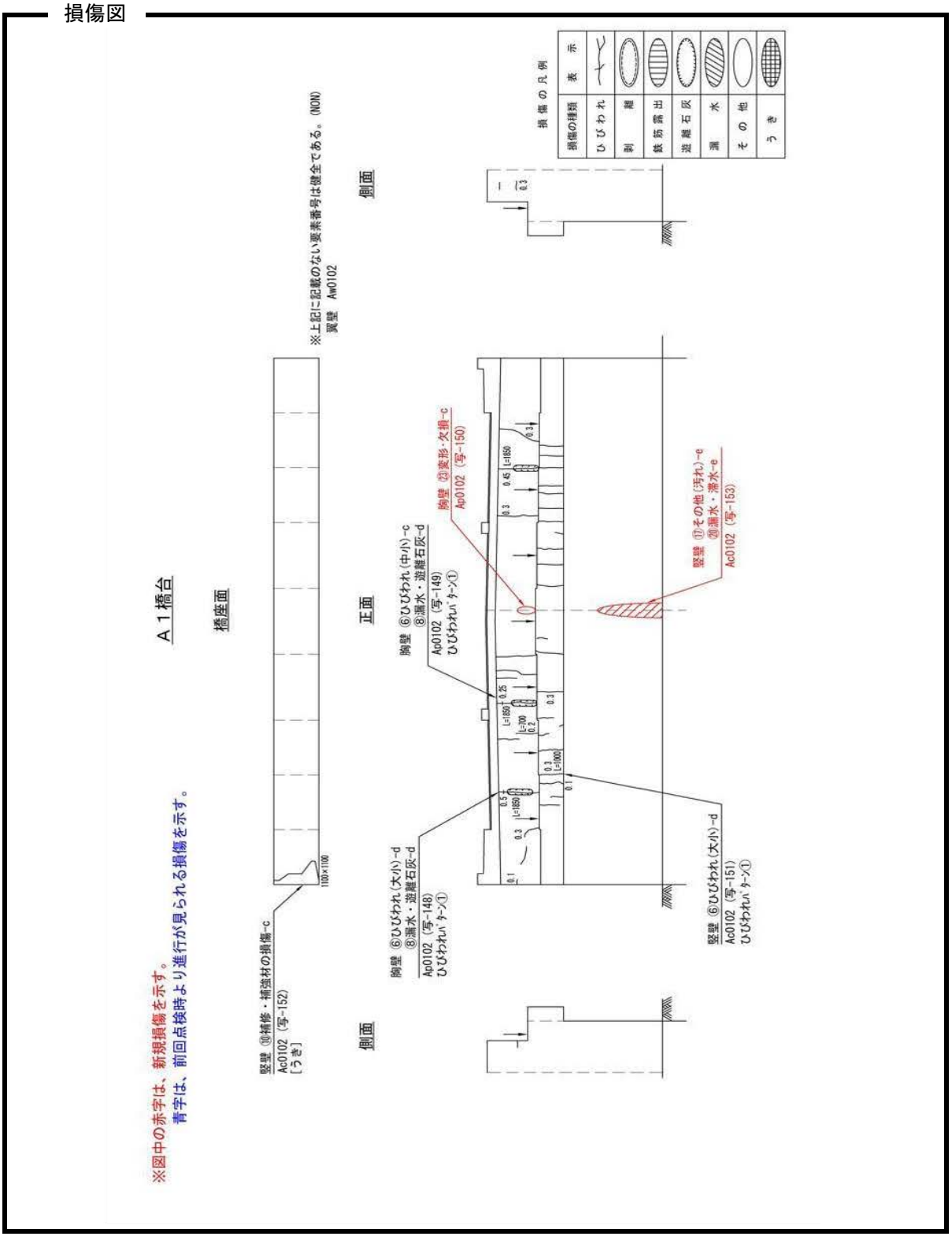


判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D8511

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D8512

基本データ

1. 所在地　：新潟県岩船郡
2. 路線名・河川名　：国道113号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1969年
5. 周辺環境　：海岸線からの距離は不明



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.35mm
5. 調査者所見　：

・ A1橋台上流側ウイングを調査。下流側のウイングはクラックはほとんど見られない。ウイングには管理用取り付け道路の為のブロック積みがある。日当たり，風通しともに良好。地覆部の上部及び側面のコンクリートは骨材の露出がある。



劣化状況の評価

・ ひび割れは広範囲に見られるが，幅が小さく，析出物でひび割れが塞がっているように見受けられる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　D8512

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

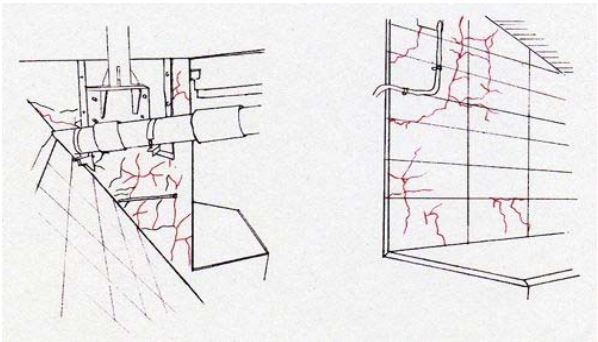
・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し

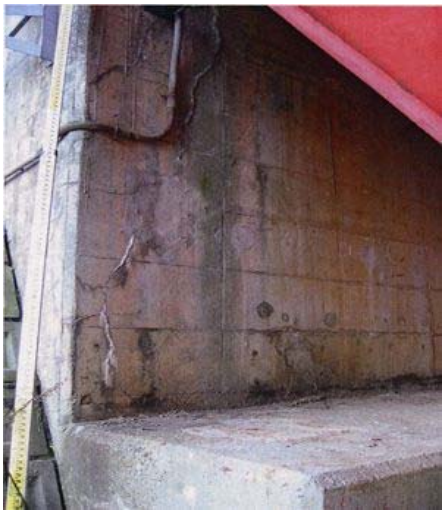


劣化状況の評価

・ひび割れの数は増えているが，ひび割れ幅は大きくないように見受けられる。前回の調査から18年が経過したにもかかわらず，劣化状況に大きな変化はないと考えられることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D8512

調査結果

1. 調査年月　：2022年11月
2. 調査位置　：A1橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：－
5. 最大ひび割れ幅　：1.0mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：A1橋台の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

胸壁部や竪壁部には，遊離石灰を伴う二方向のひび割れが見られた。一方，胸壁部については，2003年調査時点と比較して劣化の進展は見られない。また，竪壁部については2003年調査時点でひび割れの発生の有無が不明であるが，側面にとどまっていることから，″経過観察″と判定した。





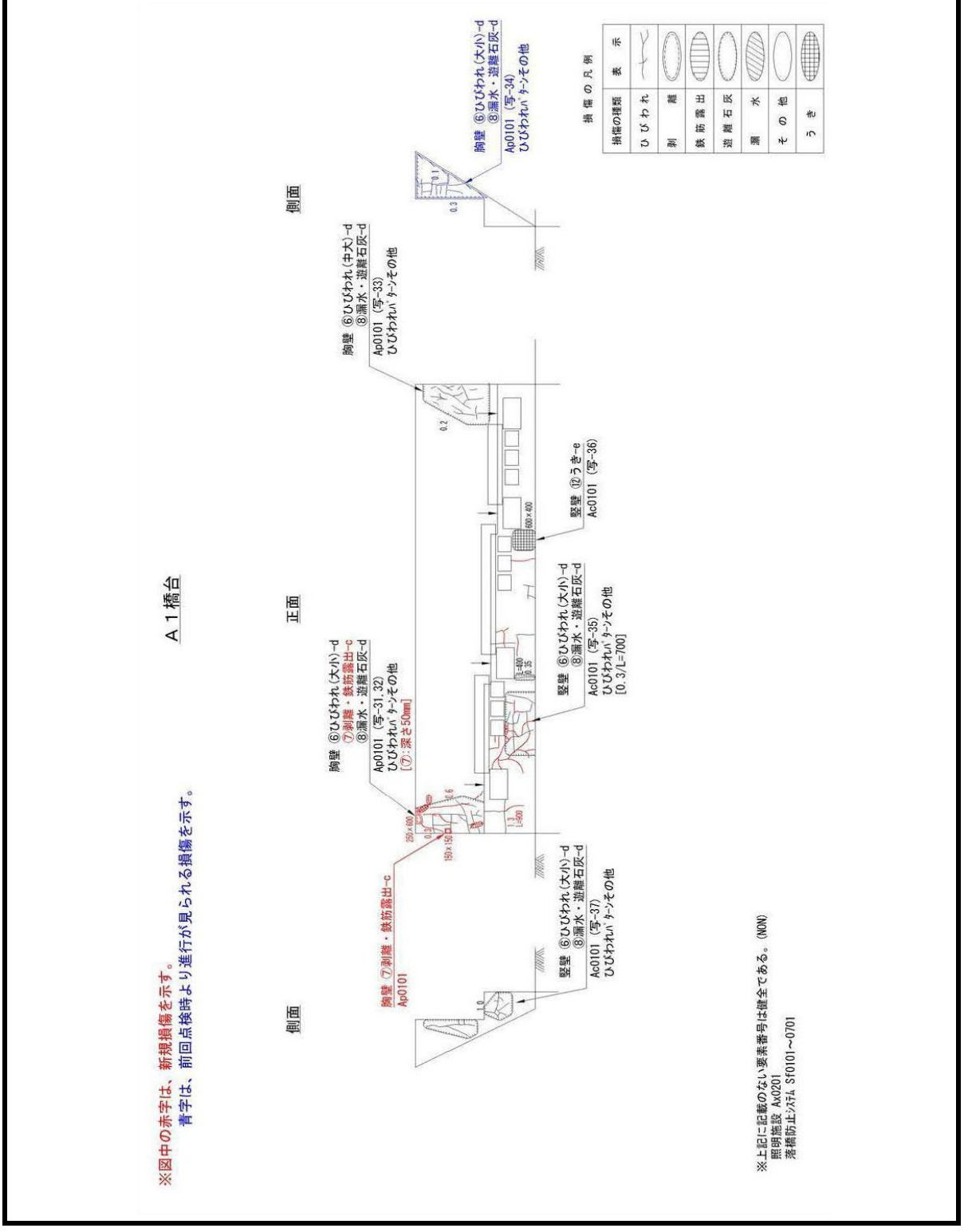


判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D8512

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D8513

基本データ

1. 所在地　：新潟県北魚沼郡
2. 路線名・河川名　：国道17号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1964年
5. 周辺環境　：海岸線からの距離は不明



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.1mm
5. 調査者所見　：

・ 魚野川右岸A1橋台ウイングのクラック状況を調査。日当たりは良好で河川から約85mの位置にある。ウイング下には約20cmの空隙がある。



劣化状況の評価

・ ひび割れの発生状態が，亀甲状でもなく，鉄筋に沿ったものでもないため，ＡＳＲによるものか疑わしい。



判定結果 → ASRではない

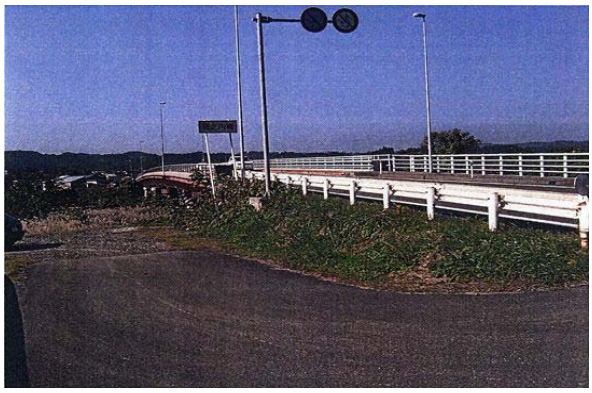
2003年調査時点

構造物コード　　D8513

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

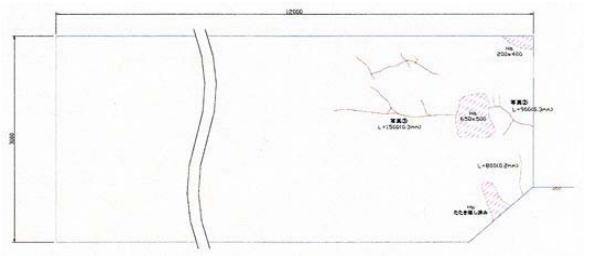
・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：亀甲状のひび割れ，ゲル（濡れ色），エフロレッセンスが見られる。凍結融解作用による剥離も見られる。

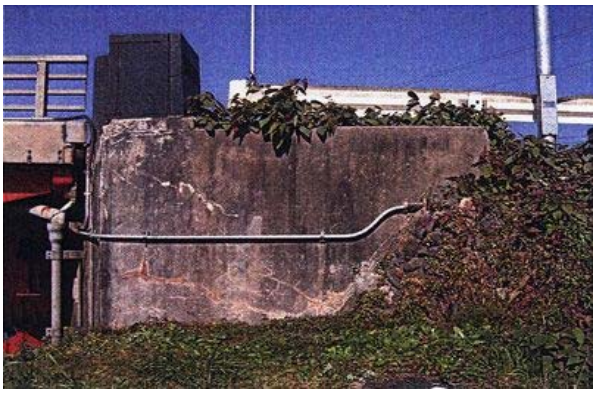


劣化状況の評価

・ひび割れの発生状況は，凍結融解によるひび割れとも考えられる。今回の調査結果のみでの判定は困難であるが，ここでは劣化はASRによるものではないと判定。







判定結果 → ASRではない

2025年調査時点

構造物コード　D8513

調査結果

1. 調査年月　：2024年9月
2. 調査位置　：A1橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：0.2mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：A1橋台の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

これまでの過去調査では，ASRでないと判定されているが，ひび割れ性状や定期点検（R6）でも建設年代、地域特性等からASRと推定されているため，ASRによる劣化と判断した。劣化の状態としは，2003年調査時点と比較して大きな変化は見られないことから，"経過観察"と判定した。



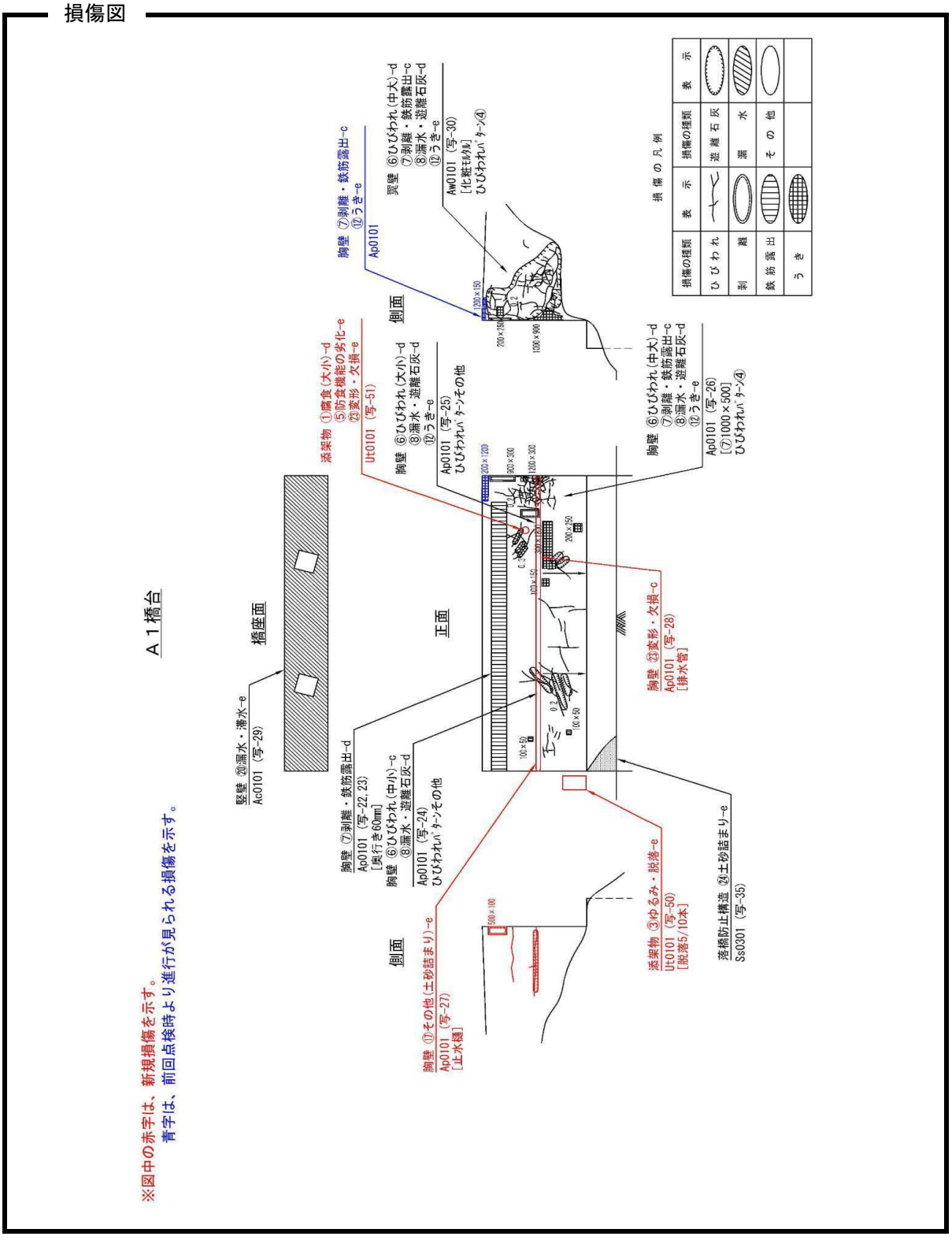


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8513

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D8514

基本データ

1. 所在地　：新潟県糸魚川市
2. 路線名・河川名　：国道8号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1966年
5. 周辺環境　：海岸線より1000m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：1.2mm
5. 調査者所見　：

・ 橋台パラペットの端部及び側面に亀甲状のクラックが集中している。中の大きいクラックは目詰まりしていないが，小さいクラック(0.1mm前後)は，いずれも目詰まりしている。深さは数mm程度。クラック周辺は黄褐色に変色している。所々に白い析出物が表面に出ているクラックもある。



劣化状況の評価

・ ひび割れは橋台パラペット側面全体に広がっている。ひび割れ幅は最大で1.2mmとの記述もあるが，析出物で塞がっている状態であること，竣工から19年が経過したにもかかわらずこの程度でとどまっていることから，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　D8514

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：2.0mm
6. 調査者所見　：

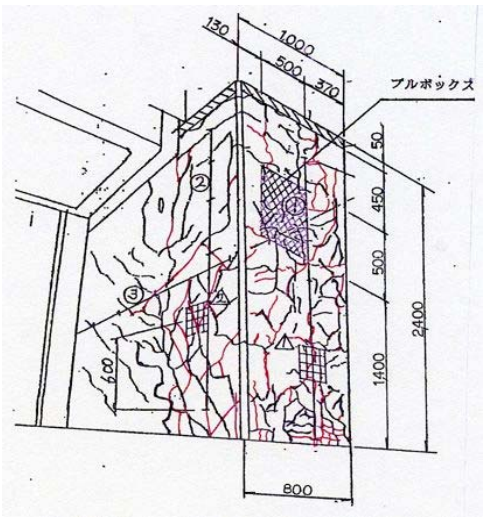
・判定：ｱﾙｶﾘ骨材反応による劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：橋台ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄの端部，および側面に亀甲状のｸﾗｯｸが集中している。幅の大きいｸﾗｯｸは目詰まりしていないが，小さいｸﾗｯｸ(0.1mm前後）は，いずれも目詰まりしている。深さは数mm程度。ｸﾗｯｸ周辺は黄褐色に変色している。所々に白い浸出物が表面に出ているｸﾗｯｸもある。



劣化状況の評価

・一部に劣化の広がりが見られるが，ひび割れ幅は大きくないように見える。よって，前回の調査から18年が経過したにもかかわらず，劣化状況に大きな変化はないと考えられることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8514

調査結果

1. 調査年月　：2020年10月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：－
5. 最大ひび割れ幅　：3.0mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：A2橋台の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

2003年調査時点と比較して，ひび割れの進展に大きな変化は見られない。最大ひび割れ幅（1.2mm→2.0mm→3.0mm）は増加しているものの，実際の測定箇所が不明であるため，全体的な傾向から，"経過観察"と判定した。ただし，竪壁上面に滞水が認められることから，排水対策を講じることが望ましい。



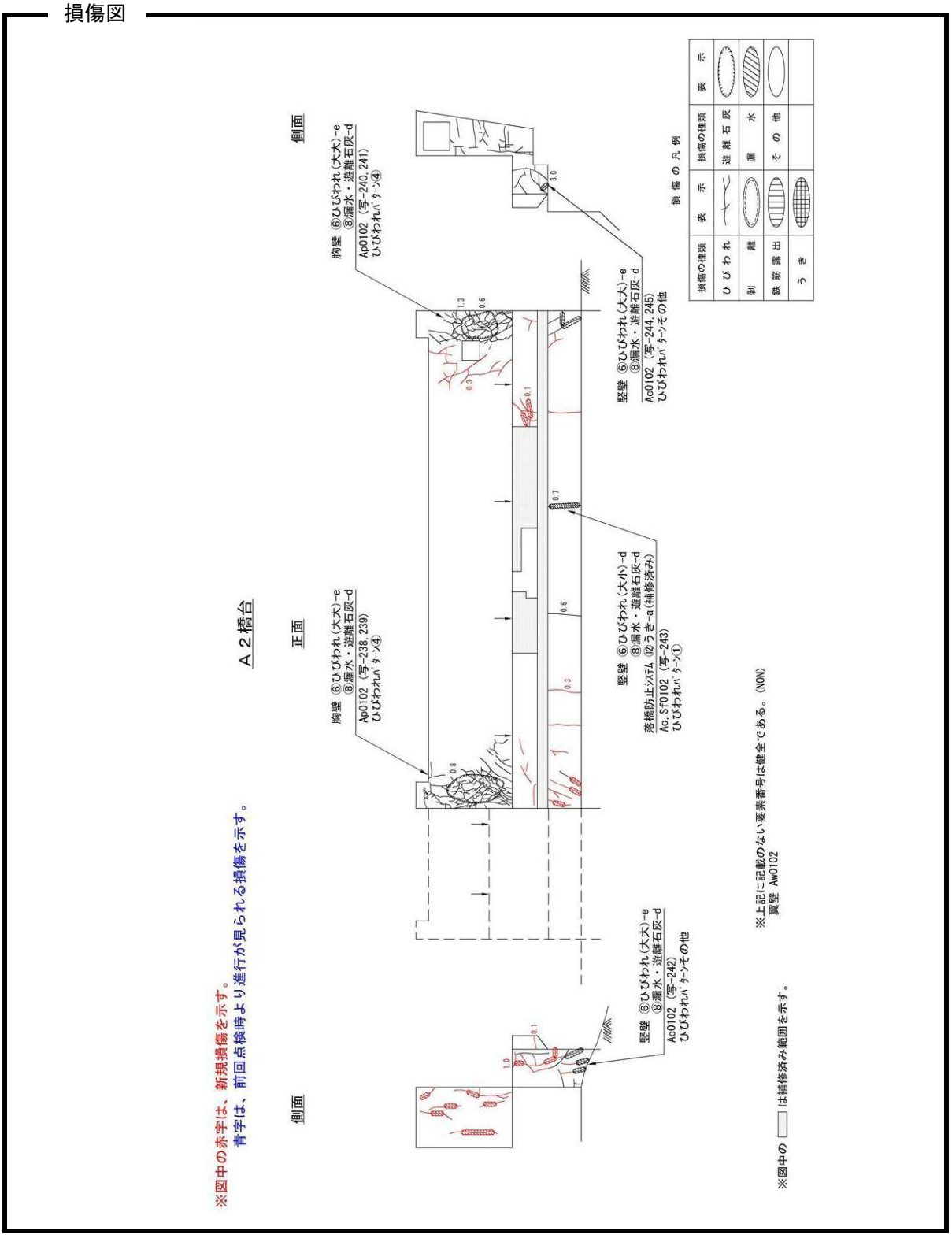


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D8514

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D9905

基本データ

1. 所在地　：新潟県新潟市
2. 路線名・河川名　：国道7号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1985年
5. 周辺環境　：海岸線より3.2km



調査結果

1. 調査年月　：1999年10月
2. 調査位置　：上り線A1橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・ 豆板・変色無し，はく離無し，さび汁無し，鋼材露出無し，浮き無し

調査箇所全体写真無し

劣化状況の評価

・ 橋台竪壁前面にひび割れが発生。ひび割れ図より水の影響を受ける端部の1箇所のみのようである。写真で見る限りひび割れ幅は小さく，ひび割れが白い析出物で塞がっているものも見られる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　D9905

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：―
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

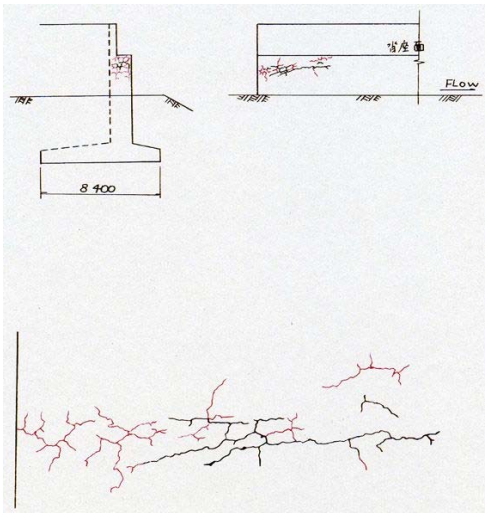
・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・前回の調査時とは別の角度からの撮影である。前回の位置以外の箇所でアルカリ骨材反応によるひび割れが発生している。しかし，ひび割れの幅は大きくはなく，すぐに問題となるような損傷状態ではないと考えられる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D9905

調査結果

1. 調査年月　：2022年11月
2. 調査位置　：A1橋台
3. 補修の有無　：有（2010）
4. 補修方法　：ひび割れ注入、断面修復
5. 最大ひび割れ幅　：0.7mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全な状態である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

断面修復箇所に変状は見られない。また，ひび割れの様子にも変化は見られないことから，〝経過観察〟と判定した。なお，ひび割れ注入については，写真から状態を確認できなかった。





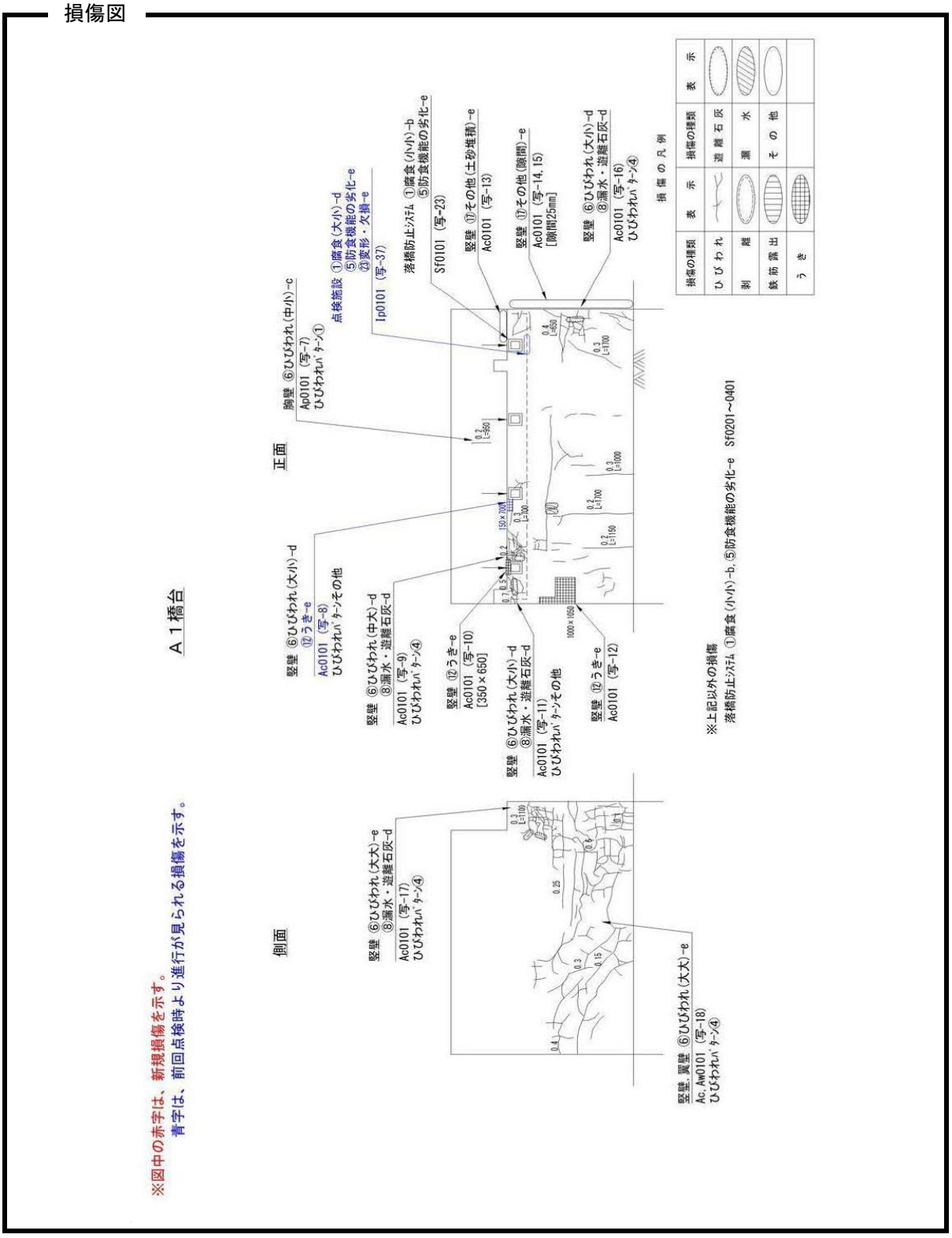


判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D9905

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　D9906

基本データ

1. 所在地　　：富山県高岡市
2. 路線名・河川名　：一般国道8号
3. 構造物種類　　：橋梁
4. 竣工年　　：1970年
5. 周辺環境　　：海岸線より4.0km



調査結果

1. 調査年月　　：1999年10月
2. 調査位置　　：橋台，橋脚
3. 補修の有無　　：有（ASR対策1991年被覆）
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　　：

・ 橋台，橋脚のｱﾙｶﾘ骨材反応により，ｸﾗｯｸ多数
外観：変色有り
はく離：角欠け3～5ヵ所
さび汁：多数有り
鋼材露出：ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ3～5ヵ所，部分的腐食
浮き無し



劣化状況の評価

・ 橋脚については，ラーメンばりの下面に亀甲状のひび割れが見られる。モルタル系の材料によるものと見られる被覆がなされている。橋台については，同様にモルタル被覆がなされており，間隔の広いひび割れが見られる。被覆前のひび割れ状況は不明である。現在，構造物の表面で見られる補修材のひび割れ状況からは，アルカリ骨材反応によるひび割れかどうか判断が困難。全体としては，ひび割れの状況，また，道路に直接面した構造物ではない。よって，”経過観察”でよいと判定。



判定結果 → **経過観察**

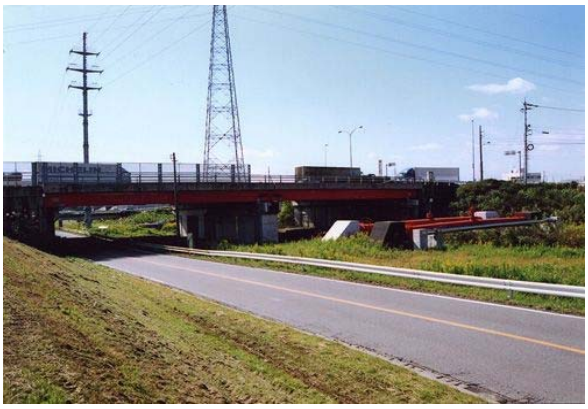
2003年調査時点

構造物コード　　D9906

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台，橋脚
3. 補修の有無　：補強有り
4. 補修方法　：橋脚梁にコンクリート被覆
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

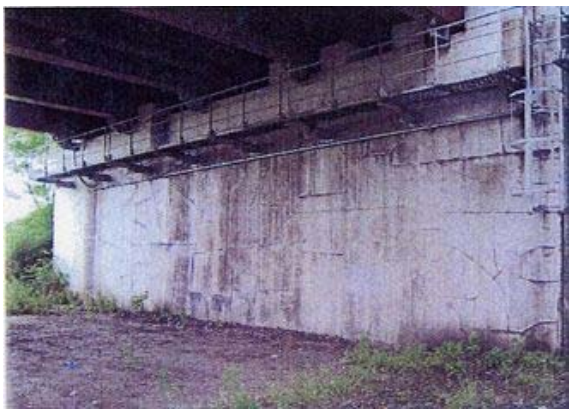
・ 判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。
・ ｺﾒﾝﾄ：耐震補強として橋脚に巻立補強を行った。橋台は1991年ｺﾝｸﾘｰﾄ被覆を行った後，ASR対策は行われていない。



劣化状況の評価

・ 橋台については，前回調査時から変化がみられない。橋脚については，柱部は耐震補強により巻き立てられ，はり部も同時に補強が行われたと思われる。このような状況を考慮し，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　D9906

調査結果

1. 調査年月　：2019年9月
2. 調査位置　：A2橋台,P1橋脚
3. 補修の有無　：有？
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進展が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

P1梁部側面の補修箇所において，被覆材の破れおよびひび割れが見られる。ただし，劣化の程度は比較的軽微であることから，〃経過観察〃と判定した。





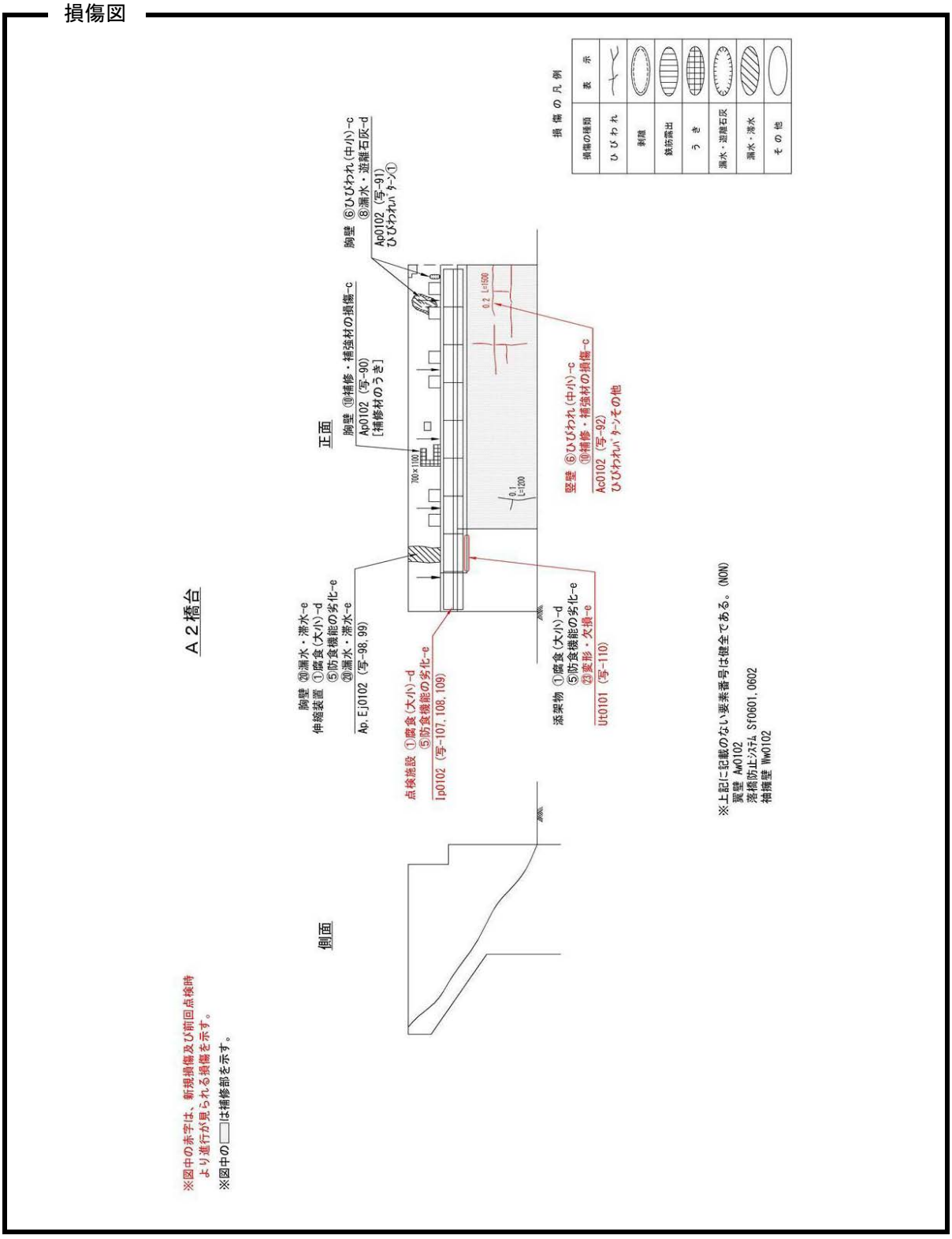


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D9906

損傷図

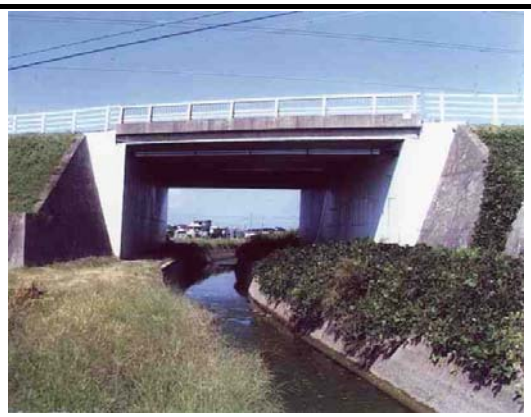


1985年調査時点

構造物コード　　D9907

基本データ

1. 所在地　：富山県富山市
2. 路線名・河川名　：一般国道8号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1971年
5. 周辺環境　：海岸線より2.7km



調査結果

1. 調査年月　：1999年10月
2. 調査位置　：両岸橋台
3. 補修の有無　：有（1999年表面被覆）
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・ 橋台ｱﾙｶﾘ骨材によりｸﾗｯｸ。
外観：変色有り
さび汁：多数有り
はく離無し，鋼材露出無し，浮き無し



劣化状況の評価

・ 橋台には表面被覆が行われているが，幅の大きい水平方向のひび割れが発生している。ひび割れ幅は，写真から読み取ると5～6mm程度であり大きい。このひび割れに対し，ひび割れ注入による補修が必要と判断。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　D9907

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：両岸橋台
3. 補修の有無　：無し（代替）
4. 補修方法　：ボックスカルバートによる代替
5. 最大ひび割れ幅　：―
6. 調査者所見　：

・ｺﾒﾝﾄ：橋梁機能の代替として，橋梁内に大型プレキャストボックスを施工した。



劣化状況の評価

・橋梁であったものが，プレキャストボックスカルバートへと，構造形式が変更されている。よって，”現存せず”と判断。



劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　D9907

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **現存せず**

2025年調査時点

構造物コード　D9907

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　D9908

基本データ

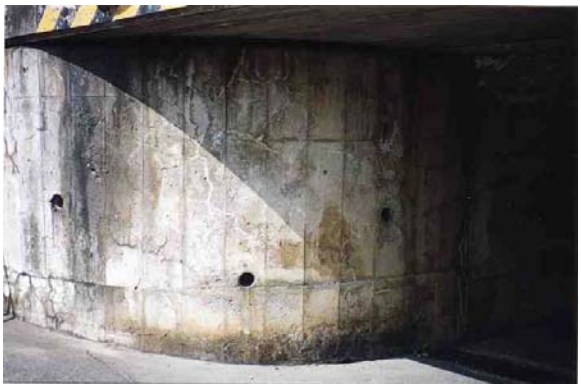
1. 所在地　：新潟県新潟市
2. 路線名・河川名　：一般国道8号
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より3.7km

全景写真

調査結果

1. 調査年月　：1999年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無（1991年表面被覆）
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・外観：変色有り
浮き：多数有り
はく離無し，さび汁無し，鋼材露出無し



劣化状況の評価

・部分的にひび割れ注入跡が見られるが，補修を行っていないひび割れもある。ひび割れは亀甲状で広範囲に広がっている。ひび割れ幅は，部分的にはかなり大きく見える箇所もあり，ひび割れ注入による補修が必要と思われる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　D9908

調査結果

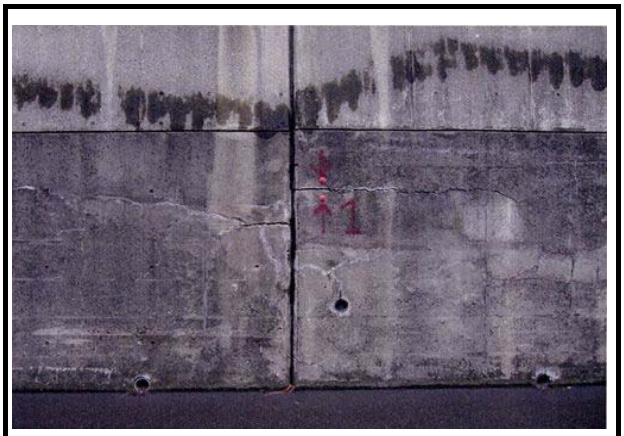
1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

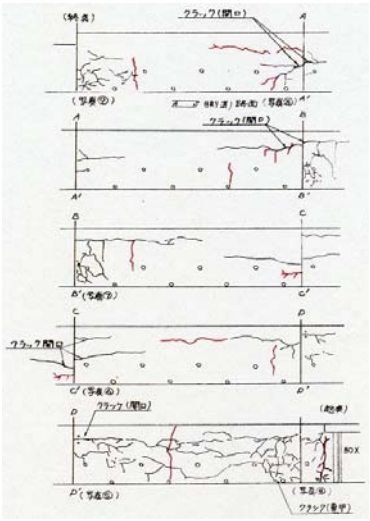
・ 判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない
・ ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・ ひび割れ本数が前回調査時に比べて若干増えているが，ひび割れ幅はそれほど大きくないように見える。また，調査者も前回調査時からほとんど変化していないとしている。よって，劣化状況に大きな変化はないと考えられることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D9908

調査結果

1. 調査年月　：2022年8月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 判定：擁壁の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

ひび割れ幅は大きいように見えるが，2003年調査と比較してひび割れの進展に大きな変化は見られない。竣工から49年が経過していることを考慮して，″経過観察″と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D9908

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　D9909

基本データ

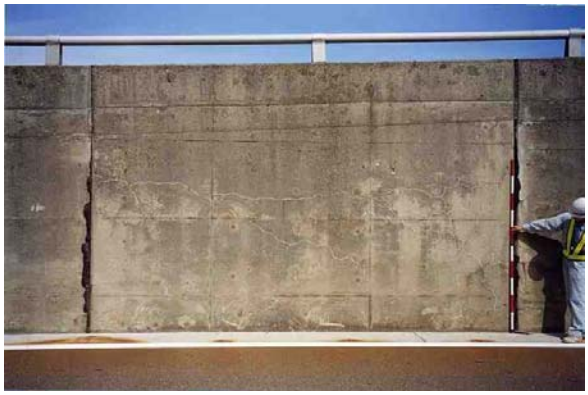
1. 所在地　　：富山県高岡市
2. 路線名・河川名　：一般国道8号
3. 構造物種類　　：擁壁
4. 竣工年　　：1974年
5. 周辺環境　　：海岸線より5.5km



調査結果

1. 調査年月　　：1999年10月
2. 調査位置　　：擁壁
3. 補修の有無　　：無
4. 最大ひび割れ幅　：3.0mm（両方向，多数）
5. 調査者所見　　：

・豆板・変色無し，はく離無し，さび汁無し，鋼材露出無し，浮き無し



劣化状況の評価

・損傷図によると，幅3mmのひび割れが0.8m，幅2mmのひび割れが1.5mにわたって連続しているとされている。道路に面しており，第三者被害の可能性もあることから，ひび割れ注入による補修が必要。よって，”補修必要”と判定。

劣化部写真無し

判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　D9909

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：5.0mm
6. 調査者所見　：

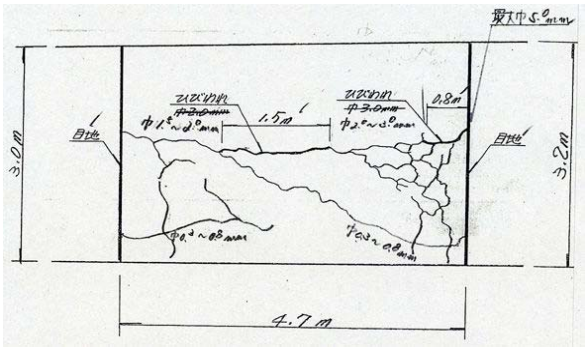
・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し

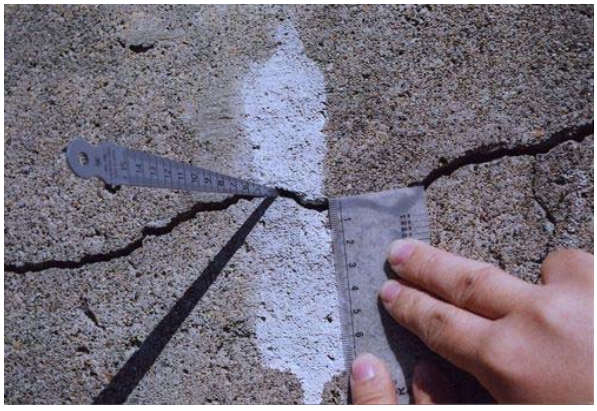


劣化状況の評価

・ひび割れ本数が前回調査時に比べて若干増えている。また，ひび割れ幅は，前回3mmの部分で一部5.0mmと大きくなっている箇所があった。ひび割れからの劣化因子の侵入を防ぐ目的で，ひび割れ注入による補修が必要と判定。よって，”補修必要”と判定。







判定結果　→　補修必要

2025年調査時点

構造物コード　D9909

調査結果

1. 調査年月　：2024年6月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 判定：擁壁の状態は、前回の調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：橋梁本体の方でもASRによる劣化が生じている。

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

ひび割れ幅は大きいように見えるが，2003年調査と比較してひび割れの進展に大きな変化は見られない。竣工から50年が経過していることを考慮して，"経過観察"と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　D9909

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　E8518

基本データ

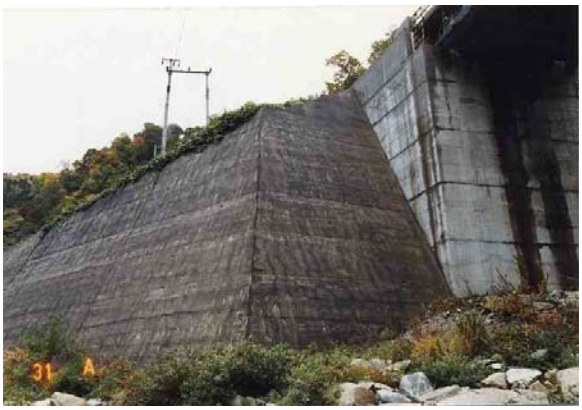
1. 所在地　：岐阜県吉城郡
2. 路線名・河川名　：国道41号線
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1967年
5. 周辺環境　：海岸線より43km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：2～3mm？
5. 調査者所見　：

・ 40～60cm間隔で2～3mm巾のクラックが亀甲状に走っている。白い浸出物のみられるクラックもあり，浸出物は灰褐色のものも見られる。浸出物は固着して盛り上がっている。粗骨材は砂利。



劣化状況の評価

・ ひび割れ幅が2～3mmと調査者の所見はあるが，このような幅の大きなひび割れが存在する範囲は明確ではない。写真のみで判定したところ，ひび割れが連続したものではなく，析出物で塞がっているように見えるため，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

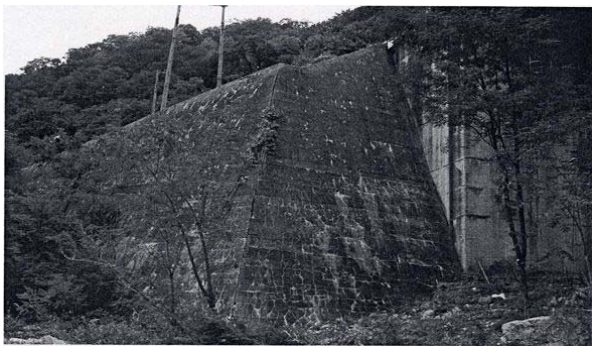
2003年調査時点

構造物コード　　E8518

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：4.0㎜以上
6. 調査者所見　：

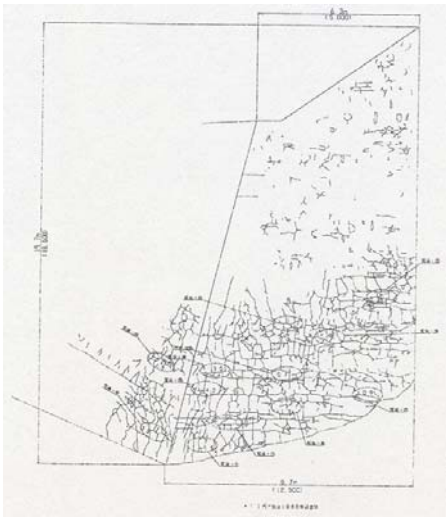
・判定：ｱﾙｶﾘ骨材反応による劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：ｱﾙｶﾘ骨材反応による劣化の進行は認められるが，前回調査から大きく増加していないために，ｱﾙｶﾘ骨材反応が収束に近い状態にあると思われる。背面からの水の浸透により遊離石灰の析出が進んでいる。擁壁背面に水の浸透を防ぐ排水処理を設ける等の対策が必要と考える。ひび割れは擁壁全体に50cm程度間隔で亀甲状に発生が認められ，最大ひび割れ幅は4.0㎜以上あり平均でも1.0㎜前後に達している。



劣化状況の評価

・ひび割れ本数が前回調査時に比べて増えているように見えるが，調査者の所見によると，前回調査から18年が経過しているにもかかわらず劣化状況に大きな変化はないとも考えられる。また，本構造物は竣工から36年が経過しており，今後急速に劣化することも考えにくい。よって，”経過観察”と判定。







判定結果　→　経過観察

2025年調査時点

構造物コード　E8518

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **情報不足**

2025年調査時点

構造物コード　E8518

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　E8536

基本データ

1. 所在地　：岐阜県海津郡
2. 路線名・河川名　：国道258号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1971年
5. 周辺環境　：海岸線より15.6km



調査結果

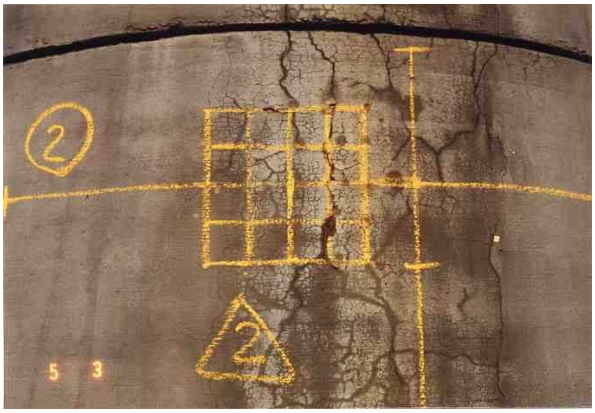
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.35mm
5. 調査者所見　：

・ 橋台，橋脚とも表面に薄いペーストを塗って補修されているが，その上にまたクラックが発生している。亀甲状のクラックが幅30～40cmの範囲で縦に走っている。クラックの最大幅は0.35mm以下である。ペーストともとの表面の間に化学反応と思われる白い粉が見られる。また，表面を軽く叩いても簡単にペーストが剥離する。



劣化状況の評価

・ ひび割れは水みちとなっている一部の箇所に発生している。ひび割れ幅は最大でも0.35mmと小さく，部分的であるため，”経過観察”と判定。



判定結果 → **経過観察**

2003年調査時点

構造物コード　　E8536

調査結果

1. 調査年月　：2003年7月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有（1997年）
4. 補修方法　：耐震補強
5. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
6. 調査者所見　：

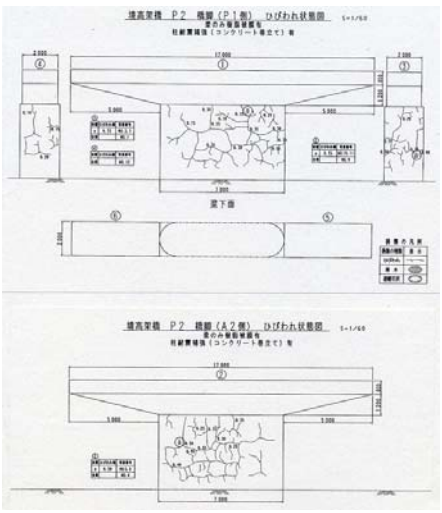
- 1986年にｸﾗｯｸ注入，1998年に耐震補強。補強が行われているので現在の状況を把握することは困難。しかし，補強ｺﾝｸﾘｰﾄ面にひび割れが発生しており，この発生原因については内部のｺﾝｸﾘｰﾄのｱﾙｶﾘ骨材反応に起因しているのではないかと考えている。

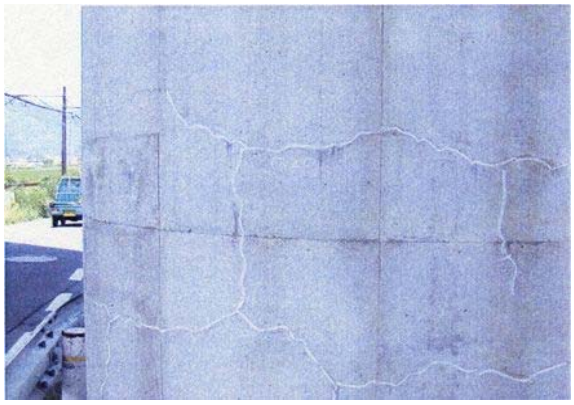
全景写真無し

劣化状況の評価

- 橋脚柱に対して耐震補強を行っているが，その表面に亀甲状のひび割れが発生している。ただし，ひび割れの形状，位置から補修部材のひび割れの可能性が高い。ひび割れ幅は，状態図より最大で0.5mm程度であり，すぐに問題となるようなひび割れ幅ではない。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　E8536

調査結果

1. 調査年月　：2019年10月
2. 調査位置　：P1橋脚
3. 補修の有無　：有（1999年）
4. 補修方法　：耐震補強(RC巻立て)
5. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：以前の調査ではP2と記載されているが、実際にはP1だと思われるため、P1を調査。



劣化状況の評価

柱部の巻立て箇所においてひび割れが見られるが，これは乾燥収縮が原因と推察される。劣化の程度も軽微であることから，"経過観察"と判定した。





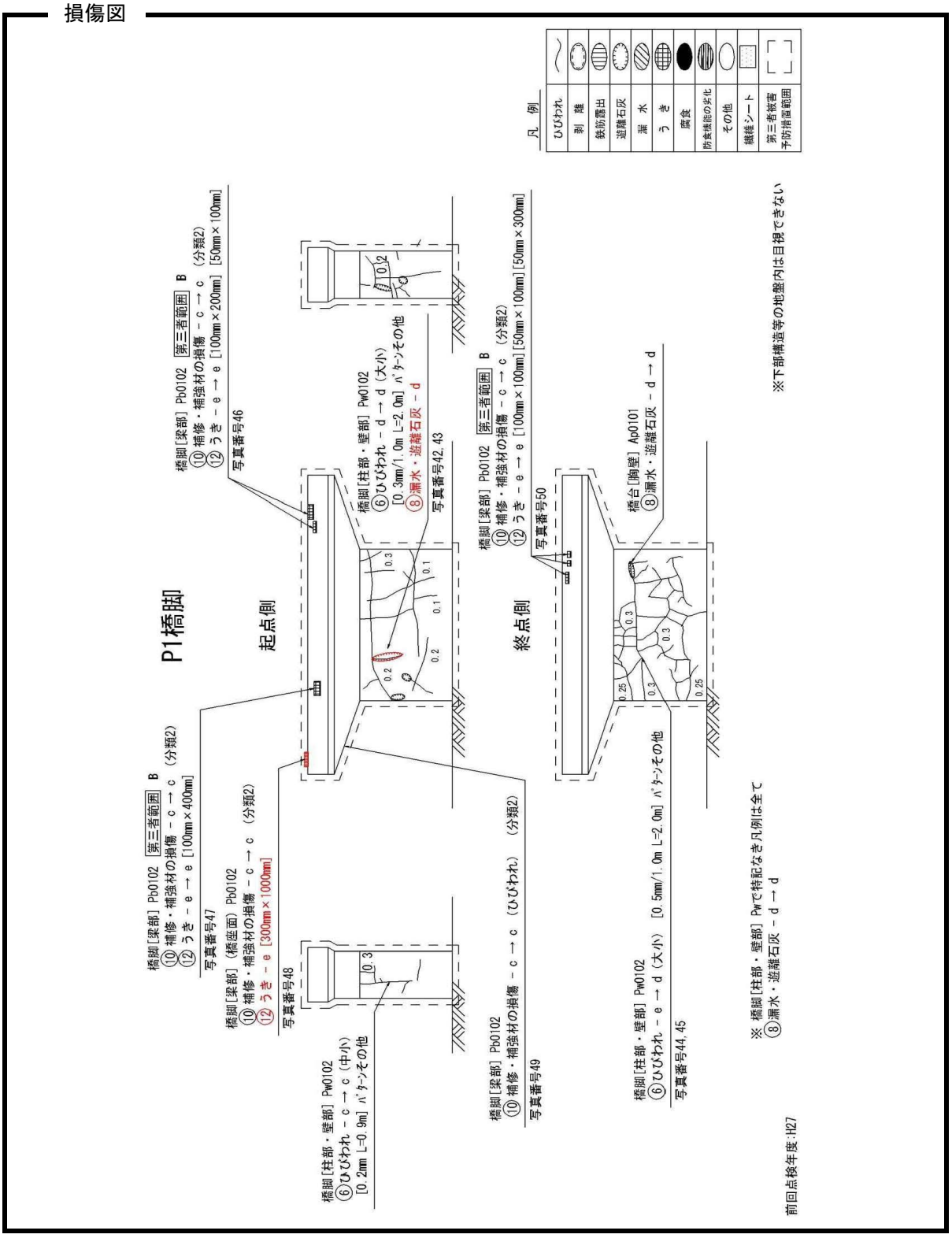


判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　E8536

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　F8537

基本データ

1. 所在地　：大阪府堺市
2. 路線名・河川名　：一般国道26号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1974年
5. 周辺環境　：海岸線より1500m



調査結果

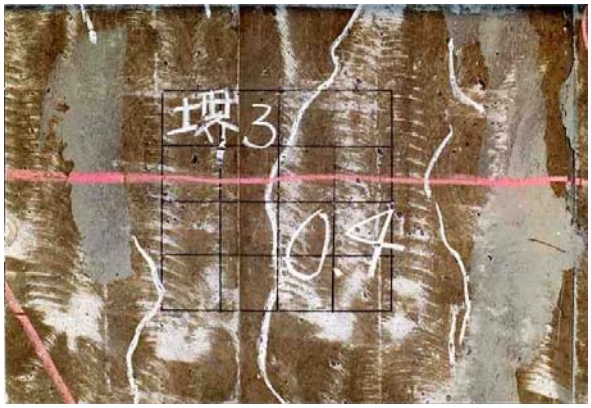
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：P23橋脚（柱）
3. 補修の有無　：有（補修年は不明）
4. 最大ひび割れ幅　：1.3mm
5. 調査者所見　：

・柱全体に亀甲状のひび割れがあり，縦方向はひび割れ幅が大きく，横方向は小さい。柱の東面，西面（橋軸直角方向）の方が南面，北面（橋軸方向）よりもひび割れが多い。



劣化状況の評価

・最大ひび割れ幅が1.3mmと記載はあるが，写真で確認することはできなかった。写真から判定すると，既に樹脂注入による補修が行われており，目立ったひび割れは見られないことから，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　F8537

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：P23橋脚
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：柱-耐震補強（1997年）
5. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
6. 調査者所見　：

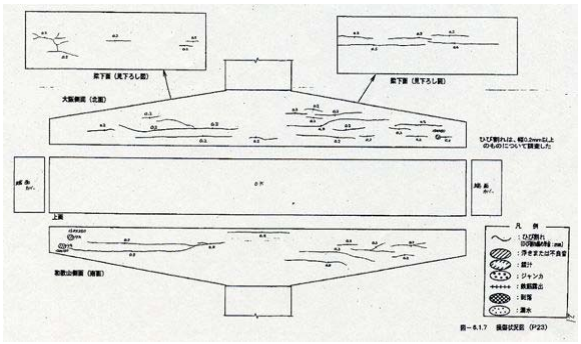
・ 判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ ｺﾒﾝﾄ：橋脚はり部は1984年に表面保護工を実施している。柱部は1997年に耐震補強として鋼板補強（鋼板厚t=9mm）を施している。

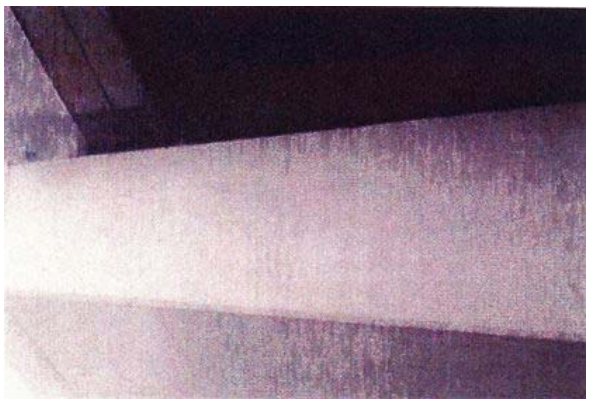
全景写真無し

劣化状況の評価

・ 最大0.5mmのひび割れがはり部正面，下面にあると損傷状況図に記載があるが，ひび割れの写真が不鮮明で実際の状態を確認することができない。この橋梁については1980年代から点検・補修が行われてきた実績があり，反応性が極めて高い骨材が使用されていることが分かっている。しかし，現状ではすぐに再度の補修を必要とするような状況ではない。
よって，”検討必要”と判定。







判定結果 → 検討必要

2025年調査時点

構造物コード　F8537

調査結果

1. 調査年月　：2024年3月
2. 調査位置　：P23橋脚
3. 補修の有無　：有（不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

柱部は鋼板巻立て，梁部は表面被覆が行われている。写真では，いずれもひび割れ等の変状は確認できないことから，″経過観察″と判定した。

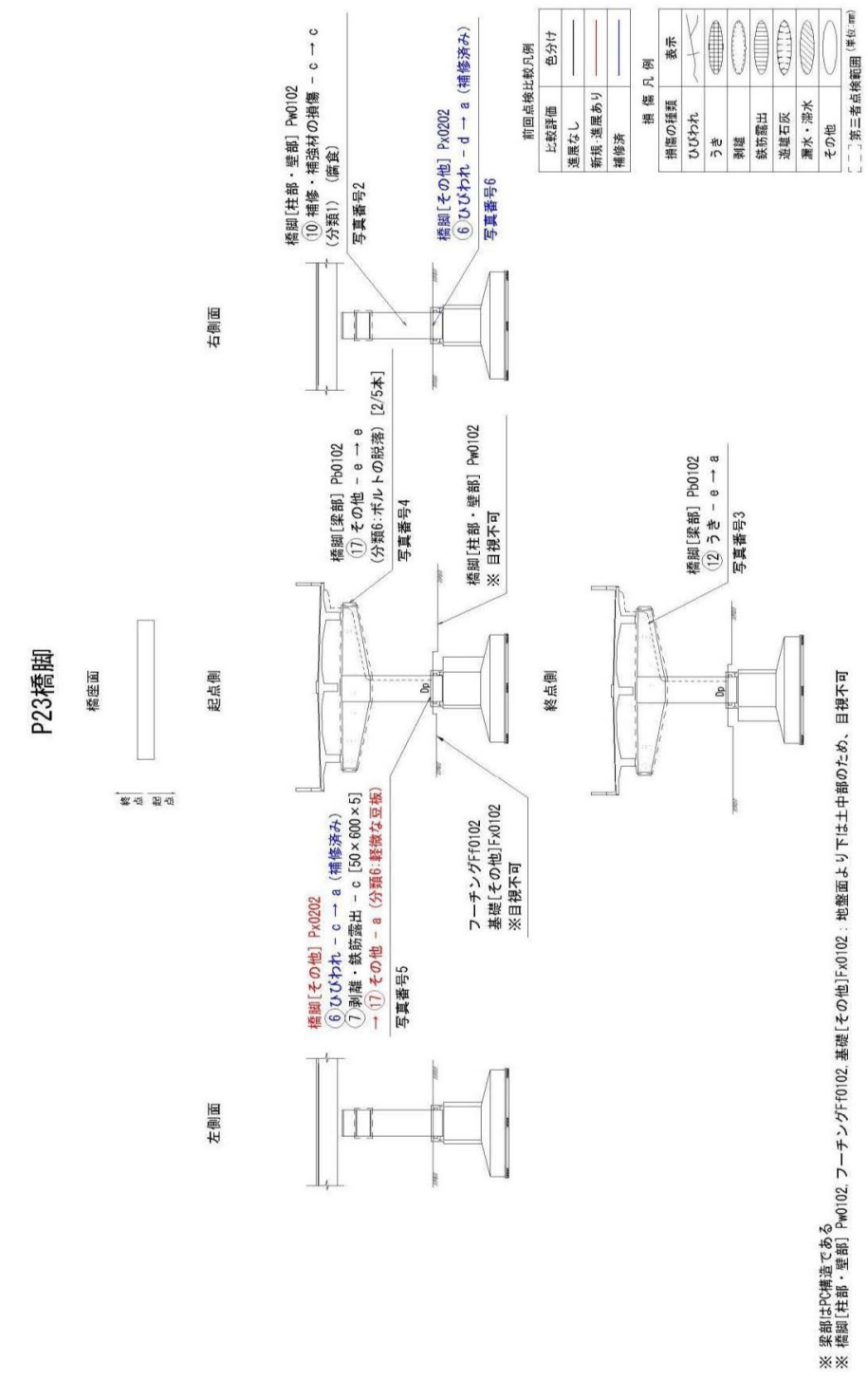


判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　F8537

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　F8539

基本データ

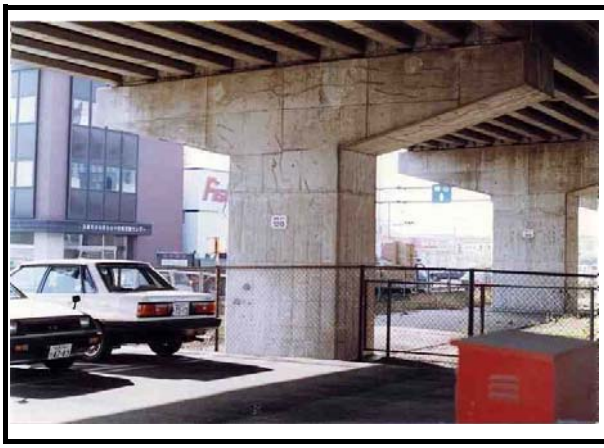
1. 所在地　：兵庫県姫路市
2. 路線名・河川名　：一般国道2号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1977年
5. 周辺環境　：海岸線より3300m



調査結果

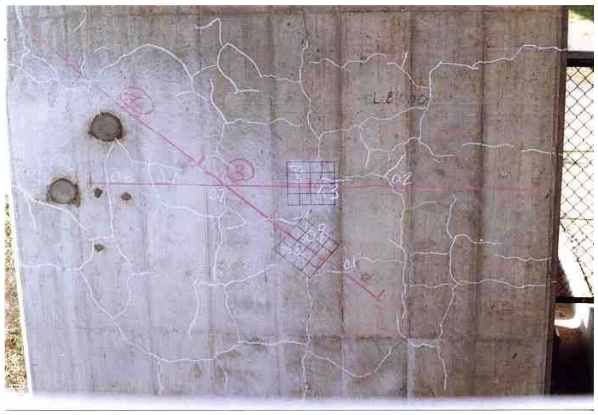
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：3.0mm
5. 調査者所見　：

・ 梁の水のあたる部分では亀甲状ひび割れが発生している。柱では亀甲状ではあるが，縦方向ひび割れが0.5～3.0mmと太く，横方向ひび割れは0.1～0.3mmと細い。



劣化状況の評価

・ 写真からは，ひび割れの大きい箇所を確認することができなかったが，記載されているひび割れ図から，ひび割れの大きい箇所では，劣化因子の侵入防止を目的としてひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　F8539

調査結果

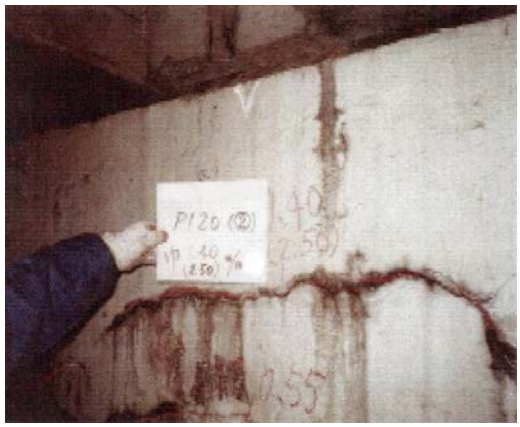
1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有（1994年）
4. 補修方法　：表面被覆，耐震補強
5. 最大ひび割れ幅　：2.5mm
6. 調査者所見　：

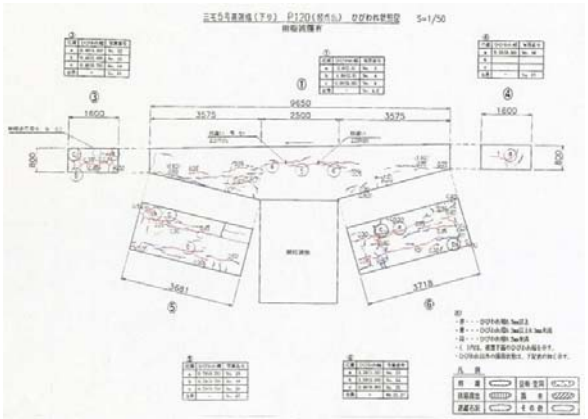
・判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：橋脚梁部は1994年に表面保護工を実施している。柱部は1996年に耐震補強として鋼板補強（鋼板厚t=9mm)を施している。2002年の外観調査から梁部においてASRによるひび割れを確認した。

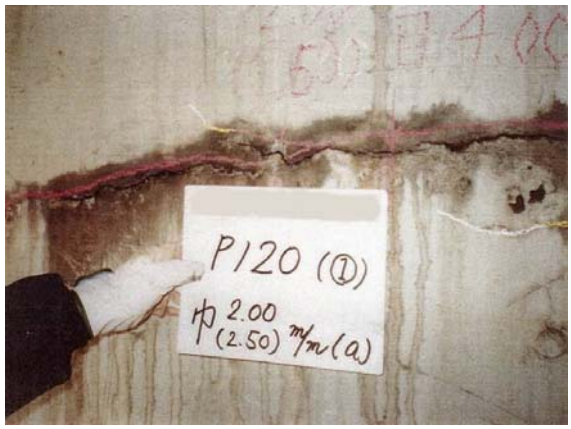


劣化状況の評価

・はり部は補修を行っているが，最大ひび割れ幅2.5mmのひび割れが水平方向に走っている。よって，再度ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。







判定結果 → 補修必要

2025年調査時点

構造物コード　F8539

調査結果

1. 調査年月　：2019年9月
2. 調査位置　：P120橋脚
3. 補修の有無　：有（2015年）
4. 補修方法　：断面修復工
5. 最大ひび割れ幅　：0.2mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

柱部は鋼板巻立てされているため，梁部について評価を行った。2003年調査時点で確認された表面被覆は撤去されており，断面修復が行われていた。梁部の側面にはひび割れが見られるものの，現状は側面のみにとどまっており，劣化の程度も軽微であることから，″経過観察″と判定した。





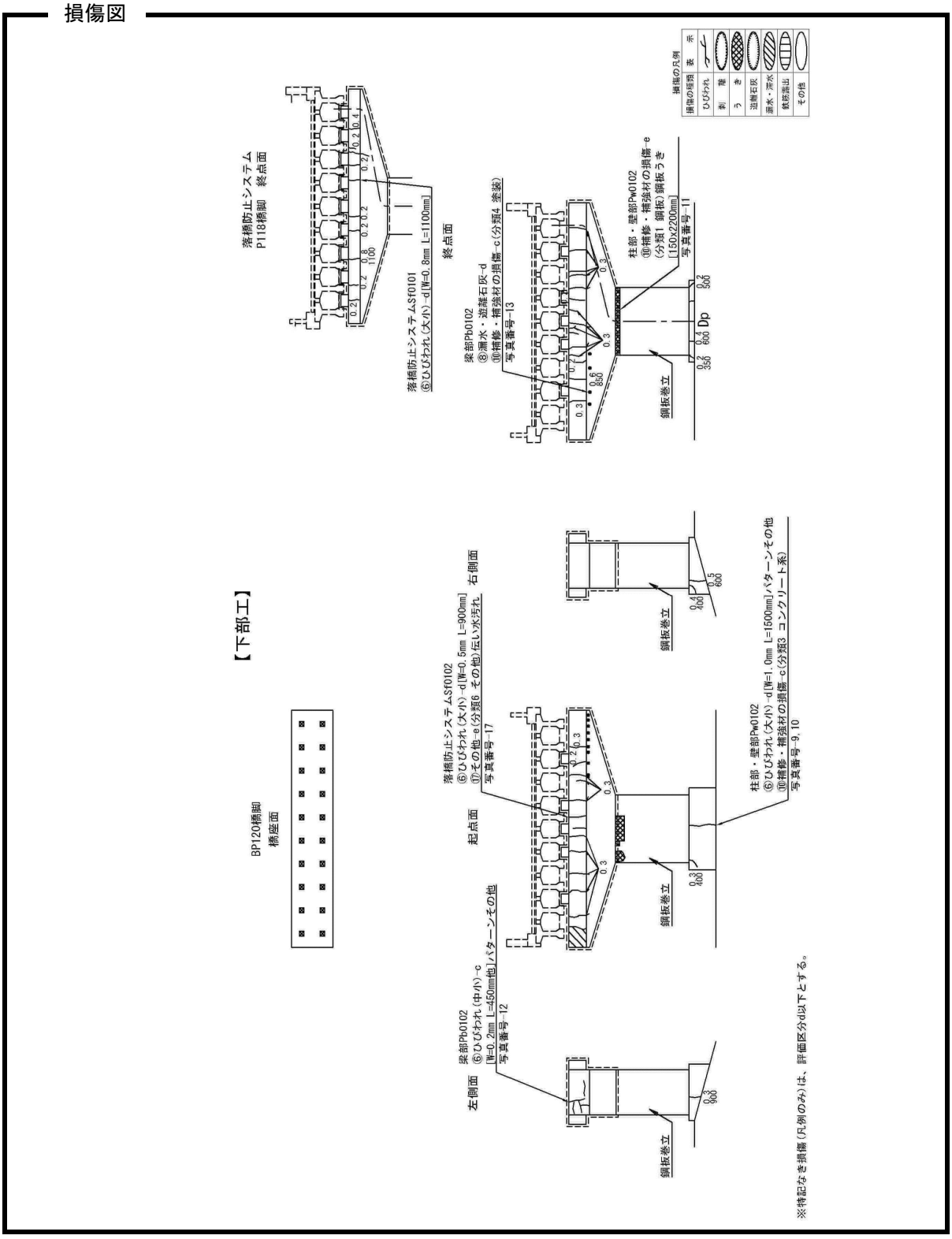


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　F8539

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　F8540

基本データ

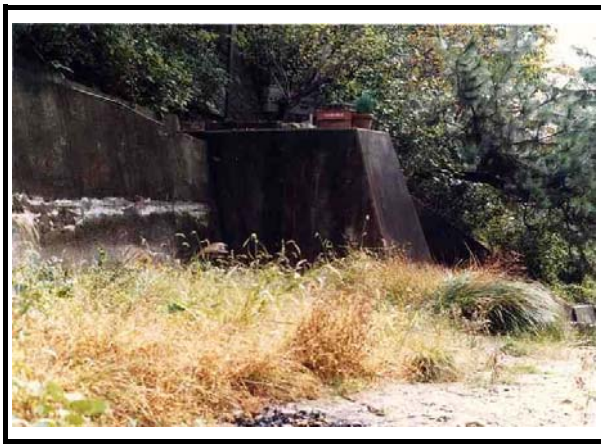
1. 所在地　：兵庫県神戸市
2. 路線名・河川名　：都賀川
3. 構造物種類　：床固
4. 竣工年　：1979年
5. 周辺環境　：海岸線より2830m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：11号床固左岸部
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：3.0mm
5. 調査者所見　：

・ 幅0.3mm以上のひび割れが亀甲状に入っており，特に端部でその幅が広くなり，最大3.0mmにも達している。ひび割れからはゲル状のものが浸出している。



劣化状況の評価

・ ひび割れは全体に発生しているが，ひび割れ幅は1mm未満が多く，ごく一部で3.0mmと広くなっている箇所が見られる。写真から，ひび割れ幅の広い箇所は，長さ数cm程度で部分的であると判断できるため，全体的に，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　F8540

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：前回調査時に比べｸﾗｯｸは多くなり，幅も多少大きくなっているが，症状は表面のみでゲル状の石灰分の流出は見られない。

全景写真無し

劣化状況の評価

・ひび割れ本数が前回調査時に比べて増えているが，ひび割れ幅は大きくないように見える。よって，前回の調査から18年が経過しているにもかかわらず，劣化状況に大きな変化はないと考えられる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　F8540

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **情報不足**

2025年調査時点

構造物コード　F8540

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　F8542

基本データ

1. 所在地　：兵庫県神戸市
2. 路線名・河川名　：一般国道2号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1979年
5. 周辺環境　：海岸線より360m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋脚柱
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：1.0mm
5. 調査者所見　：

・上部工が架設されない状態で6年程が経過しており，雨水が直接かかる。ひび割れを発見してから（2年程前）防水シートをかぶせ経時調査を行っている。全体に亀甲状ひび割れで縦方向が0.6～1.0mm，横方向が0.2～0.4mmである。



劣化状況の評価

・橋脚の柱全面にわたり，ひび割れが発生している。ひび割れ幅も大きく，広い範囲に広がっているので，ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　F8542

調査結果

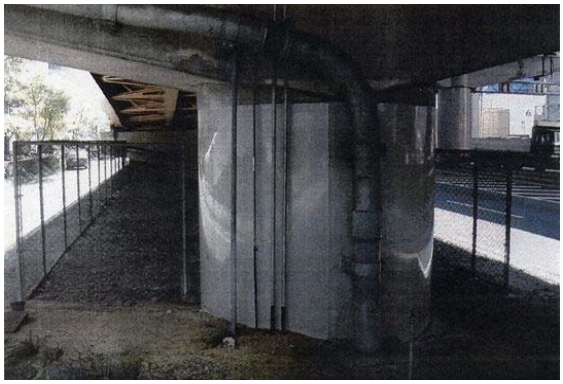
1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋脚柱
3. 補修の有無　：補強（補強年は不明）
4. 補修方法　：鋼板補強
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・ 1995年1月17日の兵庫県南部地震により被災。1995年5月～1996年3月に鋼板巻き立ての橋脚補強を実施している。

全景写真無し

劣化状況の評価

・ 劣化部には耐震補強を目的とした鋼板補強が行われている。よって，”経過観察”と判定。



劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　F8542

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **情報不足**

2025年調査時点

構造物コード　F8542

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　F8801

基本データ

1. 所在地　：兵庫県神戸市
2. 路線名・河川名　：一般国道2号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：不明
5. 周辺環境　：海岸線より0～300m

全景写真無し

調査結果

1. 調査年月　：1988年
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有（表面被覆）
4. 最大ひび割れ幅　：不明
5. 調査者所見　：

・補修理由は，ひび割れからの浸水によるアルカリ骨材反応の進行防止。

調査箇所全体写真無し

劣化状況の評価

・ひび割れや写真などの情報が不足しているため，判定を行うことができなかった。

劣化部写真無し

判定結果 → 情報不足

2003年調査時点

構造物コード　　F8801

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：補強
4. 補修方法　：鋼板補強
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・ 1995年1月17日の兵庫県南部地震により被災。1995年5月～1996年3月に鋼板巻き立ての橋脚補強を実施している。

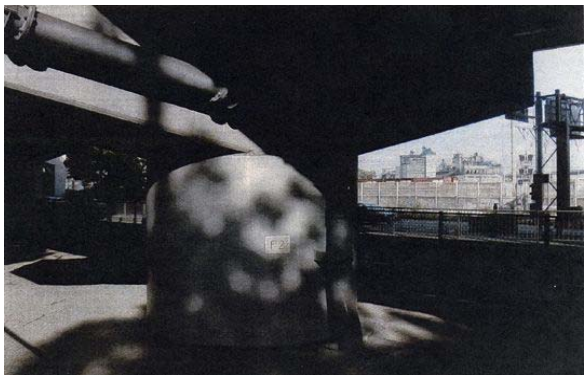
全景写真

劣化状況の評価

・ 写真より前回の調査は橋脚梁についての補修と考えられる。しかし，ひび割れ発生時期やひび割れの程度，補修の有無などについての情報が不足しており，判定を行うことができなかった。



劣化部写真



判定結果 → 情報不足

2025年調査時点

構造物コード　F8801

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **情報不足**

2025年調査時点

構造物コード　F8801

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　F9910

基本データ

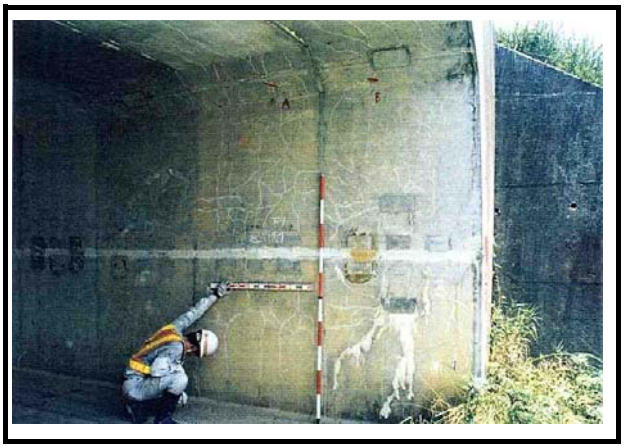
1. 所在地　：京都府福知山市
2. 路線名・河川名　：国道9号
3. 構造物種類　：ボックスカルバート
4. 竣工年　：1964年
5. 周辺環境　：海岸線より24km



調査結果

1. 調査年月　：1999年9月
2. 調査位置　：ボックス内面
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：1.3mm（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・ 鋼材露出：ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ,1～2箇所,延長0.25m
豆板・変色無し，はく離無し，さび汁無し，
浮き無し



劣化状況の評価

・ ひび割れ幅は最大で1.2mm程度で，広範囲に広がっている。よって，ひび割れ注入により鉄筋の腐食をを防ぐ必要があると考えた。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　F9910

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：ボックス
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：1.3mm
6. 調査者所見　：

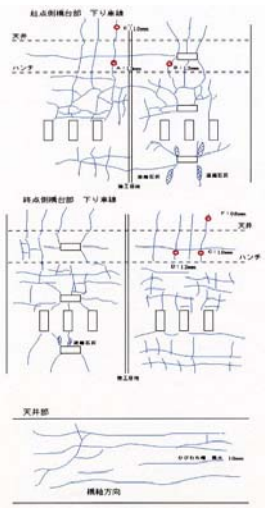
・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない
・ｺﾒﾝﾄ：ひび割れ幅調査結果
A:1.3mm→1.3mm, B:1.3mm→1.3mm, C:1.0mm→1.0mm, D:1.2mm→1.2mm, E:1.0mm→1.0mm, F:0.8mm→0.8mm　全て変化無し



劣化状況の評価

・前回の調査時点での資料からは，ひび割れ注入による補修が必要と判定した。しかし，4年が経過した今回の時点で，ほとんど劣化が進行していないこと，竣工から39年が経過した現在でも劣化の程度が比較的軽微であることから，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　F9910

調査結果

1. 調査年月　：2021年9月
2. 調査位置　：側壁ボックス
3. 補修の有無　：有（補修年は不明）
4. 補修方法　：ひび割れ注入？
5. 最大ひび割れ幅　：0.2mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

補修箇所、未補修箇所ともに変状は見られないため，〝経過観察〟と判定した。





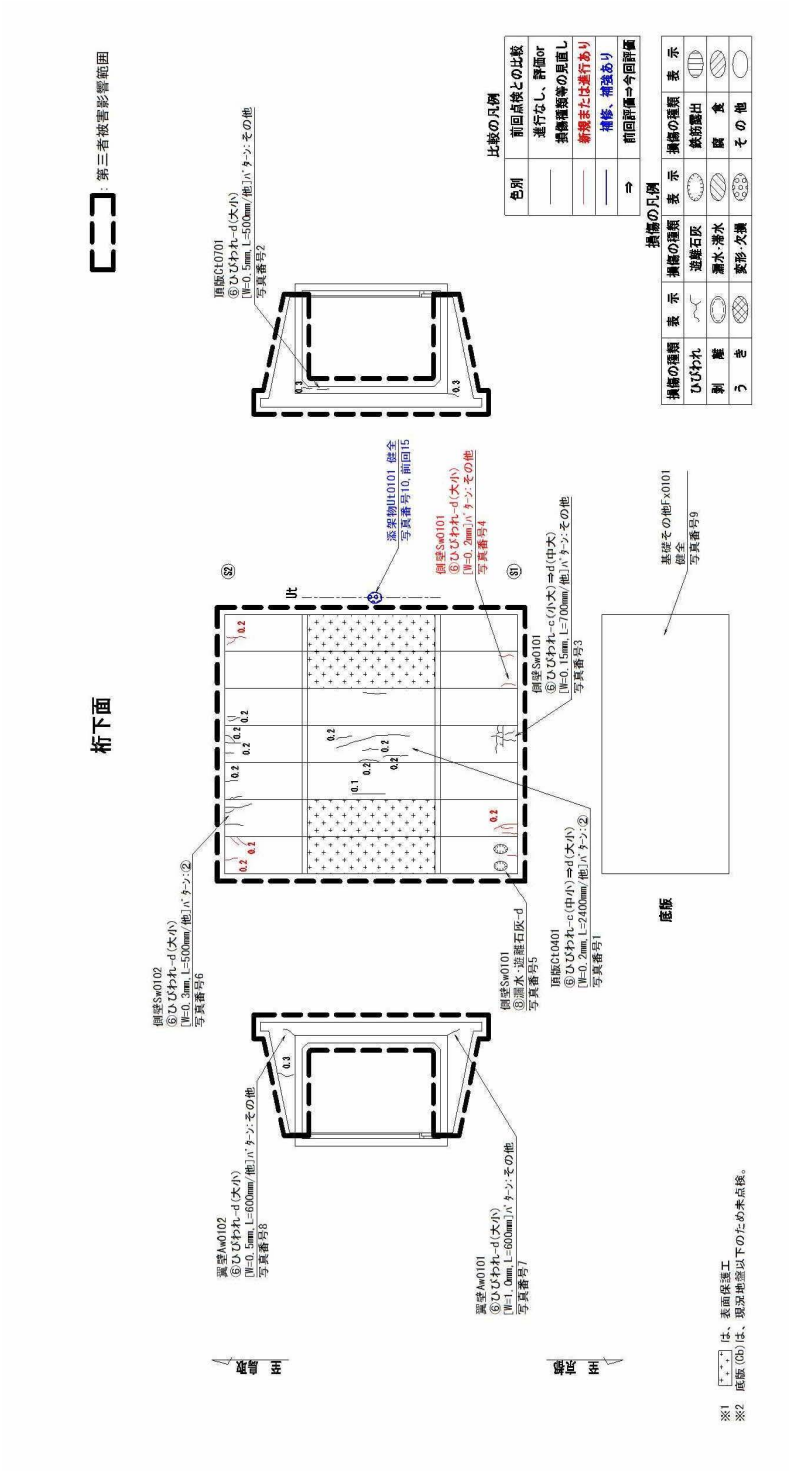


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　F9910

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　G8552

基本データ

1. 所在地　：広島県佐伯郡
2. 路線名・河川名　：国道2号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1972年
5. 周辺環境　：海岸線より300m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：1.5mm
5. 調査者所見　：

- 当該箇所は一般国道2号線に施工されており，山陽本線を上越している跨線橋であり，調査したA2橋台（海岸全体的に亀甲状のｸﾗｯｸが多数見られ，特に上り車線側が顕著であった。この部分では流水のシミ，コケの付着が見られる。上部工と橋台との境界部分に水の流出が見られる。橋台上部，ﾋﾟｱ上部の張り出し部にも亀甲状のｸﾗｯｸが見られる。



劣化状況の評価

- 橋台竪壁前面，側面に亀甲状のひび割れが発生している。ひび割れは最大で1.5mmで，数はそれほど多く見られない。しかし，この橋梁は跨線橋であり，万一，コンクリートの一部がはく落した場合には，第三者被害のおそれもある。そこで，ひび割れ注入による補修が必要。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　G8552

調査結果

1. 調査年月　：2003年9月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：2.0mm
6. 調査者所見　：

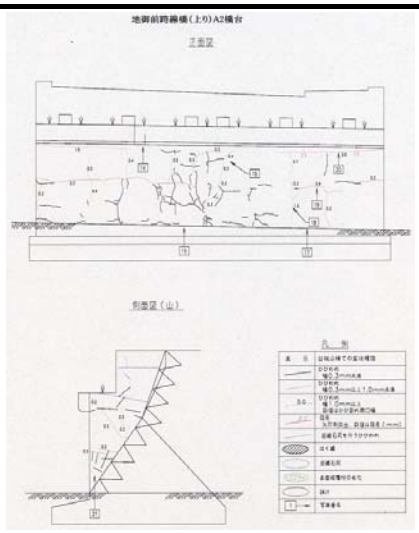
・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ｺﾒﾝﾄ：漏水跡が竪壁前面に見られ，ひび割れも小さなものが全面に広がっている。橋座拡幅部にひび割れがほとんど発生していないため，橋座拡幅後の本体橋脚の膨張はそれほど起こっていないと考えられる。

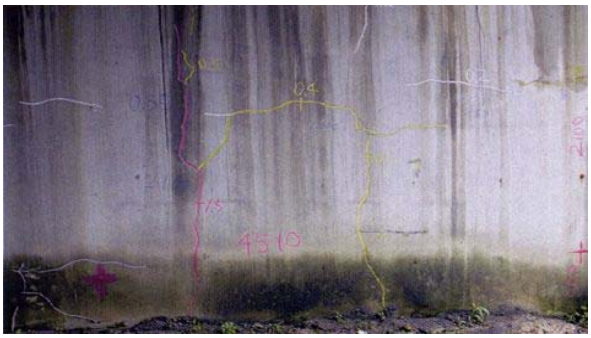
全景写真無し

劣化状況の評価

・調査者は補修無しとしているが，過去の調査写真と比較すると表面の打ち継ぎが消えているため，表面被覆を施工しているものと考えられる。ひび割れ幅は最大で2.0mmであるが部分的である。また，ひび割れのパターンがASRの特徴に合致しておらず，ひび割れの原因がASRによるものか明確でない。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　G8552

調査結果

1. 調査年月　：2021年10月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：有（2005年）
4. 補修方法　：ひび割れ注入（亜硝酸リチウム）
5. 最大ひび割れ幅　：－
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

補修箇所、未補修箇所ともに変状は見られないため，″経過観察″と判定した。





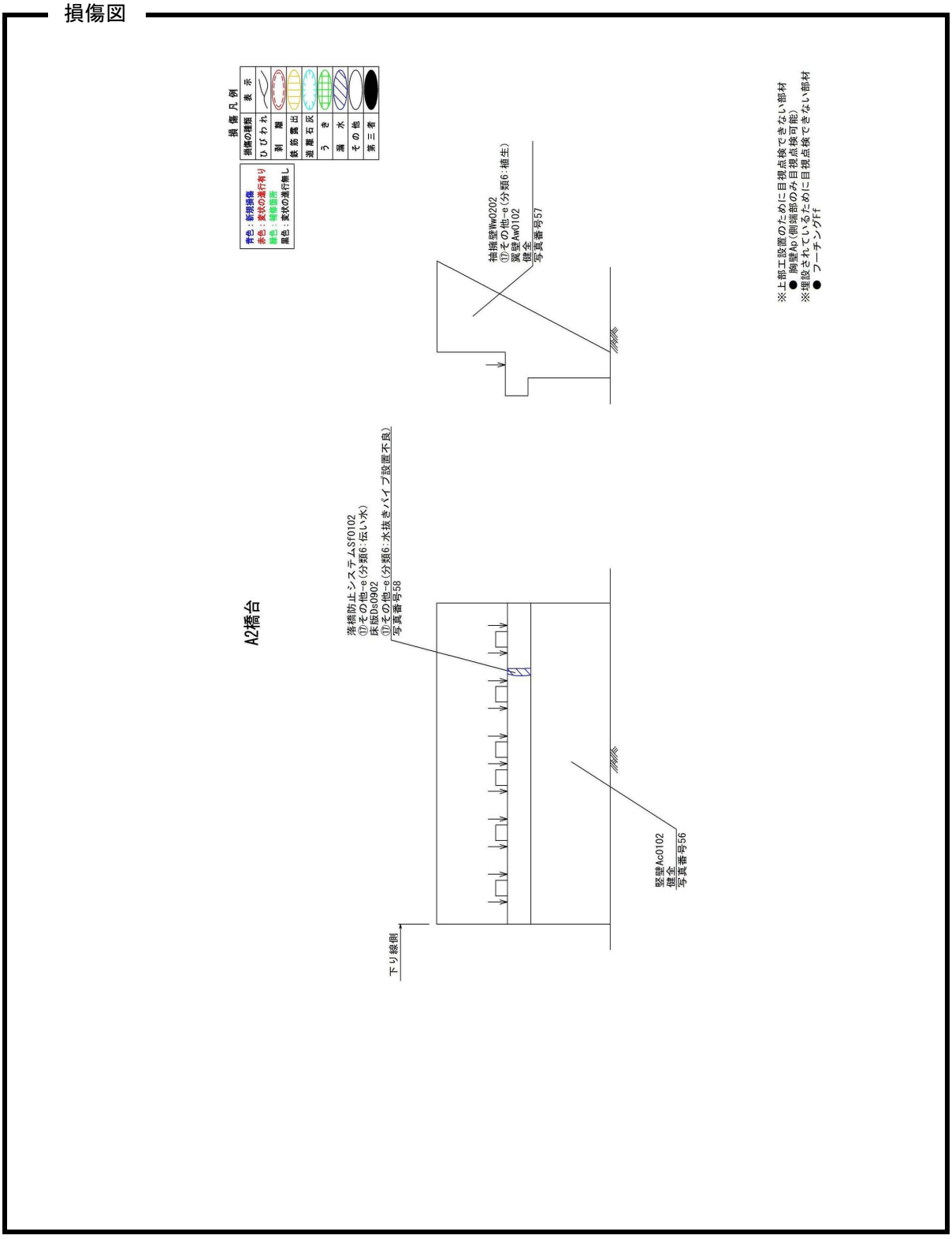


判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　G8552

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　G8553

基本データ

1. 所在地　：広島県広島市
2. 路線名・河川名　：一般国道2号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1973
5. 周辺環境　：海岸線より3km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：P24橋脚はり部
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明
5. 調査者所見　：

・ 橋脚の柱部には目立ったｸﾗｯｸは見られないが，写真のように橋脚の張り出し部の下面に多数の亀の子状のｸﾗｯｸが見られ，流水のシミ（茶色）が多数見られる。日当たりの悪い張り出し部の下面にはP23～P26に同様な亀の子状のｸﾗｯｸ，茶色の流水，シミ等が多数見られる。



劣化状況の評価

・ 橋脚はり部の側面，下面に亀甲状のひび割れが多数見られる。ひび割れ幅は記載されていないが，写真から判断するとさほど幅は大きくなく，白い析出物で塞がっているように見える。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　G8553

調査結果

1. 調査年月　：2003年9月
2. 調査位置　：P24橋脚
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：鋼板補強
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。
・ｺﾒﾝﾄ：鋼板巻き立て補強によりひび割れは確認できない。

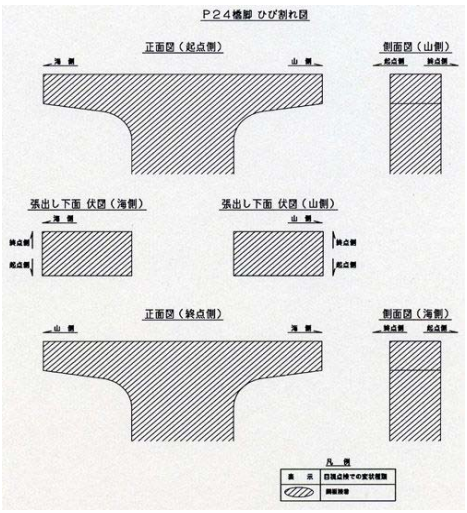


劣化状況の評価

・柱部・はり部ともに全面にわたり鋼板補強を行っている。目的は，耐震補強に加え，アルカリ骨材反応劣化の補修も含んでいるのではないかと考えられるが明確でない。



劣化部写真



判定結果 → 対策済み

2025年調査時点

構造物コード　G8553

調査結果

1. 調査年月　：2020年11月
2. 調査位置　：P78橋脚
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：鋼鈑補強
5. 最大ひび割れ幅　：－
6. 調査者所見　：

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：



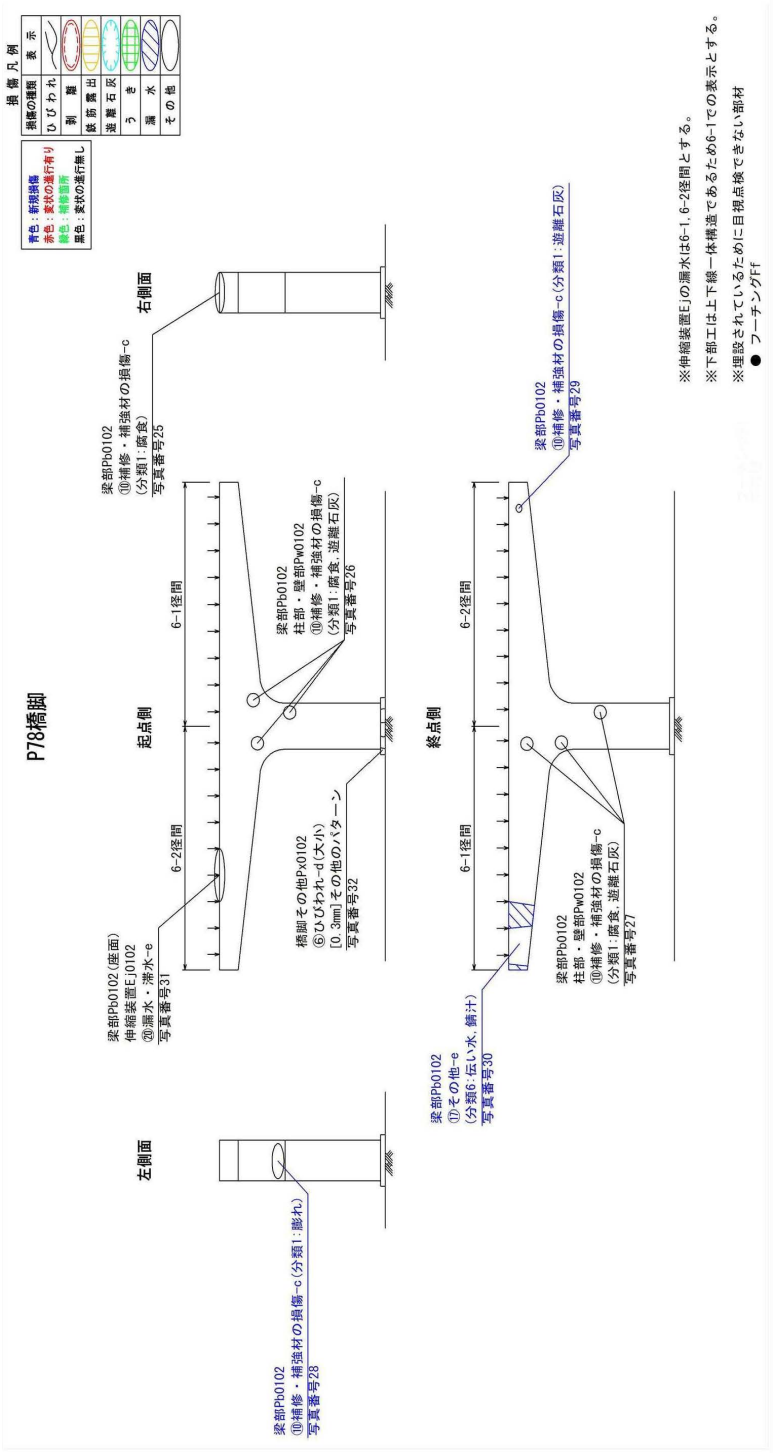
劣化状況の評価

判定結果 ⟶ 対策済み

2025年調査時点

構造物コード　G8553

損傷図

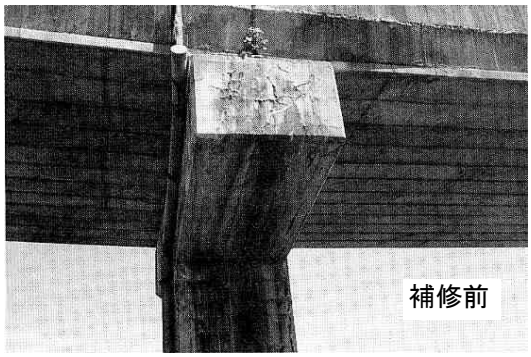


1985年調査時点

構造物コード　　G8802

基本データ

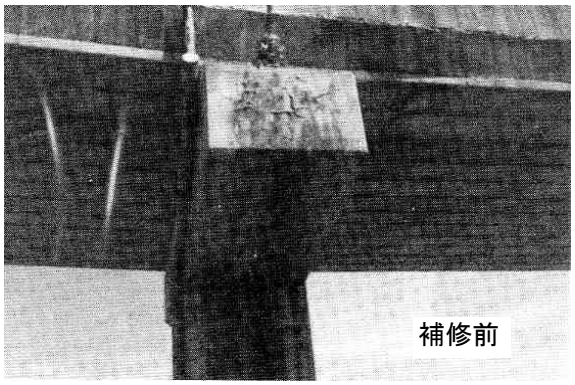
1. 所在地　：広島県佐伯郡
2. 路線名・河川名　：不明
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より50m



調査結果

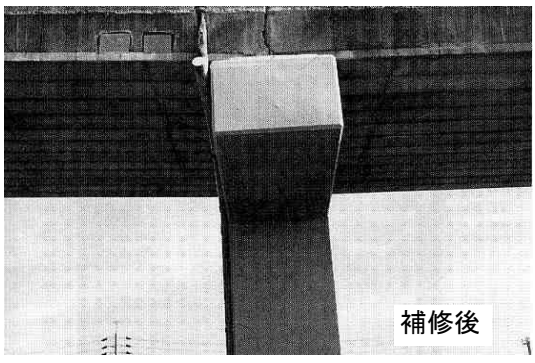
1. 調査年月　：1988年
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有（ひび割れ注入+表面被覆）
4. 最大ひび割れ幅　：不明
5. 調査者所見　：

・補修理由は，橋脚全面に塩害とアルカリ骨材反応が原因と見られる網目状のひび割れ発生



劣化状況の評価

・橋脚のはり部，柱上部に網目状のひび割れが発生。そのひび割れに対し，樹脂注入，エポキシ系防水塗装を実施している。調査時点は，補修直後であったため，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　G8802

調査結果

1. 調査年月　：2003年9月
2. 調査位置　：P1～P8橋脚
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ｺﾒﾝﾄ：P1橋脚は，梁の起点側と側面にひび割れが確認できる。漏水や雨水により橋座にたまった水分が起点側と側面を流下しひび割れが発生したことが考えられる。P2～P8橋脚は，梁の側面にひび割れが確認できる。漏水や雨水により橋座に溜まった水分が側面を流下しひび割れが発生したことが考えられる。橋座拡幅部にひび割れが発生していないため橋座拡幅後の本体橋脚の膨張は起こっていないと考えられる。



劣化状況の評価

・過去の調査以前に表面被覆が行われている。ひび割れが発生している箇所は，上部からの水が流下する梁側面に集中している。しかし，ひび割れ幅や範囲が記されておらず，補修が必要かどうかを判断するには，これらの情報を入手した上で再度検討が必要と考えられる。よって，”検討必要”と判定。







判定結果 → 検討必要

2025年調査時点

構造物コード　G8802

調査結果

1. 調査年月　：2022年9月
2. 調査位置　：P1～8橋脚
3. 補修の有無　：有(2011)
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：0.5㎜
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：記録に残っていないがP1の梁部側面で断面修復されている可能性がある。



劣化状況の評価

2003年調査時点で確認された表面被覆が撤去されており，ひび割れ注入と断面修復が行われていた。P1橋脚の張り出し部では，断面修復箇所において既設部との境界部から錆汁が生じており，鉄筋腐食の可能性が疑われる。また，その他にも全体的にひび割れや浮きが見られる。このため，鉄筋の腐食状態を調査し，補修・補強の要否を決める必要があると判断し，″検討必要″と判定した。





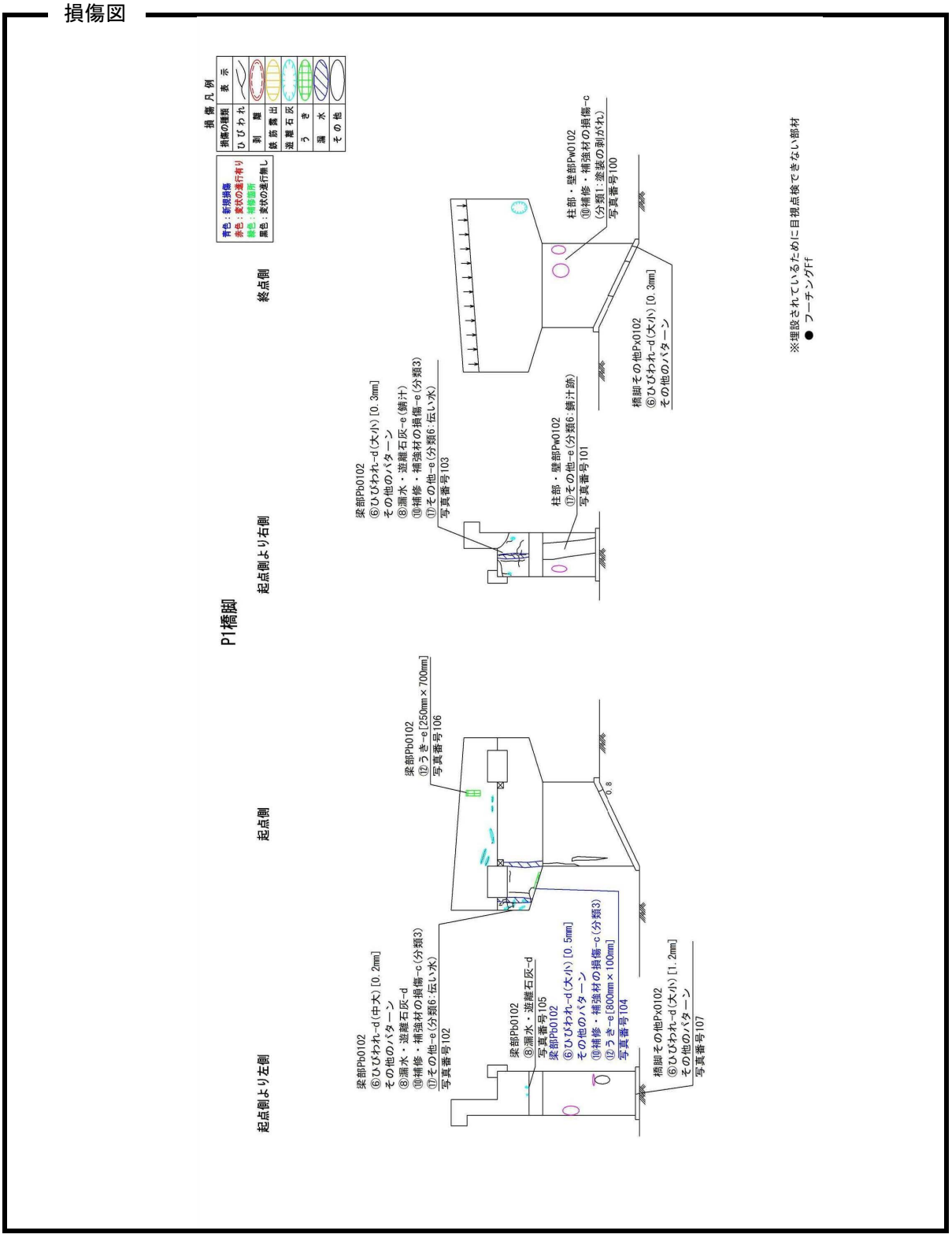


判定結果 ⟶ **検討必要**

2025年調査時点

構造物コード　G8802

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　G9911

基本データ

1. 所在地　：広島県廿日市市
2. 路線名・河川名　：一般国道2号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1977年
5. 周辺環境　：海岸線より1.3km



調査結果

1. 調査年月　：1999年
2. 調査位置　：A1,A2橋台
3. 補修の有無　：有（1997年ひび割れ注入）
4. 最大ひび割れ幅　：不明(直角方向,多数,延長10m)
5. 調査者所見　：

・連結プレート下端のひび割れにより，遊離石灰が生じている。
はく離：1～2ヵ所
浮き：異常音1～2ヵ所
豆板・変色無し，さび汁無し，鋼材露出無し

調査箇所全体写真無し

劣化状況の評価

・ひび割れが橋台竪壁端部に生じている。しかし，ひび割れのパターンを見ると，アルカリ骨材反応によるものか疑わしい。また，写真からはひび割れ幅も小さく，本数も少ないように見受けられる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　G9911

調査結果

1. 調査年月　：2003年9月
2. 調査位置　：下りA2橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：2.0mm
6. 調査者所見　：

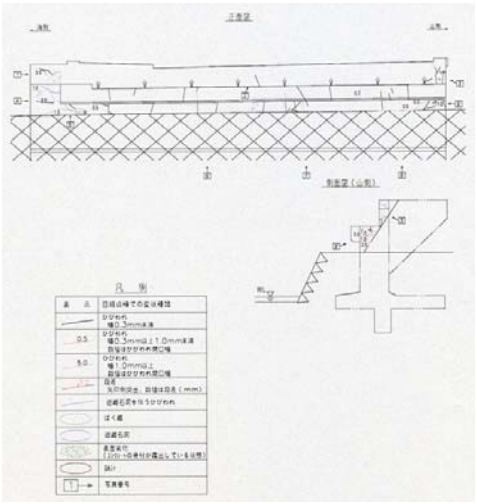
・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ｺﾒﾝﾄ：水道管結露による水分の供給があり，アルカリ骨材反応を促進している。橋座拡幅部に鉛直方向にひび割れが入っていることから，橋座拡幅後にも本体構造物のアルカリ骨材反応による膨張が進んでいたことが推測される。

全景写真無し

劣化状況の評価

・橋台竪壁側面のひび割れ状況を見ると，前回調査時からひび割れ本数は若干増えたように見えるが，ひび割れ幅については変化していないように見える。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　G9911

調査結果

1. 調査年月　：2023年7月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：有（2005年）
4. 補修方法　：断面修復、表面被覆？
5. 最大ひび割れ幅　：－
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：2005年に実施された断面修復以降に表面被覆などが実施された可能性あり



劣化状況の評価

一部で漏水や滞水が確認されているが、現状うきやひび割れが生じていないため、"経過観察"と判定した。

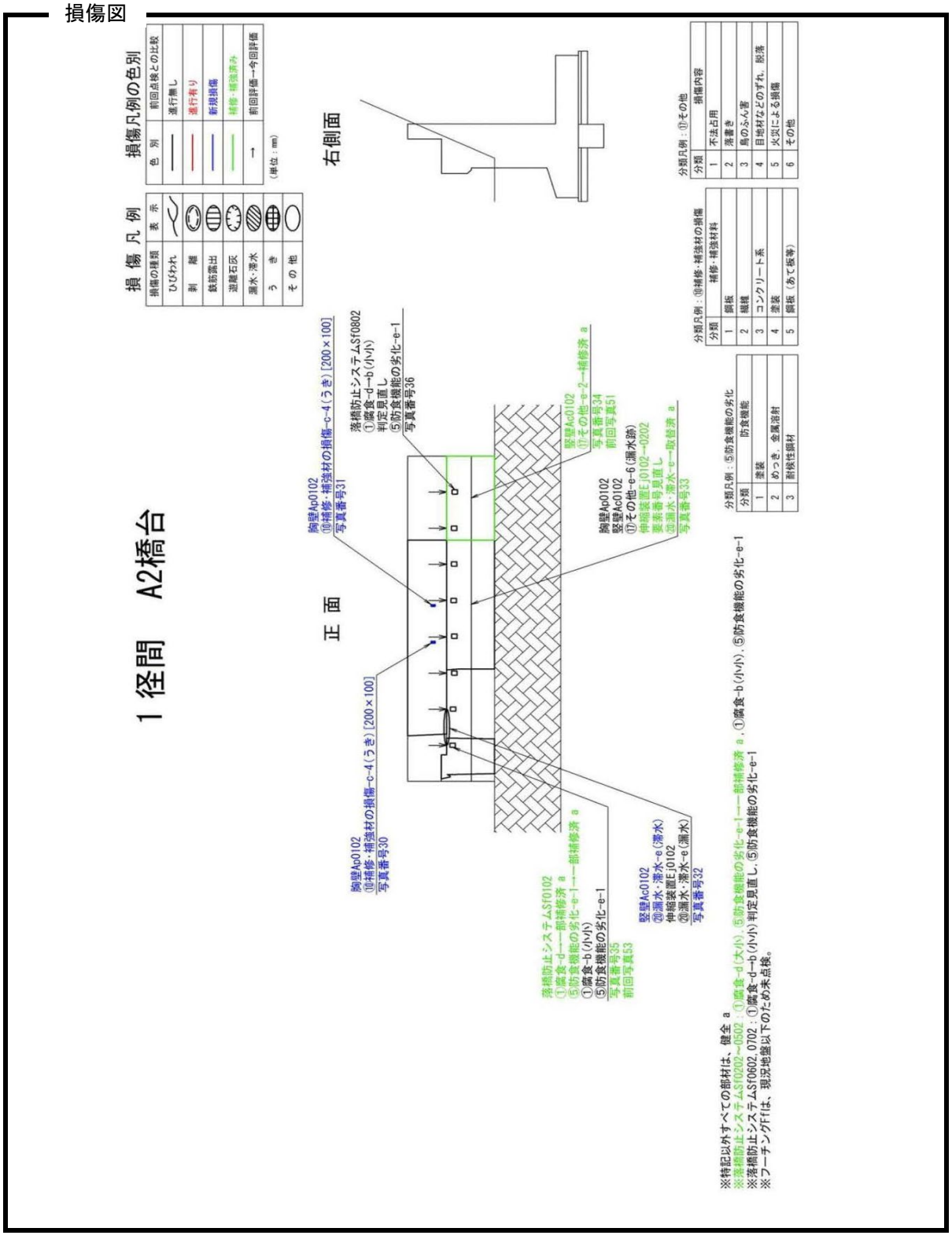


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　G9911

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　G9912

基本データ

1. 所在地　：鳥取県八頭郡
2. 路線名・河川名　：一般国道29号
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1964年（推定）
5. 周辺環境　：海岸線より30.7km



調査結果

1. 調査年月　：1999年9月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数，300m）
5. 調査者所見　：

・ ひび割れから遊離石灰。
外観：変色有り
はく離：角欠け，3～5ヵ所，面積約0.1m2
浮き：異常音多数有り
さび汁無し，鋼材露出無し



劣化状況の評価

・ ひび割れは全面に広がっている。ひび割れの大きい部分は，ひび割れ注入を行うことも検討する必要がある。また，たたき検査で異常音が発生している箇所が多数あることも分かっている。コンクリートが浮いている部分については，たたき落として断面修復等を行うことも必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　G9912

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：有（2000年）
4. 補修方法　：擁壁改築，ひび割れ充填
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

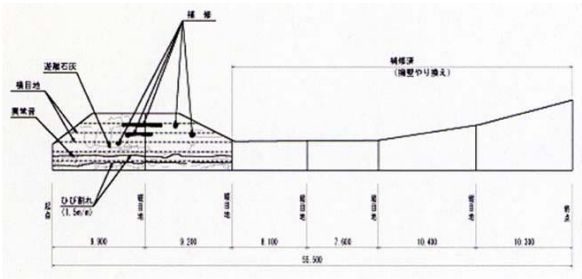
・判定：補修箇所・未補修箇所ともに劣化の進行が見られる
・ｺﾒﾝﾄ：補修が施されているため，補修の緊急度は少ない



劣化状況の評価

・擁壁の一部は，アルカリ骨材反応による劣化が原因で改築したものと思われる。また，改築されていない部分は，ひび割れ充填により補修がされている。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　G9912

調査結果

1. 調査年月　：2024年11月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

ASRが原因だと思われるひび割れやが白色の析出物が多数確認できる。また、改築箇所でも複数の箇所で白色析出物が確認できる。ただし、2003年調査時点からの進展は小さいように見えるため、"経過観察"と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　G9912

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　G9913

基本データ

1. 所在地　：鳥取県鳥取市
2. 路線名・河川名　：一般国道9号
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1973年（推定）
5. 周辺環境　：海岸線より1.7km



調査結果

1. 調査年月　：1999年9月
2. 調査位置　：擁壁全面
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数，延長80m）
5. 調査者所見　：

・ ひび割れ，目地の開きより裏込め砕石抜け落ち。
外観：変色有り
浮き：異常音1～2ヵ所
はく離無し，さび汁無し，鋼材露出無し



劣化状況の評価

・ ひび割れ幅については，写真で確認することが困難であるが，幅の小さいひび割れが広い範囲に広がっているように見える。写真からは緊急を要するような損傷ではないと考えられるため，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　G9913

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：有（2000年）
4. 補修方法　：ひび割れ充填
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

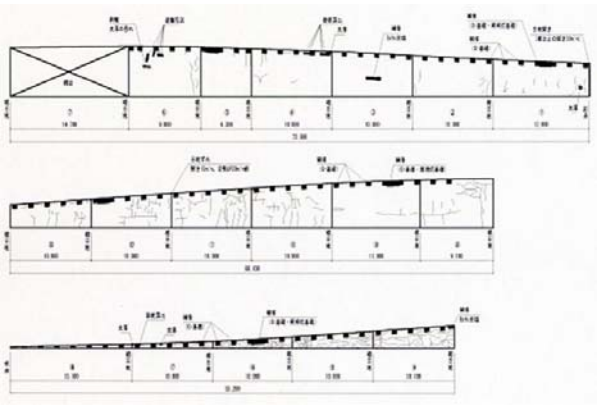
・判定：補修箇所・未補修箇所に劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：比較的健全である



劣化状況の評価

・ひび割れには，ひび割れ充填による補修が行われている。劣化部の近接写真がなく，判定は難しいが，調査者の所見を元に，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　G9913

調査結果

1. 調査年月　：2024年9月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

過去調査では近接写真がないため，劣化の進行状況は不明であるが，ひび割れ充填を実施している箇所に再劣化が見られないこと，竣工から51年が経過していることから，"経過観察"と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　G9913

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　G9914

基本データ

1. 所在地　：鳥取県八頭郡
2. 路線名・河川名　：一般国道53号
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1982年（推定）
5. 周辺環境　：海岸線より18.5km



調査結果

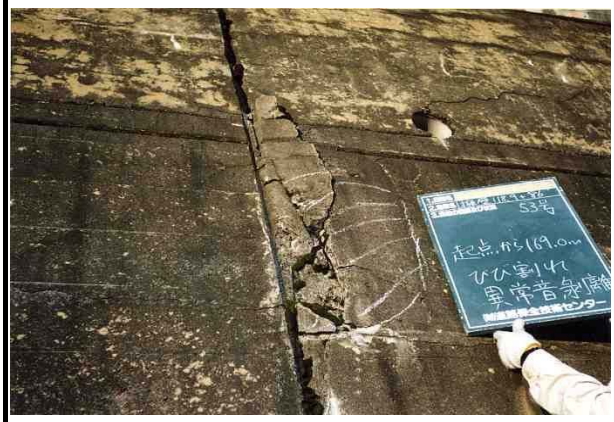
1. 調査年月　：1999年9月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明(両方向,多数,延長600m)
5. 調査者所見　：

・ ひび割れ・はく離，ｺﾝｸﾘｰﾄ塊の欠落の危険性有り。
はく離：角欠け多数，面積2.4m2
浮き：異常音多数
豆板・変色無し，さび汁無し，鋼材露出無し



劣化状況の評価

・ 部分的に亀甲状のひび割れが発生している。ひび割れ部に白い析出物が見られ，ひび割れ幅はさほど大きくないように見える。一方，はく離箇所が多数存在し，はく落の恐れがある。浮き部分はたたき落とした上で，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　G9914

調査結果

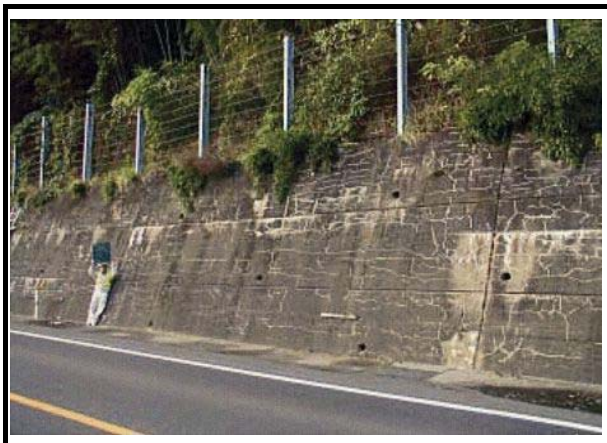
1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

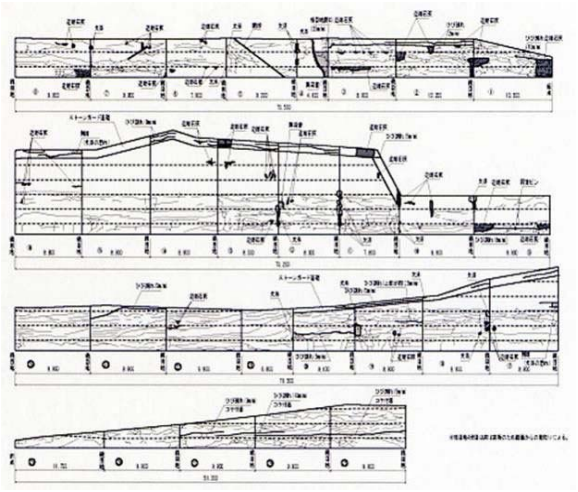
・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる
・ｺﾒﾝﾄ：ストーンガード基礎部の損傷が激しく，ストーンガードの落下が懸念されるため，補修の緊急度は高い



劣化状況の評価

・鮮明な写真がなく，判定は難しいが，ひび割れの本数などから判断すると，4年前の調査時点からアルカリ骨材反応による劣化は進行していないと考えられる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　G9914

調査結果

1. 調査年月　：2023年8月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 判定：擁壁の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

2003調査時点の近接写真がないため，詳細には分からないが，全体的な傾向としては劣化は進行していないように見えるため、〃経過観察〃と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　G9914

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　H8554

基本データ

1. 所在地　：香川県坂出市
2. 路線名・河川名　：一般国道11号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1979年
5. 周辺環境　：海岸線より2.9km



調査結果

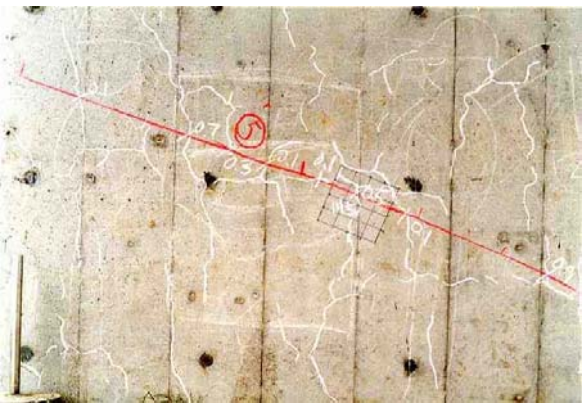
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：A1橋台，P1橋脚
3. 補修の有無　：有（1985年ひび割れ注入+表面被覆）
4. 最大ひび割れ幅　：0.9mm
5. 調査者所見　：

- 気候は温暖少雨で本線，側道とも交通量は少ない。橋台はS59.12ひび割れに樹脂注入による補修，橋脚は一部表面被覆補修がされている。ひび割れは，一応補修済みとの事であるが0.5mm以上のひび割れが見られた。また，0.1mm以下の微細ひび割れが亀甲状に入っている。



劣化状況の評価

- ひび割れは最大で幅0.9mmのものがあるが，発生している範囲は狭く，すぐに構造物の耐久性上問題となるような損傷ではないと判断される。よって，”経過観察”と判定。



判定結果　→　経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　H8554

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：A1橋台，P1,P4橋脚
3. 補修の有無　：A1橋台のみ有（2002年）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：P1:0.9mm，P4:1.1mm
6. 調査者所見　：

A1→判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。ｺﾒﾝﾄ：保護塗装後の変状は認められない。P1→判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。ｺﾒﾝﾄ：前回の調査と比較し，ｸﾗｯｸの進展は認められない。P4→判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。ｺﾒﾝﾄ：柱部および梁部は，前回調査後に耐震補強を実施しており，補強後の変状は認められない。しかし，梁部は下面に0.2mmから1.1mmのｸﾗｯｸが発生している。



劣化状況の評価

・A1橋台は過去調査時前後でひび割れ注入，2002年にｺﾝｸﾘｰﾄ保護塗装を実施しており，ひび割れは確認できない。P1橋脚は過去調査時前後で塗装を実施している。ひび割れ本数の増加分については確認できないが，幅等に変化は無いようである。P4橋脚は，前回は調査が行われていないが，はり下面に若干ひび割れが見られた。ひび割れの最大幅は1.1mmではあるが，写真からはすぐに鉄筋の腐食などの問題が生じる状態ではないように見える。
よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　H8554

調査結果

1. 調査年月　：2020年11月
2. 調査位置　：A1橋台, P1, P4橋脚
3. 補修の有無　：有(2005, 2013, 2016)
4. 補修方法　：RC巻立て，ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：0.15mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所，未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

P1のRC巻立て部にひび割れが確認されるが，これは乾燥収縮が原因と思われる。ASRが原因と思われる変状は発生していないため，″経過観察″と判定した。





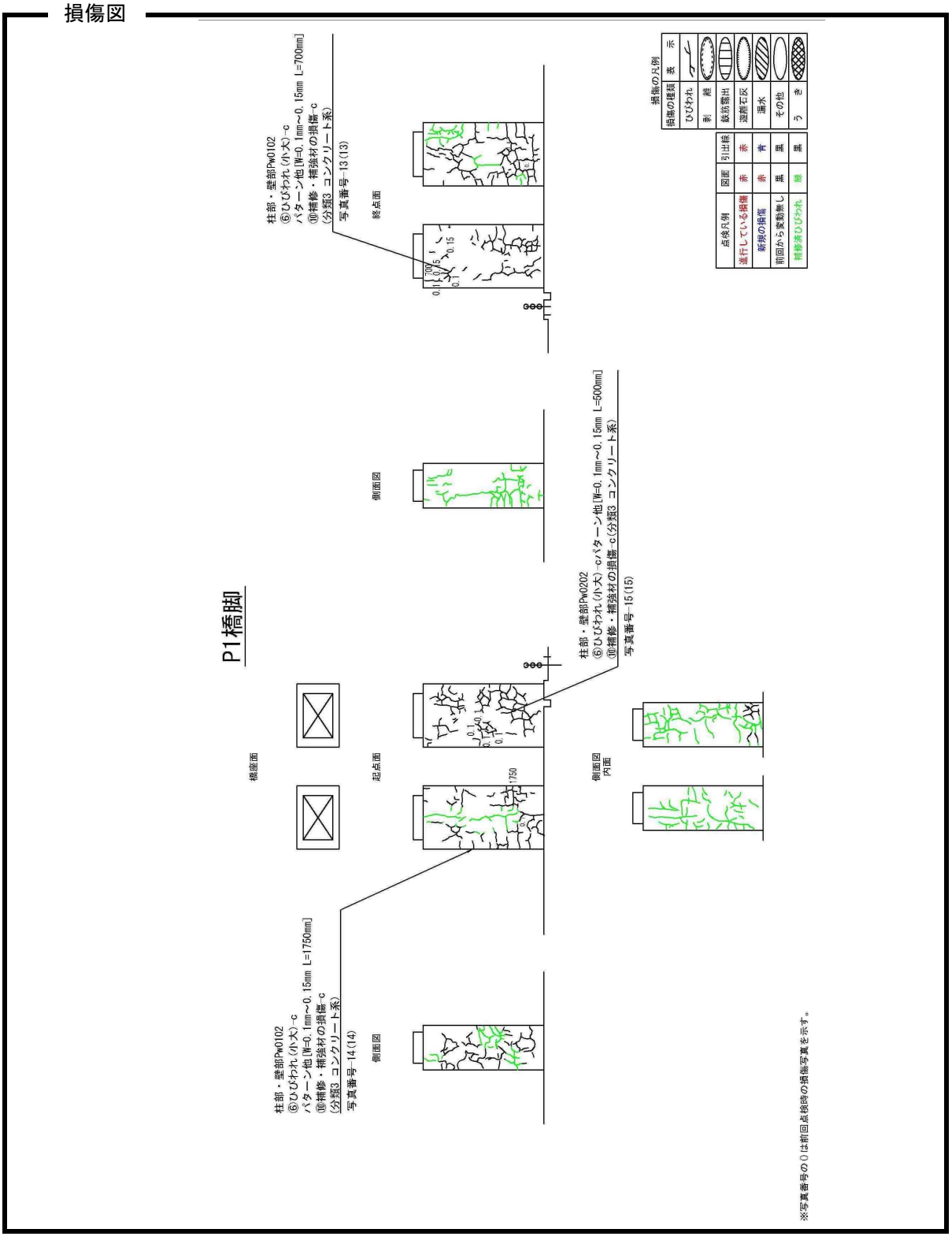


判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　H8554

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　H8555

基本データ

1. 所在地　：香川県綾歌郡
2. 路線名・河川名　：一般国道11号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より5.5km



調査結果

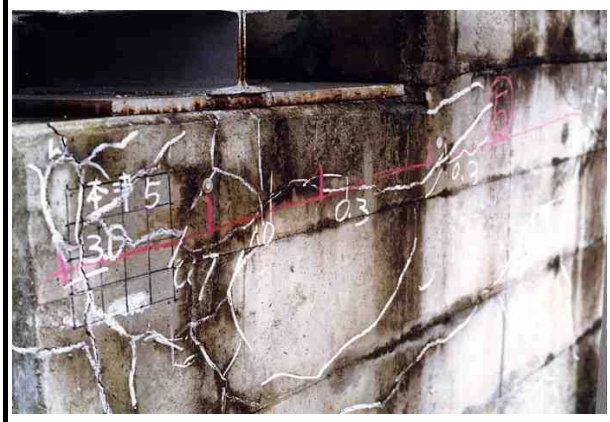
1. 調査年月　：1985年11月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：3.0mm
5. 調査者所見　：

- 瀬戸内海気候に属し，温暖で雨の少ない地方であるが当該橋台はｼﾞｮｲﾝﾄ部からの漏水が激しく，日当たりの悪さと相まって降雨後湿潤状態が長い。全体に亀甲状のひび割れが発生しており，漏水により水の当たる部分のひび割れが他の部分と比較して大きく2～3mmのひび割れが見られる。また橋台側面，ｳｲﾝｸﾞにも0.5～3.0mmのひび割れが見られる。ひび割れからは白濁物質が浸出している。



劣化状況の評価

- 上部からの漏水により，橋台前面，側面に亀甲状のひび割れが生じている。ひび割れ幅は最大3.0mmで，広範囲に広がっているため，ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

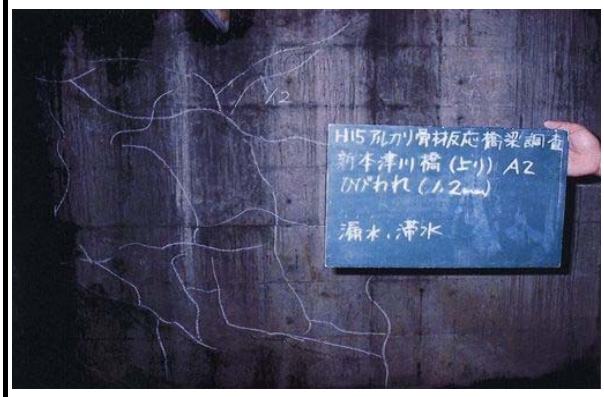
2003年調査時点

構造物コード　　H8555

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：有（1986年）
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：1.2mm
6. 調査者所見　：

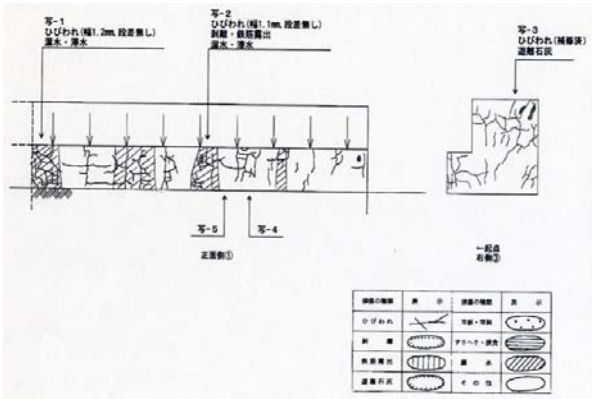
・判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：昭和61年2月に補修を行っているが，防水材塗布部についてはｸﾗｯｸ（最大幅1.2mm）が発生しており，補修後も劣化の進行が見られる。また，ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入部の変状は認められない。なお，A1橋台についても同様である。



劣化状況の評価

・過去の調査のすぐ後にひび割れ注入を実施しているが，再度ひび割れが発生している。ひび割れ幅は最大1.1mmとあるが，写真からはすぐに構造物の耐久性が問題となるような状況ではないと考えられる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　H8555

調査結果

1. 調査年月　：2020年10月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：有（2006, 2013, 2019年）
4. 補修方法　：ひび割れ注入（亜硝酸リチウム），断面修復
5. 最大ひび割れ幅　：0.3mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所，未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：擁壁部のひび割れは、前回点検時の記録にはなかったが、新たに発生したのか、記録されていなかっただけかは不明。



劣化状況の評価

2019年に断面修復が実施されており、現状は再劣化は見られないため、"経過観察"と判定した。



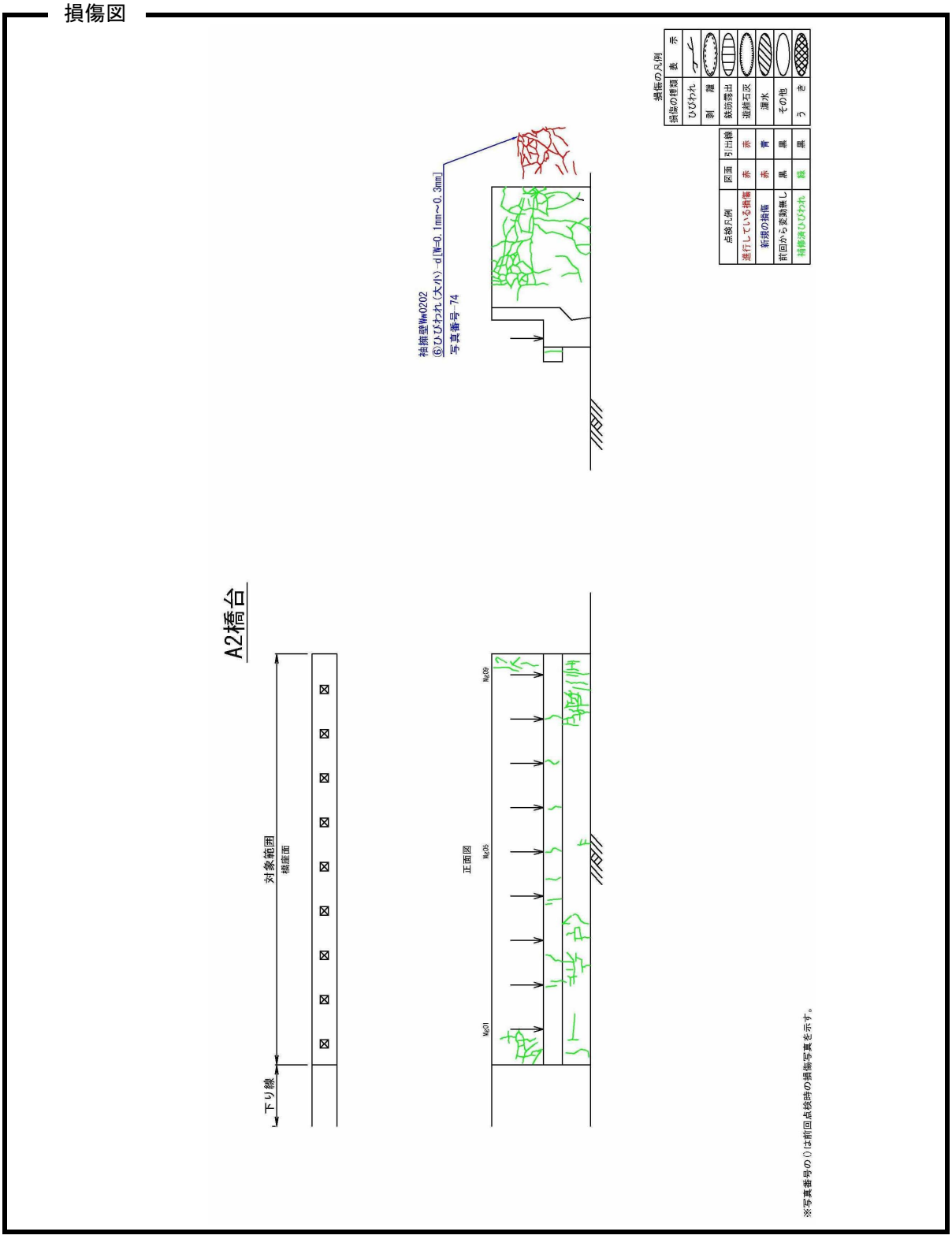


判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　H8555

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　H9915

基本データ

1. 所在地　：愛媛県松山市
2. 路線名・河川名　：一般国道33号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1978年
5. 周辺環境　：海岸線より9.0km



調査結果

1. 調査年月　：1999年9月
2. 調査位置　：上りP3橋脚梁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・ 豆板・変色無し，はく離無し，さび汁無し，鋼材露出無し，浮き無し



劣化状況の評価

・ 亀甲状のひび割れがはり部に見られる。ひび割れからは白い析出物が浸出している。写真からひび割れ幅が大きく，また損傷図からも損傷の判定区分Ⅱ（損傷大きく，補修検討必要）の判定であることから，ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　H9915

調査結果

1. 調査年月　：2003年12月
2. 調査位置　：P3橋脚
3. 補修の有無　：不明
4. 補修方法　：不明
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ｺﾒﾝﾄ：「P3橋脚については，ASRではないとの調査結果が出ているため調査対象外としました」

全景写真無し

劣化状況の評価

・情報不足

調査箇所全体写真無し

劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 情報不足

2025年調査時点

構造物コード　H9915

調査結果

1. 調査年月　：2021年10月
2. 調査位置　：P3橋脚
3. 補修の有無　：有（2011）
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：0.2mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修必要、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

ASRが原因と思われるひび割れが複数発生しているが、本数が少ないこと、ひび割れ幅が小さいこと、2003年調査から大きく変化していないことから、"経過観察"と判定した。





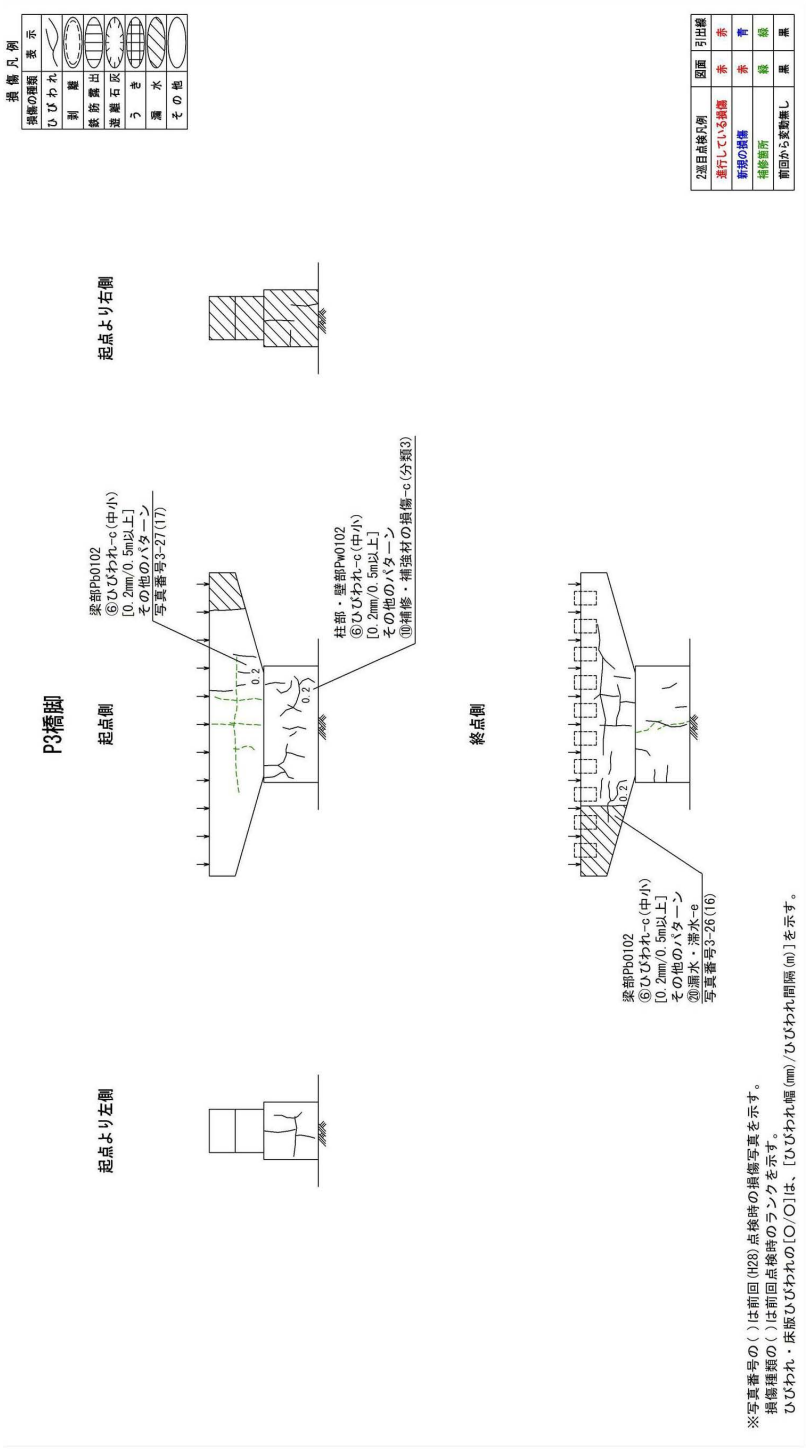


判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　H9915

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　H9916

基本データ

1. 所在地　　：香川県綾歌郡
2. 路線名・河川名　：一般国道32号
3. 構造物種類　　：擁壁
4. 竣工年　　：1981年
5. 周辺環境　　：海岸線より11km



調査結果

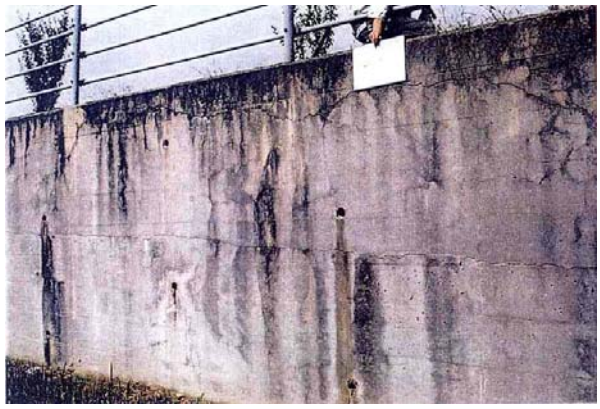
1. 調査年月　　：1999年10月
2. 調査位置　　：擁壁
3. 補修の有無　　：無
4. 最大ひび割れ幅　：2～3mm(両方向，多数，延長方向全体)
5. 調査者所見　　：

・浮き：やや鈍音多数
豆板・変色無し，はく離無し，さび汁無し，
鋼材露出無し



劣化状況の評価

・ひび割れ幅が2～3mm程度のひび割れが，水平延長方向に連続して続いている。また，擁壁上面にも連続したひび割れが見られる。ひび割れ幅が大きく，ひび割れ注入による補修を行う必要があると考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　H9916

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：側面:4㎜，天端:7㎜
6. 調査者所見　：

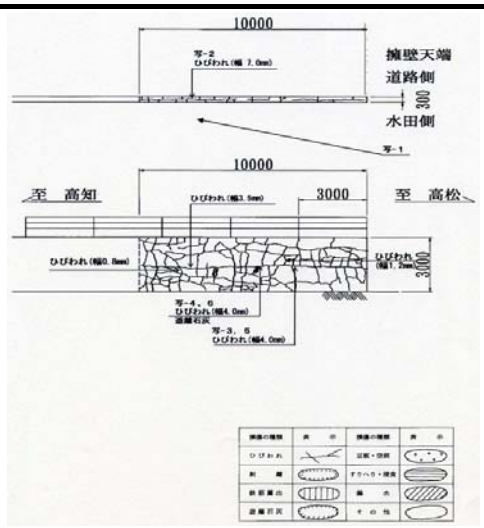
・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる
・ｺﾒﾝﾄ：全般にわたり前回の調査結果より劣化の進行が見られる。①擁壁の側面には水平方向が卓越した網目状のｸﾗｯｸが発生している。前回の調査に比べｸﾗｯｸが増加していると伴に横方向のｸﾗｯｸ幅は2㎜から4㎜へと進行している②擁壁の天端には，縦方向に7㎜幅のｸﾗｯｸを確認した。



劣化状況の評価

・前回調査以降も補修が行われておらず，ひび割れ幅が進展している結果であった。特に天端部分のひび割れは7㎜と大きく，コンクリートの剥落や鉄筋の腐食のおそれがある。側面についても，4㎜のひび割れが水平方向に走っている。ひび割れに対して，ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。







判定結果 → 補修必要

2025年調査時点

構造物コード　H9916

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ 情報不足

2025年調査時点

構造物コード　H9916

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　J9917

基本データ

1. 所在地　：福岡県築上郡
2. 路線名・河川名　：国道10号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1981年
5. 周辺環境　：海岸線より500m



調査結果

1. 調査年月　：1999年9月
2. 調査位置　：P2橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明（両方向，多数）
5. 調査者所見　：

・外観：豆板，変色有り
はく離：うろこ状はく離3～5ヵ所
浮き：異常音3～5ヵ所
さび汁無し，鋼材露出無し



劣化状況の評価

・はり部側面にひび割れが見られるが，幅は小さく，白い析出物により塞がっている状態である。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　J9917

調査結果

1. 調査年月　：2003年10月
2. 調査位置　：橋台，橋脚
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：橋台:1.3mm,P1:1.0mm,P2:0.8mm
6. 調査者所見　：

・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる。
・ｺﾒﾝﾄ：水分の供給下（伸縮装置からの漏水・支承付近の滞水・躯体端部のため雨水の影響）で亀甲状のひび割れが顕著に見られる。ひび割れから遊離石灰の析出が見られ，変色・劣化が進行していると予想される。



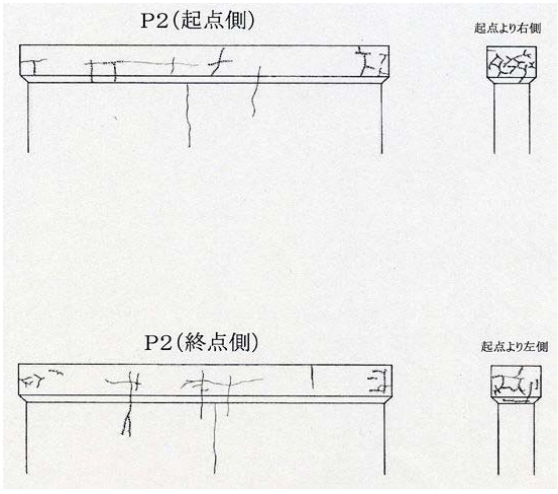
A1橋台（左側）

劣化状況の評価

・最大ひび割れ幅は，橋台で1.3mm，P1橋脚で1.0mmと報告されているが，ひび割れの範囲は狭く，構造物の端部に限られている。また，写真で見る限り析出物などですでに塞がっているひび割れが多い。よって，”経過観察”と判定。



橋脚梁部



P2橋脚ひび割れ図



A2橋台

判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　J9917

調査結果

1. 調査年月　：2023年12月
2. 調査位置　：P1,P2橋脚,A1,A2橋台
3. 補修の有無　：有（2003~2008）
4. 補修方法　：ひび割れ注入？
5. 最大ひび割れ幅　：1.8mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所は健全だが、未補修箇所に劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

未補修部の一部でひび割れが発生している。しかし、直近の定期点検からの変化は小さいことや残存膨張量の計測から膨張挙動が一定になっていることが確認されていることから、"経過観察"と判定した。





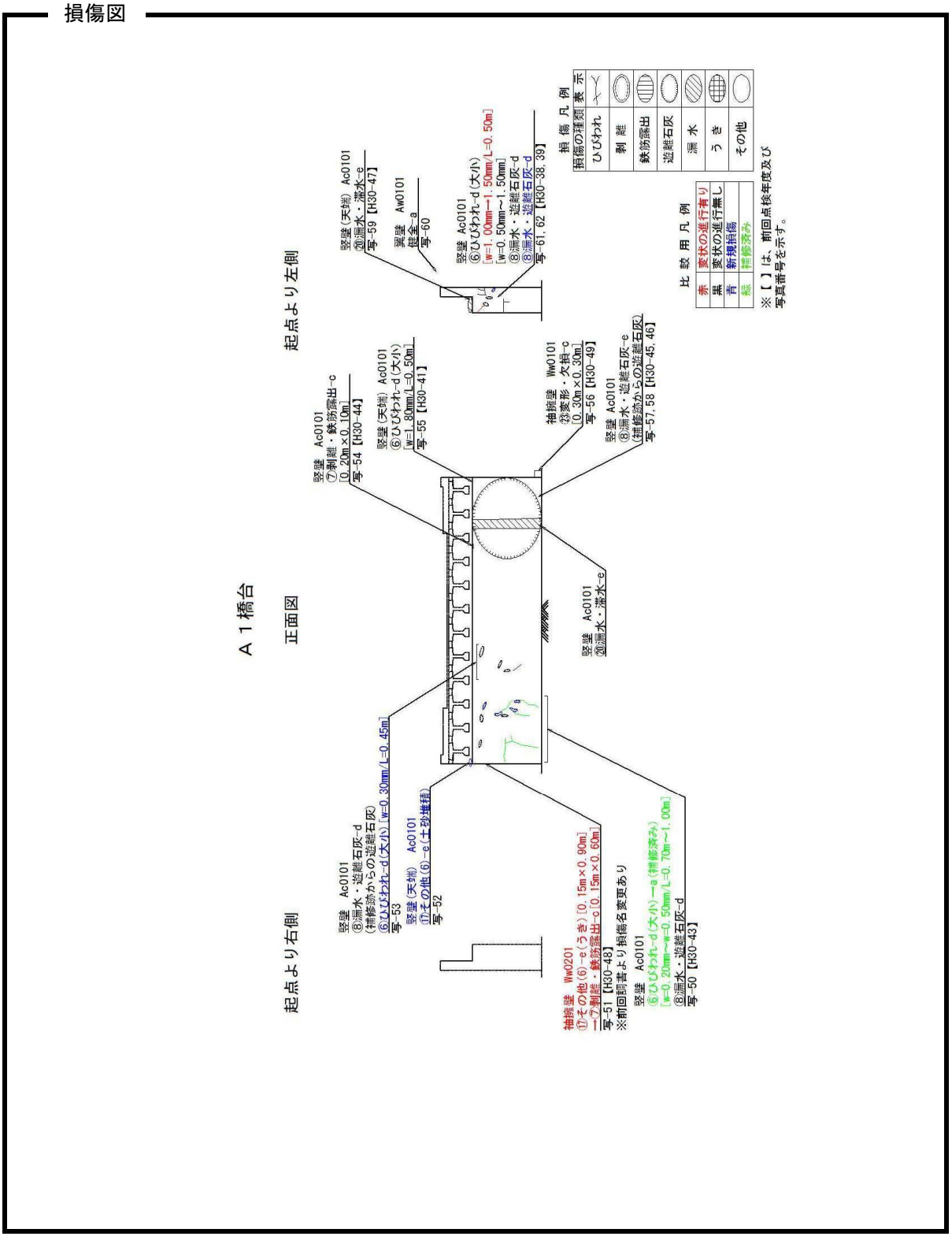


判定結果 ⟶

2025年調査時点

構造物コード　J9917

損傷図

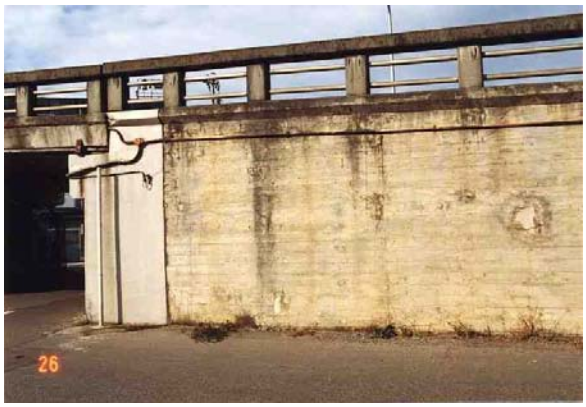


1985年調査時点

構造物コード　　N8515

基本データ

1. 所在地　：富山県富山市
2. 路線名・河川名　：一般地方道八幡田稲荷線
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1966年
5. 周辺環境　：海岸線より6.9km



調査結果

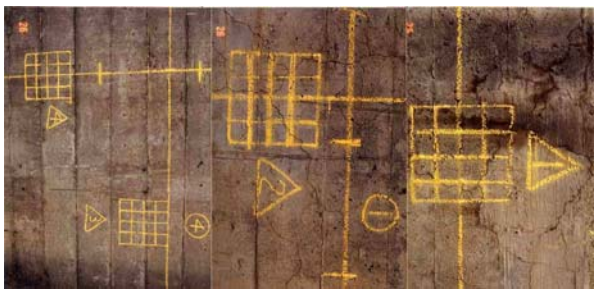
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.75mm
5. 調査者所見　：

・亀甲状のクラックがかなり広範囲に存在している。クラックの中は0.2～0.75mmで，深さは数mm程度がほとんどで目詰まりは無い。浸出物は少ないが，2～3箇所白色浸出物が見られる。表面は黄土色になっている部分が多い。



劣化状況の評価

・ひび割れ幅が最大0.75mmのものが広範囲に広がっている。内部の鋼材の腐食のおそれがあることから，ひび割れ注入等の対処が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　N8515

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：約1.0mm程度
6. 調査者所見　：

・ 判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ ｺﾒﾝﾄ：ひび割れ幅1.0mm程度。進展なしか？



劣化状況の評価

・ ひび割れ幅が過去の調査結果の0.75mmから1mm程度に広がっているが，そのほかには大きな進展は見られない。竣工から約37年経過してなおこの程度の損傷にとどまっていることを考えると，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　N8515

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：1.5㎜程度
6. 調査者所見　：

・ 判定：擁壁の状態は前回調査時からほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：橋台の表面被覆がなくなっていた。



劣化状況の評価

ひび割れ幅は2003年調査時の1.0㎜程度から1.5㎜程度に拡大していたが、新たなひび割れの進展は見られなかった。2003年調査から20年以上経過していることを考慮し、"経過観察"と判定した。







判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　N8515

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　N8516

基本データ

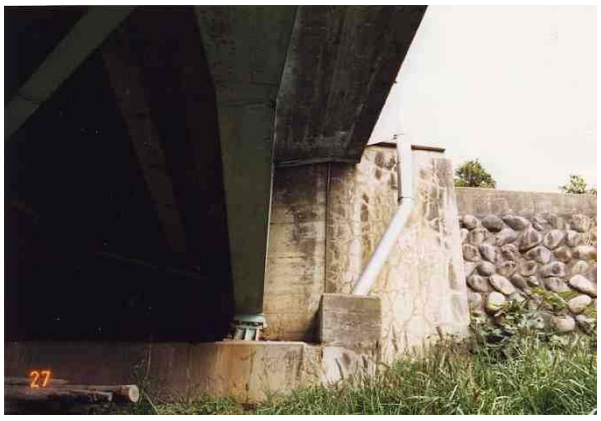
1. 所在地　：富山県富山市
2. 路線名・河川名　：一般地方道笹津富山線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1965年
5. 周辺環境　：海岸線より10.5km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.6mm
5. 調査者所見　：

・ 右岸下流側のアバットに剥離部分がある。この部分は以前にモルタルを上塗りしたと思われる。右岸上流側アバットにはクラックが亀甲状に走り，遊離石灰と思われる白い浸出物がクラックから吹き出ている。クラックは大体目詰まりしており，黄土色に変色している。



劣化状況の評価

・ ひび割れは，広い範囲に広がっているが，幅は小さく，析出物で塞がっている。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　N8516

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：約0.9㎜程度
6. 調査者所見　：

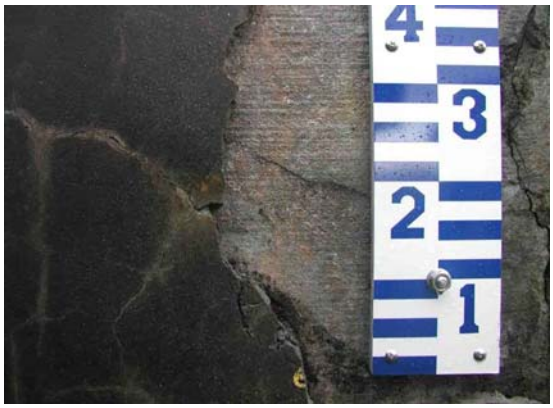
・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・ひび割れからは，過去の調査時と同様白い析出物が浸出している。竣工から38年が経過してなおこの程度の損傷にとどまっていることを考えると，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　N8516

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：1.1㎜程度
6. 調査者所見　：

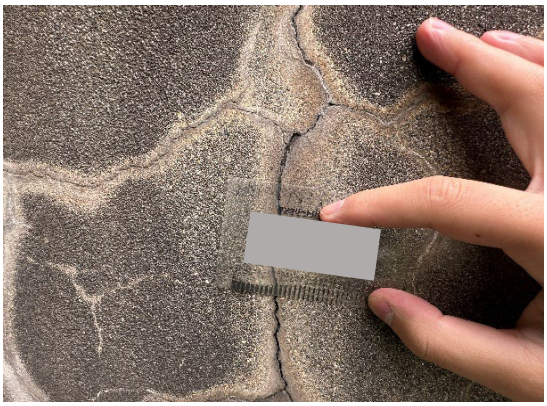
・ 判定：右岸橋台の状態は前回調査時からほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

ひび割れ注入による補修が行われていたが、再びひび割れが生じていた。ひび割れ幅も2003年調査時の0.9㎜程度から1.1㎜程度に拡大していたが、新たなひび割れの進展は見られなかった。竣工して60年経過してなおこの程度の損傷にとどまっていることを考慮して、"経過観察"と判定した。







判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　N8516

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　N8517

基本データ

1. 所在地　：富山県中新川郡
2. 路線名・河川名　：魚津立山線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1972年
5. 周辺環境　：海岸線より7.7km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：Ｐ３橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：1.0mm
5. 調査者所見　：

- 橋脚はｸﾗｯｸによる被害が大きい(特に張出し部)。ｸﾗｯｸは亀甲状に走り,所々に有利石灰と思われる白い浸出物が表面に付着している。橋脚の表面は全体的に黄土色に変色しているが,降雨時の水の流下道は黒く変色している。ｸﾗｯｸの目詰まりはあまりない。ｸﾗｯｸの幅は1mm程度,深さは大体15mm程度。



劣化状況の評価

- ひび割れ幅は最大で1.0mm程度で，広い範囲に広がっている。よって，ひび割れ幅が大きな場所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　N8517

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：Ｐ３橋脚
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：約2㎜程度
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：ひび割れ注入あり→ひび割れの進展なし。補修済みのひび割れ幅は2㎜程度。新しいひび割れ（未補修）はあまりない。Ｐ２橋脚にもひび割れ→補修済み

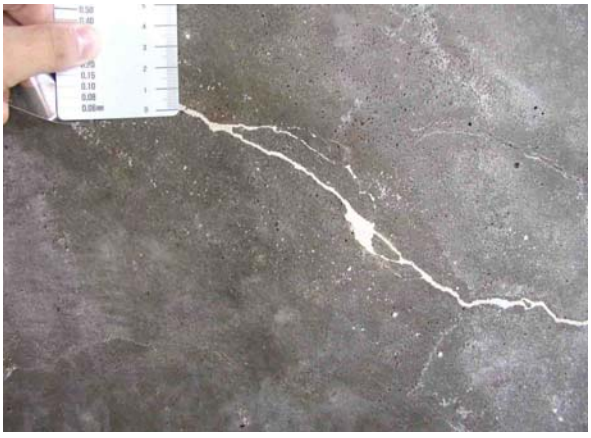


劣化状況の評価

・補修や改修を実施した理由はひび割れへの水分浸透抑制目的と思われる。ひび割れに対して，注入による補修が実施されており，新たなひび割れの進展は見られない。また，補修箇所以外にひび割れが見られるが，竣工から31年が経過してなおこの程度の損傷にとどまっていることを考えると，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　N8517

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月調査
2. 調査位置　：P3橋脚
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：2.0mm程度
6. 調査者所見　：

- 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られた。
- ｺﾒﾝﾄ：他の橋台や橋脚にもASRが原因と思われる複数のひび割れが発生しており、P3橋脚と同様に補修部にも劣化の進行が見られた。



劣化状況の評価

ひび割れ注入を行った箇所において、再びひび割れが発生していた。ひび割れの進展は不明であるが、2003年調査結果と比較して全体的に析出物が目立っていた。また、橋脚の梁部では、ひび割れにズレが見られ、鉄筋破断の可能性も疑われることから、"検討必要"と判定した。







判定結果 ⟶ **検討必要**

2025年調査時点

構造物コード　N8517

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08519

基本データ

1. 所在地　：石川県羽咋市
2. 路線名・河川名　：国道249号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1959年
5. 周辺環境　：海岸線より900m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.6mm
5. 調査者所見　：

- 特にクラックが発生しているのは親柱で全周にわたり亀甲状に発生している。クラックの周囲は茶色に変色し，遊離石灰が浸出している。1mmほどのクラックは目詰まりしていない。ウイングも同様であるがほとんど目詰まりしている。ピアの梁にクラックがあるが，アル骨によるものではないと思われる。



劣化状況の評価

- ひび割れは広範囲に見られるが，幅が小さく，析出物でひび割れが塞がっているように見える。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　08519

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・現存せず



劣化状況の評価

・橋台の形状が変わっているように見える。側道や添架物設置に伴い改築を行ったと思われる。原因のひとつにASRによる劣化も考えられる。



劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　08519

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **現存せず**

2025年調査時点

構造物コード　08519

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08520

基本データ

1. 所在地　：石川県羽咋市
2. 路線名・河川名　：国道415号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1972年
5. 周辺環境　：海岸線より1500m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.6mm
5. 調査者所見　：

- クラックは，梁，柱ともに発生しているが，柱には１本縦方向に1.5mmが発生し，その周囲に亀甲状にクラックがあるのが特徴である。梁の張り出し部は降雨時によく湿潤になるところが亀甲状にクラックが発生している。４本のうち１本のピアは健全である（P3）。擁壁は10～20cmの網目状にクラックが発生している。



劣化状況の評価

- ひび割れ幅は最大で0.6mm程度であるが，広い範囲に広がっている。よって，ひび割れ幅の大きな場所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子を防ぐ必要がある。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08520

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有（補修補強年不明）
4. 補修方法　：梁-表面被覆，柱-耐震補強
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所は健全だが未補修箇所に劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：P4はり部は被覆がはがれ，茶色に変色。柱はコンクリート巻き立てを実施。P1柱はひび割れが多い（柱主筋に沿って多数のひび割れ。柱補強？を行うために塗装を剥いでいた。



劣化状況の評価

・橋脚柱部については，調査時点でコンクリート巻き立て補強を実施中。よって，ひび割れの進行状況を確認することができなかった。はりについては表面被覆を実施しているが，側面，下面でひび割れ，被覆のはがれが発生している。しかし，劣化の程度は小さく，すぐに鉄筋の腐食などの問題となるようなひび割れではないように見える。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08520

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

- 判定：補修箇所に劣化の進行が見られる。
- ｺﾒﾝﾄ：どの時点から生じていたかは不明だが、主桁に橋軸方向のひび割れも見られた。



劣化状況の評価

橋脚柱部の巻き立てについて、複数のひび割れがみられたが、析出物が見られないことから、乾燥収縮によるものと推察される。橋脚梁部については、下地のコンクリートが見えるほど表面被覆が劣化していた。また、はり全体の被覆表面上に錆汁のようなものが見られるものが、伸縮装置から流下したものと判断されるため、橋脚自体に鉄筋腐食の兆候はみられなかった。
よって、"経過観察"と判定した。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08520

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08521

基本データ

1. 所在地　：石川県羽咋市
2. 路線名・河川名　：主要地方道志賀富来線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1968年
5. 周辺環境　：海岸線より500m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
5. 調査者所見　：

・ 両側アバットの側面にクラックが発生している。ピアのうち１本は健全で他の１本は梁，柱ともクラックが亀甲状に発生している。また，飛沫帯部は20cm程の欠損がある。他に高欄，地覆は全般的にクラックが発生し，亀甲状になっている。



劣化状況の評価

・ ひび割れは広範囲に見られるが，幅が小さくすぐに劣化が進行するような状態ではないように見える。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　08521

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：ー
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・現存せず

全景写真無し

劣化状況の評価

・現存せず（歩道橋を本橋横に設置することにより橋台を作り替えた？）







判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　08521

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **現存せず**

2025年調査時点

構造物コード　08521

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08522

基本データ

1. 所在地　：石川県羽咋市
2. 路線名・河川名　：県道羽咋田鶴浜線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1972年
5. 周辺環境　：海岸線より3700m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.45mm
5. 調査者所見　：

・ 被災部は両岸アバットのパラペット，桁座，前面である。特にパラペットは前面，側面とも亀甲状にクラックが発生している。また，桁座は大きなクラック(5～10mm）が発生している。上部工の高欄，地覆にはクラックがほとんど発生していない。



劣化状況の評価

・ パラペット部については，ひび割れは広範囲に広がっているが，ひび割れ幅は小さく，析出物で塞がっている。一方，桁座については，10mm程のひび割れがあり，劣化因子の侵入防止を目的として，ひび割れ注入等の補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08522

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：約10㎜程度
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：側面および前面に表面被覆。桁座には約10㎜程度のひび割れ。パラペットには再劣化無し。たて壁前面には0.1～0.2㎜程度のひび割れ→目詰まり。被覆材ははがれは無く，ひび割れに沿って裂けている。



劣化状況の評価

・橋台に表面被覆を行っているが，全体的にひび割れが発生し，再劣化している。特に，桁座には幅10㎜の大きなひび割れが発生している。過去の調査でも確認されたが，過去の調査から今回までの間に，膨張が進行し，表面被覆材が裂けたものと思われる。ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により，外部からの劣化因子の侵入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。







判定結果 → 補修必要

2025年調査時点

構造物コード　08522

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：縁端拡幅
5. 最大ひび割れ幅　：0.2㎜程度
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：左岸側の主桁に橋軸方向のひび割れが見られた



劣化状況の評価

右岸側の橋台について、変位制御装置の設置に伴い橋台の形状が変わっているように見える。現状はASRが原因と思われる変状は確認できないため、"経過観察"と判定した。







判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08522

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08523

基本データ

1. 所在地　：石川県羽咋市
2. 路線名・河川名　：一般国道249号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1967年
5. 周辺環境　：海岸線より2400m



調査結果

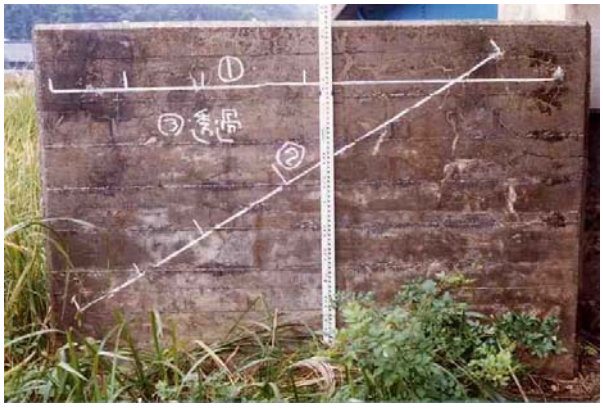
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台，橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
5. 調査者所見　：

・ 被災は右岸橋台の両端のパラペット前面，側面とピアの柱の上部は全周にわたってクラックが発生している。クラックの周囲は茶色に変色し，一部遊離石灰が浸出している。ラーメン部は張り出し梁の側面と4本中の2本の柱にクラックが発生している。



劣化状況の評価

・ ひび割れは，広い範囲に発生しているが，ひび割れ幅が小さく，析出物で塞がっている箇所が多く見受けられる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　08523

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：橋台，橋脚
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：常時雨水による影響を受けるが，膨張は完了したと見受けられる。



劣化状況の評価

・過去の調査では，右岸側の橋台を調査しているが，今回の調査では地形的な問題で調査することができなかった。しかし，遠方から確認する限り，変化は見られなかった。また，橋脚の柱部については，前回の調査から18年経過した現時点で，ひび割れ本数や幅が変わっていないように見える。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08523

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：橋脚(右岸)
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：ひび割れ充填
5. 最大ひび割れ幅　：1mm程度
6. 調査者所見　：

- 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
- ｺﾒﾝﾄ：地震の影響と思われるが、新橋の新設が共用が開始され、旧橋の撤去作業が行われていた。



劣化状況の評価

2003年の調査では、左岸側の橋台を調査していたが、今回の調査では地形的な問題で1985年に調査した右岸側を調査した。ひび割れ充填箇所において、再劣化してひび割れが見られゲルの析出もみられた。ひび割れ幅は最大で1mm程度であったことから、1985年の調査より進展がみられるが、竣工から58年程度であることを考慮すると、"経過観察"と判定した。







判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08523

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08537

基本データ

1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：国道249号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より50m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
5. 調査者所見　：

- 左右両岸の橋台とも同程度の被災を受けている。橋台の両側に配水管溝があり，常時しぶきがかかってコンクリート表面が湿潤している。クラック発生部のコンクリート面は薄い茶色を帯びており，発生していない面は白～黄色の感じがある。クラックは濃い茶色を呈しているものが多く，遊離石灰を浸出しているところもある。海岸線まで約20mの位置にあり，季節風時にはしぶきがかかる。



劣化状況の評価

- ひび割れは広い範囲に広がっているが，幅が小さく，析出物で塞がっているものが多く見受けられる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　08537

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：無し
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。
・ｺﾒﾝﾄ：下部工：表面被覆及び桁座拡幅。再劣化みとめられず。上部工：側面および下面に表面被服。側面に亀裂あり。



劣化状況の評価

・橋台竪壁全面に表面被覆が行われている。現状でひび割れもなく，健全な状態である。よって，”経過観察”と判定。



劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08537

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：無
6. 調査者所見　：

- 判定：右岸橋台の状態は前回調査時とほどんど変化していない
- ｺﾒﾝﾄ：一部で被覆を貫通するひび割れが、地震による影響も考えられる。また左岸橋台の下流側の表面被覆が剝がされていた。



劣化状況の評価

表面被覆の一部で析出物が見られたが、浮きは確認されなかった。2003年調査結果と比較して大きな変化は見られなかったため、"経過観察"判定した。







判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08537

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08538

基本データ

1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：主要地方道七尾・輪島線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1966年
5. 周辺環境　：海岸線より7000m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
5. 調査者所見　：

・ クラックが発生している箇所はアバットの両端上部及び側面のみで中央部及び下部には発生していない。コンクリート片の跡は骨材の周りのモルタルは茶色になっており，非常にもろい。



劣化状況の評価

・ ひび割れは部分的（水のかかる橋台竪壁端部等）であり，幅が小さく，析出物で塞がっているものが多く見受けられる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　08538

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面保護工
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・過去調査以降に桁座拡幅を行っている。下流側に歩道部（上部工形式：鈑桁）を拡幅している。下流側からの調査は困難。上流側側面にひび割れ（目詰まりしているか。進展なしか？）



劣化状況の評価

・沓座拡幅を行った際に，竪壁前面にｺﾝｸﾘｰﾄ保護工を実施しているように見える。現状では，ほとんどひび割れが見られない。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08538

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

- 判定：左岸橋台の状態は前回調査時のほとんど変化していない。
- ｺﾒﾝﾄ：2012年に車道の拡幅工事が実施されていたため、遠方目視により確認した。



劣化状況の評価

表面保護工に変化は見られなかった。よって"経過観察"と判定した。





判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08538

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08526

基本データ

1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：国道249号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1971年
5. 周辺環境　：海岸線より6.4km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：2.5mm
5. 調査者所見　：

・ クラックは亀甲状をしているパラペット部はクラック巾も狭く，目詰まりをしている（遊離石灰）。クラック巾が大きいものはひび割れかたが不規則である。



劣化状況の評価

・ 上部からの水がかかる橋台の端部のパラペット前面，桁座で幅の広いひび割れが見られる。今後，水の浸入により内部鉄筋の腐食が懸念されることから注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08526

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：ひび割れに沿って注入が行われた跡が見受けられた。



劣化状況の評価

・補修が行われた形跡はあるが，桁座の最もひび割れ幅が広い部分の注入が行われていなかったため，目的が不明。ひび割れの状況としては，過去の調査結果と比べると外観上変化は見られなかった。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08526

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：0.6mm程度
6. 調査者所見　：

・ 判定：左岸橋台既設部の状態は、前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：橋台は落橋防止の拡幅が行われていた。地震の影響により橋台背面盛土に段差が生じ、橋台にも損傷が確認された。



劣化状況の評価

右岸側にアクセスできなかったため、左岸側の橋台を対象とした。左岸橋台は、右岸橋台と同様にひび割れ充填が行われていたが、未補修部で最大ひび割れ幅が0.6mm程度あった。また、拡幅部においてもASRによるものと思われるひび割れが生じていた。2003年調査結果(右岸)と比較して、ひび割れがやや進行しているようにも見えるものの、重大な状況ではないと判断し、"経過観察"と判定した。







判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08526

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08527

基本データ

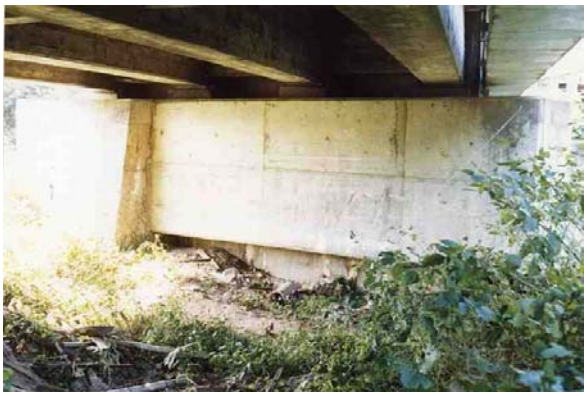
1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：国道249号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1960年
5. 周辺環境　：海岸線より4700m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：2.0mm
5. 調査者所見　：

・ クラックは，大きいもので2～3mmあり，深さも5cmはある。全体的に亀甲状になっているクラック（桁座）はクラック幅も小さく，目詰まり（遊離石灰）している。



劣化状況の評価

・ 橋脚梁の上部から水がかかる部分にひび割れが発生。全体的には，ひび割れは小さいが，部分的に析出物で塞がれていないひび割れも見受けられる。ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子の浸入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08527

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：なし
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。
・ｺﾒﾝﾄ：健全性が保たれている



劣化状況の評価

・表面被覆による補修が行われている。現状で，ひび割れ等の劣化が見られず，効果が持続していると考えられる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08527

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：橋脚
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：縁端拡幅
5. 最大ひび割れ幅　：無
6. 調査者所見　：

- 判定：橋脚の状態は、前回調査時とほとんど変化していない。
- ｺﾒﾝﾄ：1991年時に建設された橋脚にもASRによるひび割れが発生していた。なお、地震の影響により橋台背面盛土に段差が生じ、橋台にも損傷が確認された。



劣化状況の評価

1985年調査時に橋脚側面で確認されたひび割れは，1991年に架設された歩道の橋脚により確認できない状態であった。
2003年調査時点で確認された表面被覆は除去されていたが、ひび割れは見られなかった。よって、"経過観察"と判定した。







判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08527

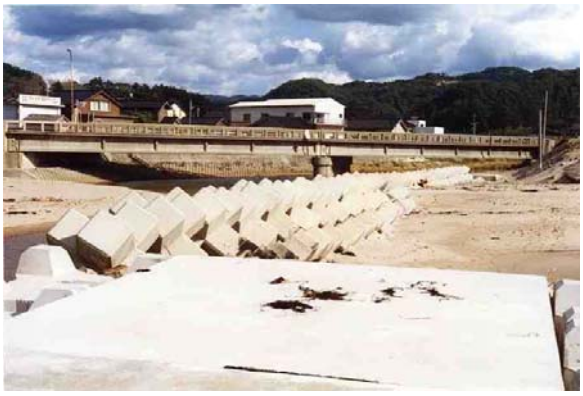
損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08528

基本データ

1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：国道249号線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1966年
5. 周辺環境　：海岸線より60m



調査結果

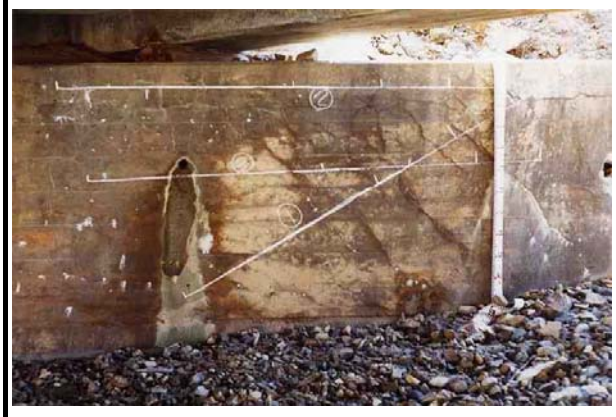
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：1.2mm
5. 調査者所見　：

・この橋梁は，河口にあり，常に海風にさらされている。被災部は橋台の両側に集中している。橋台の中央はほとんどｸﾗｯｸは見られない。被災部は雨ざらしの部分に集中している。特に桁座と橋台の前面と側面である。ｸﾗｯｸは亀甲状に発生している。ｸﾗｯｸの幅が大きいものはそのままの状態であり，ｸﾗｯｸ幅の小さいものは有利石灰が浸出しており，全体が白色がかっている。



劣化状況の評価

・上部からの水がかかる橋台桁座，竪壁前面に幅の大きいひび割れが見受けられる。ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子の浸入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08528

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：無し
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。
・ｺﾒﾝﾄ：表面被覆後桁座拡幅している。既設の橋台が露出している部分があまり無く観察困難。上部工下フランジに橋軸方向にひび割れ。上部工はモルタル吹付けＳ６３。



劣化状況の評価

・橋台に表面被覆が行われている。ひび割れ等は発生してなく，健全な状態である。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08528

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：0.3㎜程度
6. 調査者所見　：

・ 判定：左岸橋台の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：ホースが新たに設置されていた。



劣化状況の評価

2003年調査時点で確認された橋台の表面被覆が除去されており、ひび割れ注入が行われていた。注入箇所の一部でひび割れが見られるものの、進行は軽微であると判断し、"経過観察"と判定した。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08528

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08529

基本データ

1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：主要地方道穴水・剣地線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1970年
5. 周辺環境　：海岸線より1.4km



調査結果

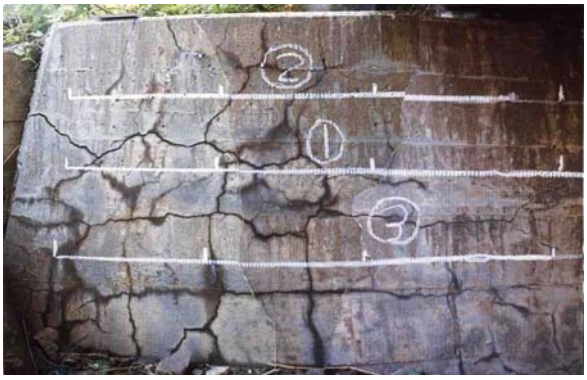
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：2.5mm
5. 調査者所見　：

・両岸橋台ともクラックが発生しているが，右岸の下流側で調査を行う。クラック位置は桁座，前面及びウイング，親柱にも見られる。桁座面は特にクラック幅が大きく，ジョイントが不備なために常時湿潤している。クラックは亀甲状に発生しており，湿潤状態が多い場所の方がクラック幅は大きい。クラックが生じている箇所は全体的に茶色に変色している。



劣化状況の評価

・上部から水の影響がある橋台端部の桁座，前面に最大2.5mmの幅の大きいひび割れがある。ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子の浸入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08529

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：約1～2㎜程度
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：ひび割れ幅の進展なし(1 or 2㎜)



劣化状況の評価

・過去の調査結果と比較して，ひび割れ幅，ひび割れ本数に変化はないように見える。よって，前回調査時と同様，ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子の浸入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



劣化部写真無し



判定結果 → 補修必要

2025年調査時点

構造物コード　08529

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：5～10㎜程度
6. 調査者所見　：

・ 判定：右岸橋台の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

ひび割れ幅は2003調査時点と比較して大きくなっていたが、新たなひび割れの発生など、ひび割れの進展は認められなかった。よって、"経過観察"と判定した。





判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08529

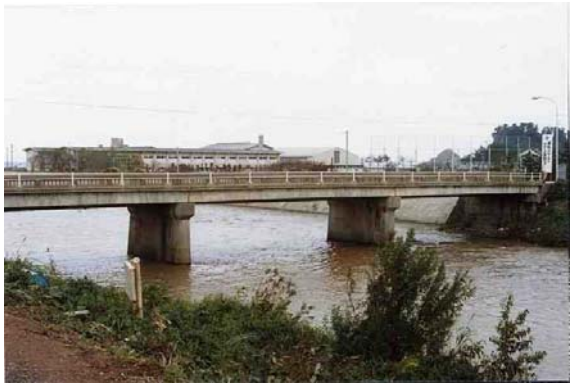
損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08530

基本データ

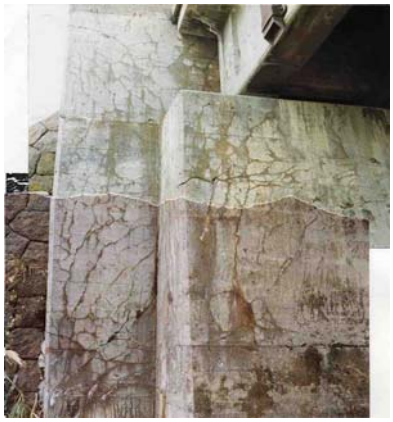
1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：国道249号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1959年
5. 周辺環境　：海岸線より450m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：1.0mm
5. 調査者所見　：

・ 河口より450m程にあるため，常に海風にさらされている。風が強いときは飛沫帯になると思われる。被害部は桁座，前面，側面にクラックが多く見られる。特に下流側（海側）の方が多い。Pierには，張り出し梁の端部にクラックが発生している。Abutの下側にはクラックはほとんど無い。



劣化状況の評価

・ 上部から水の影響がある橋台端部全面にひび割れが発生している。部分的には，析出物で塞がっている箇所も見られるが，塞がっていない箇所が多い。よって，ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子の浸入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08530

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：ー
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・現存せず



劣化状況の評価

・現存していない理由は，道路の線形変更，ASR劣化の双方が考えられるが明らかではない。

調査箇所全体写真無し

劣化部写真無し

劣化部写真無し

判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　08530

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **現存せず**

2025年調査時点

構造物コード　08530

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08531

基本データ

1. 所在地　：石川県輪島市
2. 路線名・河川名　：珠洲里線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1961年
5. 周辺環境　：海岸線より3.04km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.8mm
5. 調査者所見　：

- 両橋台とも被災をうけているが，左岸の橋台は常時乾燥しているのでクラックは発生していない。右岸側は，ジョイントより水漏れしている様で，常に濡れている様である。被害部はアバットの前面，側面及び桁座，パラペット，そして親柱に見られる。特に上部の方がクラックの間隔が狭く，ほとんど遊離石灰で目詰まりしている。



劣化状況の評価

- ひび割れは橋台端部に広い範囲に見られるが，幅が小さく，析出物で塞がっている状態が見受けられる。よって，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　08531

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：アースアンカー（？）により補強されている。ひび割れは目詰まり。



劣化状況の評価

・ひび割れは広い範囲に見られるが，コンクリート内部の析出物により塞がっているように見える。竣工から42年経過してなおこの程度の損傷にとどまっていることを考えると，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08531

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有（2003年以降）
4. 補修方法　：ひび割れ注入
5. 最大ひび割れ幅　：0.05㎜程度
6. 調査者所見　：

- 判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。
- ｺﾒﾝﾄ：地震の影響により橋台背面盛土に段差が生じ、橋台にもひび割れが確認された。



劣化状況の評価

ひび割れ注入による補修が行われていた。ひび割れ注入箇所では、一部で析出物による割れが見られたものの、ひび割れ幅の拡大は見られなかった。全体として、ひび割れは広範囲に分布していたが、進行は見られなかったため、″経過観察″と判定した。







判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08531

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08532

基本データ

1. 所在地　：石川県穴水町
2. 路線名・河川名　：国道249号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1960年
5. 周辺環境　：海岸線より300m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：2.0mm
5. 調査者所見　：

- 左岸では全体的にクラックが発生しているが，右岸橋台は両端の上部のみである。左岸の橋台は上側に亀甲状のクラックが発生している。クラックの発生は上側は亀甲状になっているが，下側は縦方向に発生しているものがほとんどである。アバットの側面，パラペットもクラックは見られる。



劣化状況の評価

- ひび割れは橋台前面に多く見られる。ほとんどが，析出物で塞がっているが，部分的に幅の大きい，塞がっていないひび割れが見られる。よって，ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子の浸入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果 → 補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08532

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆+アンカー補強
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である。
・ｺﾒﾝﾄ：橋台はアンカーにより補強。また，鋼板で竪壁前面を補強。



劣化状況の評価

・両橋台ともアンカーにより補強が行われている。また，A1橋台については，鋼板が橋台自体に設置されている。A2橋台については，アンカーのみの設置であるが，遠方から確認したところ，目立ったひび割れ等は発生していないように見える。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08532

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：アンカー補強
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

- 判定：左岸橋台の状態は、前回調査時とほとんど変化していない。
- ｺﾒﾝﾄ：左岸にはアクセスできなかったため、右岸から遠方目視にて確認した。なお、地震の影響により橋台背面盛土に段差が生じ、橋台にも損傷が確認された。



劣化状況の評価

2003年調査時点で確認された橋台の表面被覆は除去されていたが、重大なひび割れは確認されなかった。よって、″経過観察″と判定した。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08532

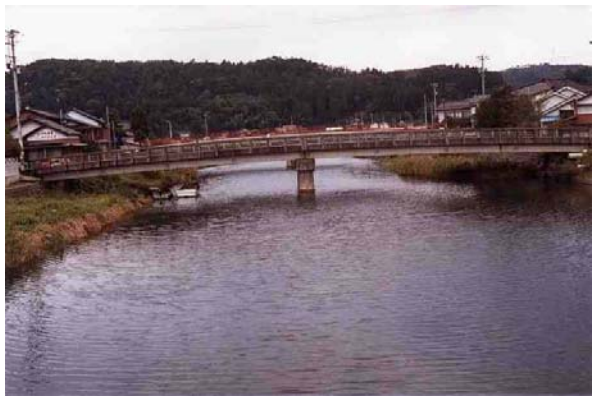
損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08536

基本データ

1. 所在地　：石川県穴水町
2. 路線名・河川名　：主要地方道七尾・輪島線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1968年
5. 周辺環境　：海岸線より1000m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：不明
5. 調査者所見　：

・左右にある橋梁も同様の被災を受けている。両端に排水管があり，風があるときはこの飛沫をかぶると思われる。橋台両端部は上側から下側まで亀甲状でクラックが発生しており，遊離石灰によって目詰まりしている。中央部は打ち継目に平行に大きなクラックがあり，縦方向には50cm間隔程度でクラックが発生している。



劣化状況の評価

・ひび割れは橋台竪壁全面にわたり発生しているが，析出物で塞がっているように見える。よって，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　08536

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：約2㎜程度
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。
・ｺﾒﾝﾄ：補修無し



劣化状況の評価

・過去調査以降に沓座拡幅が行われている。ひび割れは，前回調査から18年経過した現時点においても変化がないように見える。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08536

調査結果

1. 調査年月　：2025年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：0.8mm程度
6. 調査者所見　：

- 判定：左岸橋台の状態は、前回調査時とほとんど変化していない。
- ｺﾒﾝﾄ：主桁では橋軸方向に水平ひび割れが複数確認された。橋脚ではひび割れに段差や錆汁が確認されたことから鉄筋破断も疑われる。なお、地震の影響により橋台背面盛土の段差や橋台の損傷が確認された。



劣化状況の評価

左岸橋台については，2003年調査時点と比較して、ASRによるひび割れに変化は見られなかった。よって、"経過観察"と判定した。







判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　08536

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　08533

基本データ

1. 所在地　：石川県七尾市
2. 路線名・河川名　：一般国道160号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1969年
5. 周辺環境　：海岸線より10m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
5. 調査者所見　：

・風が強いときは飛沫帯が当たると思われる。上流側は歩道橋(S56)が増設されたため被災は不明である。両岸のアバットのパラペット，桁座，前面及び親柱と上部工の地覆にもクラックが発生している。特に親柱，パラペットは亀甲状にクラックが発生している。クラックの囲いは茶色に変色している。一部には遊離石灰が浸出している。



劣化状況の評価

・水の影響がある橋台端部の側面付近に幅の広いひび割れがある。海水等の塩分の侵入による鋼材の腐食の可能性があることから，ひび割れ注入による補修が必要。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08533

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：約10㎜程度
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ｺﾒﾝﾄ：Ａ１表面被覆，たて壁に水平方向にひび割れ3㎜。Ａ２もほぼ同様。



劣化状況の評価

・架橋位置は海岸線に沿っており，常時海の影響を受ける。つまり，満潮時には海水が橋台に影響を及ぼし，被覆のはがれなどを引き起こしたと思われる。また，ひび割れも被覆の上から発生していた。よって，再度補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。







判定結果 → 補修必要

2025年調査時点

構造物コード　08533

調査結果

1. 調査年月　：2022年7月
2. 調査位置　：A1, A2右岸側橋台
3. 補修の有無　：有（2005年）
4. 補修方法　：ひび割れ注入, 表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：1.5mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

2005年にひび割れ注入や表面被覆が行われているが、現在は被覆材の一部ではがれ見られ、劣化の進行している。露出しているひび割れ幅が比較的大きいことや沿岸部であることから"補修必要"と判定した。



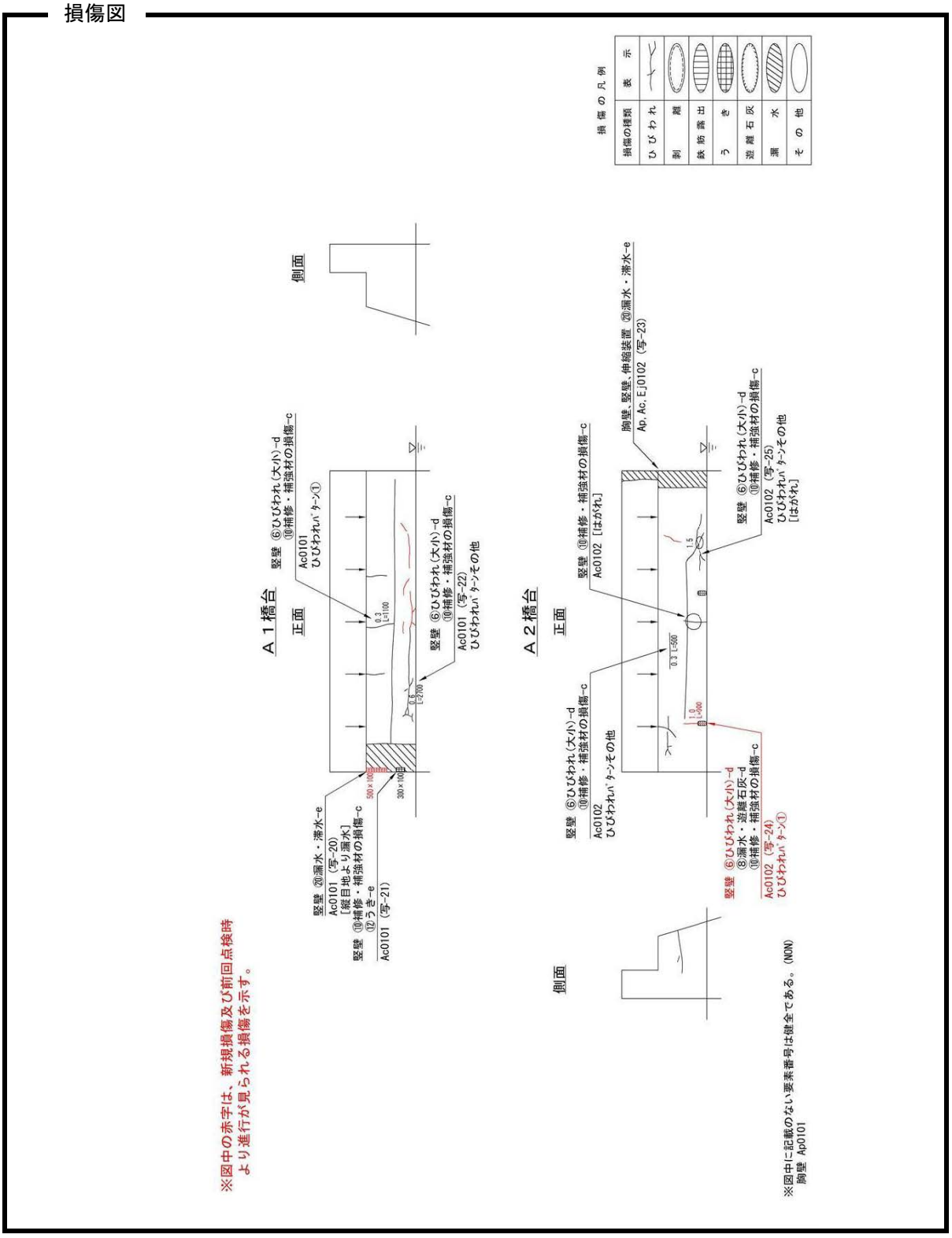


判定結果 ⟶ **補修必要**

2025年調査時点

構造物コード　08533

損傷図

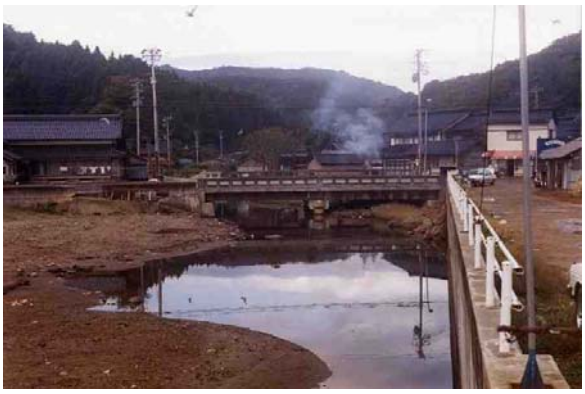


1985年調査時点

構造物コード　　08534

基本データ

1. 所在地　：石川県七尾市
2. 路線名・河川名　：一般国道160号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1960年
5. 周辺環境　：海岸線より10m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：0.5mm
5. 調査者所見　：

- 下流側の脇に下水管がある。風が強いときには飛沫があたると思われる。下部工前面にS56年に落橋防止のためのコンクリート工が行われた。被災部は上部工のスラブ，及び下部工のパラペット，親柱，桁座，前面に発生している。クラックは，ほとんど目詰まりしており，一部遊離石灰が流出している



劣化状況の評価

- 水の影響がある橋台端部の側面付近に幅の広いひび割れがある。海水等の塩分の侵入による鋼材の腐食の可能性があることから，ひび割れ注入による補修が必要。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08534

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：左岸橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ ｺﾒﾝﾄ：橋台，橋脚，上部工で表面被覆を実施。橋台では，はがれ，浮き，ひび割れが確認できる。水位が高いため，Ａ１下流側のみの調査。



劣化状況の評価

・ 補修や改修を実施した理由は塩分の浸透抑制目的と思われる。Ａ１橋台下流側において表面被覆のはがれや，被覆とコンクリートの間への水の浸入による被覆のめくれが見られる。ひび割れ自体は小さく，すぐに鉄筋の腐食などの問題が生じるとは考えにくく”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08534

調査結果

1. 調査年月　：2021年7月
2. 調査位置　：A1,A2橋台
3. 補修の有無　：有(2005)
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：5mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：



劣化状況の評価

2005年に表面被覆が行われているが、現在は被覆材の一部ではがれ見られ、劣化の進行している。露出しているひび割れ幅が比較的大きいことや沿岸部であることから"補修必要"と判定した。





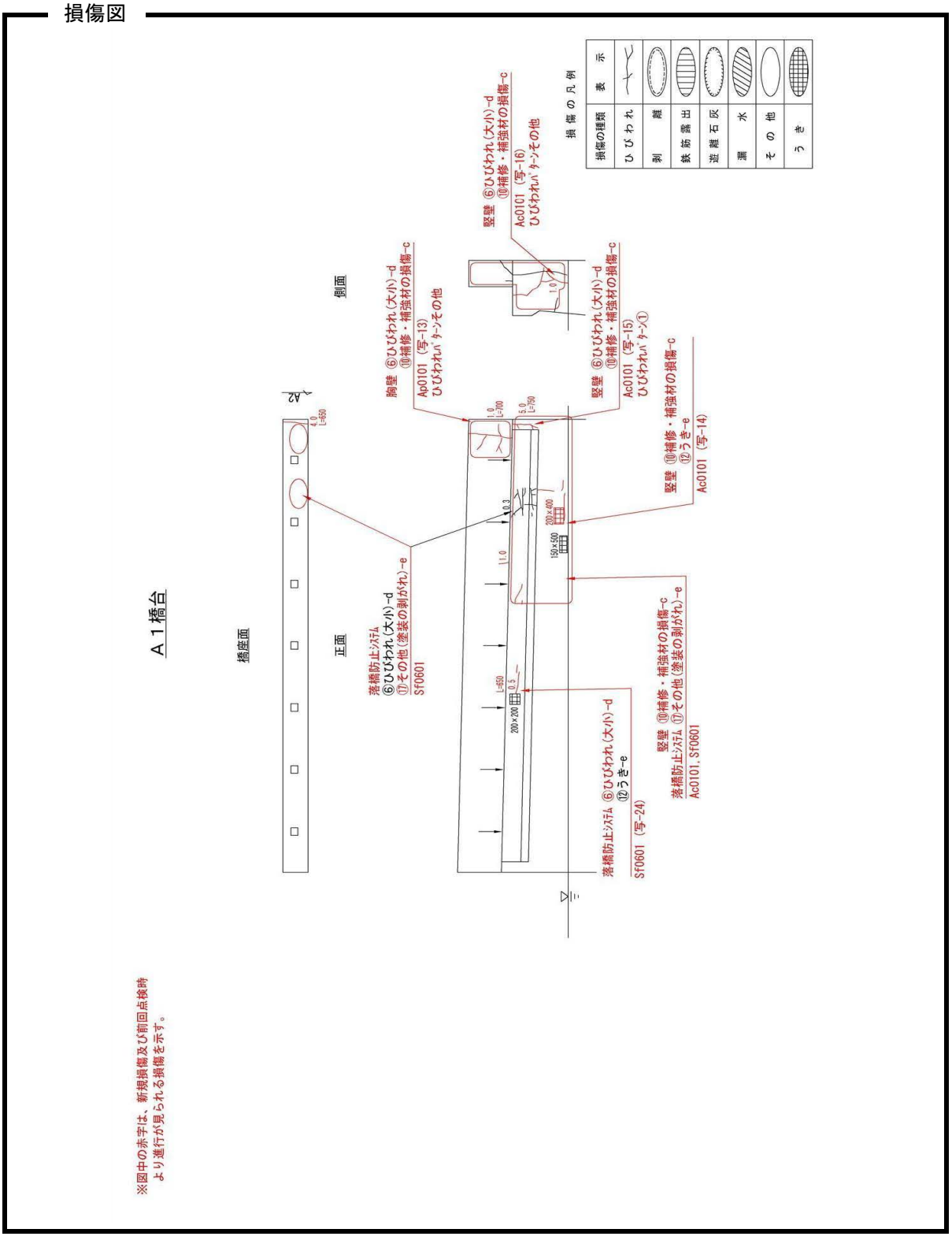


判定結果 → **補修必要**

2025年調査時点

構造物コード　08534

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　08535

基本データ

1. 所在地　：石川県七尾市
2. 路線名・河川名　：一般国道160号
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1967年
5. 周辺環境　：海岸線より10m



調査結果

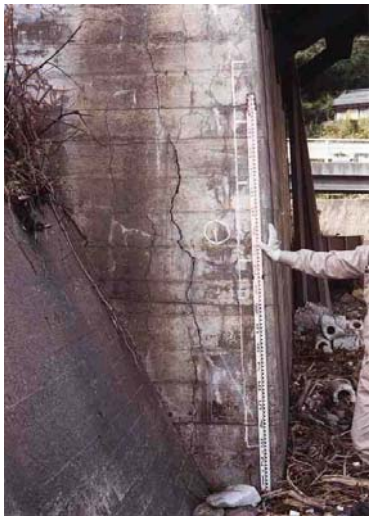
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：8mm
5. 調査者所見　：

・被災部はパラペット，アバットの側面，前面である。側面には上流，下流とも8mmのクラックが縦方向に１本発生。中央部は約10cm間隔に縦横にクラックが発生している。親柱，地覆にはクラックは発生していない。日当たりの良い左岸はほとんど被災していない。



劣化状況の評価

・水の影響がある橋台端部の側面に幅の広いひび割れがある。海水等の塩分の侵入による鋼材の腐食の可能性があることから，ひび割れ注入による補修が必要。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　08535

調査結果

1. 調査年月　：2003年11月
2. 調査位置　：右岸橋台
3. 補修の有無　：有
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ ｺﾒﾝﾄ：表面被覆がはがれ，錆汁が大量に見られる。



劣化状況の評価

・ 補修や改修を実施した理由は塩分の浸透抑制目的と推定される。橋台下流側において幅の大きいひび割れや，表面被覆のはがれ，被覆とコンクリートの間への水の浸入による被覆のめくれが見られる。また，錆汁が多く見られることから，内部鋼材が海水の影響により断面減少等の劣化を起こしていると思われる。補修としては，鋼材の防錆処理，断面修復を行い，表面被覆等を行う必要がある。よって，”補修必要”と判定。







判定結果 → 補修必要

2025年調査時点

構造物コード　08535

調査結果

1. 調査年月　：2020年9月
2. 調査位置　：A2橋台
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：－
5. 最大ひび割れ幅　：0.2mm
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：記録には残っていないが、橋台側面の鉛直方向のひび割れがないため、補修されている可能性がある。



劣化状況の評価

2003年調査で確認された被覆材はなくなっており、橋台前面全体にASRが原因と思われるひび割れが発生している。ただし、ひび割れの程度は軽微であり、供用開始から50年以上が経過してもこの程度で収まっていることから、"経過観察"と判定した。





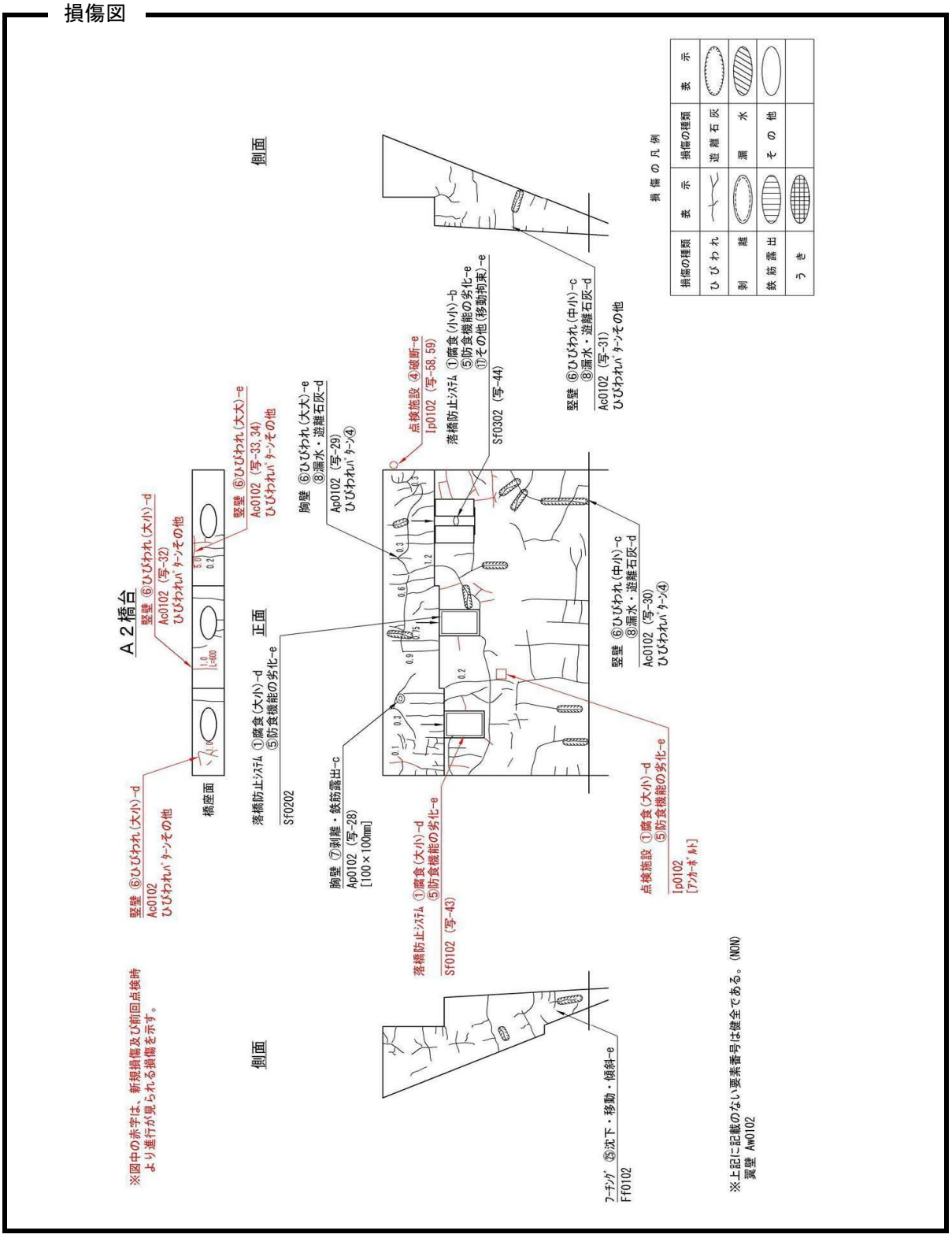


判定結果 ⟶ 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　08535

損傷図



1985年調査時点

構造物コード　　P8545

基本データ

1. 所在地　：山口県熊毛郡
2. 路線名・河川名　：光上関線
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より15m



調査結果

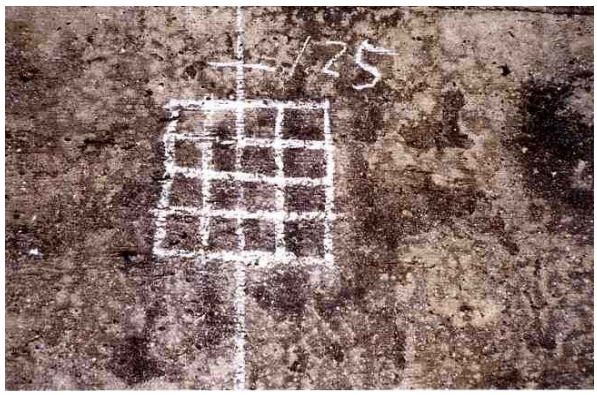
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：6.0mm
5. 調査者所見　：

・当該箇所は県道23号に設置された擁壁であり，県道の反対側はすぐ海岸線となっている。また，南側に面し，日当たりは良好。一部，ｸﾗｯｸから地下水のしみ出しが見られる。ｸﾗｯｸは，水平方向が顕著に見られ，特に擁壁の上部に多数見られた，一部亀の子状のｸﾗｯｸも見られた。



劣化状況の評価

・擁壁全体に水平方向の幅の大きいひび割れが発生している。背面から常時水の影響を受けていることが考えられる。ひび割れ幅も最大6.0mmと大きく，また，道路に面しており，第三者被害が考えられることから，ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　P8545

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：ー
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・現存せず



劣化状況の評価

・ASRによる劣化が原因で作り替えられたと推定される。周辺に当時のｺﾝｸﾘｰﾄと同様のものと思われる擁壁が残っていた。そのｺﾝｸﾘｰﾄは，幅の大きいひび割れが生じていた。





隣接擁壁



隣接擁壁

判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　P8545

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　P8545

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　P8546

基本データ

1. 所在地　：山口県熊毛郡
2. 路線名・河川名　：光上関線
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より10m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：道路擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：13mm
5. 調査者所見　：

・ 当該箇所は県道23号線の沿道に施工された擁壁で日当たりも良好で温暖な箇所である。この道路は海岸線に沿った道路となっている。擁壁全体に多数の亀の子状のｸﾗｯｸが見られ，一部貫通していると思われるｸﾗｯｸが見られた。



劣化状況の評価

・ 擁壁全体に亀甲状の幅の大きいひび割れが発生している。背面から常時水の影響を受けていることが考えられる。ひび割れ幅も最大13.0mmと大きく，また，道路に面しており，第三者被害も考えられることから，ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　P8546

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：ー
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・現存せず



劣化状況の評価

・路線変更に伴い，作り替えられたと推定。近辺には過去調査時点のｺﾝｸﾘｰﾄと同等と思われる擁壁があった。ASRにより劣化し，ひび割れも大きかった。

調査箇所全体写真無し





判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　P8546

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ **現存せず**

2025年調査時点

構造物コード　P8546

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　P8547

基本データ

1. 所在地　：山口県熊毛郡
2. 路線名・河川名　：下松田布施線
3. 構造物種類　：橋梁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より6500m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：7.0mm
5. 調査者所見　：

・当該箇所は県道63号線に施工された山陽本線を上越している跨線橋（ｽﾗﾌﾞ単純桁橋）である。この跨線橋は柳井市の山間部に位置しており，橋台の日当たりは良好であった。調査の対象とした下り側の橋台（田布施側）の側面全体に亀の子状の多数のｸﾗｯｸが見られ，一部流水のしみ出し跡が各所に見られる。橋台正面中央，橋脚の張り出し部からも流水の染み出しが見られた。



劣化状況の評価

・橋台はコンクリートの色やひび割れの発生状況より，橋台本体と取り付け擁壁ではコンクリートの材料が異なるようにみえる。ひび割れは，取り付け擁壁に多く見られ（本体側面にも一部見られる），ひび割れ幅も最大7㎜と大きい。ひび割れ注入による補修を行う必要があると考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　P8547

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：橋台
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：約3.0mm程度
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。
・ ｺﾒﾝﾄ：被覆はがれ



劣化状況の評価

・ 橋台ならびに取り付け擁壁に表面被覆が施されているが，ひび割れ，はがれが生じている。特に取り付け擁壁側で大きい。ひび割れ幅は最大3mmであり，ASRにより膨張が進行したと推定される。よって，ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により外部からの劣化因子の浸入を防ぐ必要があり，”補修必要”と判定。







判定結果 → 補修必要

2025年調査時点

構造物コード　P8547

調査結果

1. 調査年月　：2025年5月
2. 調査位置　：橋台、擁壁
3. 補修の有無　：有（不明）
4. 補修方法　：ひび割れ充填
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所、未補修箇所ともに健全である。

・ ｺﾒﾝﾄ：

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

2003年調査時点で確認された橋台および擁壁の表面被覆はなくなっていた。橋脚柱部に発生しているひび割れには、ひび割れ充填が施工されており、再劣化は見られない。擁壁については追加の補修は実施されていないように見えるが、劣化が軽微のため、"経過観察"と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　P8547

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　P8548

基本データ

1. 所在地　：山口県熊毛郡
2. 路線名・河川名　：吉井川
3. 構造物種類　：砂防ダム
4. 竣工年　：1977年
5. 周辺環境　：海岸線より7km



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：砂防ダム
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：4.0mm
5. 調査者所見　：

・ 当該箇所は吉井川上流の砂防ダムで日射条件は良好で温暖な箇所である。方位は南北に伸びている。天端の勾配は1.5である。被害状況としては天端及び側面に亀の子状の亀裂が発生している。



劣化状況の評価

・ ひび割れは，天端及び側面に発生している。ひび割れ幅は4.0mmと大きいが，大きいひび割れは一部である。また，構造物の機能上，第三者被害も考えられないため，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　P8548

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：砂防ダム
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：14mm
6. 調査者所見　：

・判定：アルカリ骨材反応による劣化の進行が認められる
・ｺﾒﾝﾄ：特に無し



劣化状況の評価

・過去調査時点では，砂防ダムの天端のひび割れを対象にしていたが，今回の調査では落ち葉等の堆積により確認することができなかった。砂防ダムの前面，背面で確認したところ，ひび割れ幅が最大14mmであった。しかし，立地的に第三者被害による影響は少ないと考えられるため，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　P8548

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ 情報不足

2025年調査時点

構造物コード　P8548

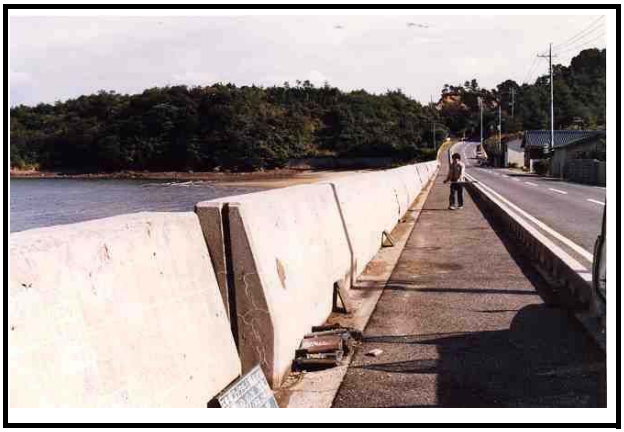
損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　P8549

基本データ

1. 所在地　：山口県柳井市
2. 路線名・河川名　：柳井上関線
3. 構造物種類　：防波堤
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より0m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：2.0mm
5. 調査者所見　：

- 当該箇所は県道72号線にそった防波堤擁壁である。海岸線に位置し，常時海水の飛沫を受けていると思われる。常時，海風等を受けているが，日当たり等は良好で温暖な箇所と思われる。擁壁全体に亀の子状のｸﾗｯｸが多数見られ，一部貫通しているｸﾗｯｸも見られる。健全と思われる箇所が見られない。



劣化状況の評価

- 亀甲状のひび割れが，防波堤全体に広がっている。しかし，ひび割れは最大2mm程度であり，また構造物の機能上，第三者被害の可能性も小さいと考えられることから，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　P8549

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：防波堤
3. 補修の有無　：無し
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：3.0mm
6. 調査者所見　：

・判定：構造物の状態は前回調査時とほとんど変化していない。



劣化状況の評価

・ひび割れ幅は，最大が2mm→3mmと大きくなっていたが，構造物の重要度としては，問題となるような幅とはいえない。ひび割れ本数も若干増加しているものの問題とはならないと考えられる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　P8549

調査結果

1. 調査年月　：2025年8月
2. 調査位置　：防波堤
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・ 判定：防波堤の状態は前回調査時とほとんど変化していない。

・ ｺﾒﾝﾄ：

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

2003年調査時点からひび割れ幅や本数はあまり変化していないように見える。上部で部分的に鉄筋が露出しているが、構造物の用途を考えると問題となるようなものではないと判断し、"経過観察"と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　P8549

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　P8550

基本データ

1. 所在地　：山口県柳井市
2. 路線名・河川名　：柳井上関線
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1973年
5. 周辺環境　：海岸線より20m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：道路擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：11mm
5. 調査者所見　：

・当該箇所は県道72号線沿道に設置された落石防止柵と併設したﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ擁壁であり，約20m程度で海岸線となっている。この沿道には同種の擁壁が多数設置されていたが，本調査箇所の擁壁のｸﾗｯｸ，落石防止柵の茶色（酸化）の変色が顕著であった。擁壁全体に多数のｸﾗｯｸが見られ，主に水平方向のｸﾗｯｸが顕著であり，ｸﾗｯｸ幅が10mm程度のものが数本見られ，また，一部貫通していると思われるｸﾗｯｸが見られた。茶色の変色部は落石防止柵の酸化物が付着したものと思われる。



劣化状況の評価

・擁壁前面のひび割れは，水平方向のひび割れで幅の大きいものが卓越しており，側面では亀甲状のひび割れが見られる。この擁壁は，道路に面しており，第三者被害の影響も考えられる。よって，ひび割れ幅が大きな箇所では，ひび割れ注入により一体性を確保する必要があり，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　P8550

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：有（補修年不明）
4. 補修方法　：ひび割れ充填，表面被覆
5. 最大ひび割れ幅　：不明
6. 調査者所見　：

・判定：補修箇所・未補修箇所ともに健全である
・ｺﾒﾝﾄ：ひび割れ部は充填工法，全体としては表面被覆により補修



劣化状況の評価

・充填工法と表面被覆により補修を行っている。現状では，所々ふくれが見られるが，ひび割れはなく，健全な状態を保っているといえる。よって，”経過観察”と判定。







判定結果 → 経過観察

2025年調査時点

構造物コード　P8550

調査結果

1. 調査年月　：2025年8月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・ 判定：補修箇所にも劣化の進行が見られる。

・ ｺﾒﾝﾄ：

Webサービスを活用して調査
権利の関係上、写真掲載なし

劣化状況の評価

表面被覆の割れや白色の析出物が見られ、再劣化が確認できる。表面被覆が残っており詳細は確認できなかったが、深刻な劣化は確認できないため、"経過観察"と判定した。

判定結果 ⟶ **経過観察**

2025年調査時点

構造物コード　P8550

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　P8551

基本データ

1. 所在地　：山口県玖珂郡
2. 路線名・河川名　：由宇港
3. 構造物種類　：水門
4. 竣工年　：1974年
5. 周辺環境　：海岸線より0m



調査結果

1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：水門
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：7.0mm
5. 調査者所見　：

- 当該箇所は有効の船溜りのために施工された水門であり，常時海水の飛沫の影響を受ける。大潮の満潮時にはかなりの量の海水を止水するものと思われる。水門擁壁部の全体に亀の子状多数のｸﾗｯｸが見られ，水門上面部では貫通しているｸﾗｯｸ（幅7mm）が見られた。水門の止水のための金物は各部とも腐蝕，サビが見られた。



劣化状況の評価

- 亀甲状のひび割れが，水門全体に広がっている。しかし，幅の広いひび割れは局部的であり，また構造物の機能上，第三者被害の可能性も小さいと考えられることから，”経過観察”と判定。



判定結果 → 経過観察

2003年調査時点

構造物コード　　P8551

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：水門
3. 補修の有無　：ー
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・現存せず



劣化状況の評価

・過去調査時点で調査対象となっていた部位は，作り替えられていた。ASRが原因かどうかは不明である。周辺に当時のコンクリートと思われるものがあり，ひび割れ幅が16㎜と非常に大きいものも見られた。







判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　P8551

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　P8551

損傷図

1985年調査時点

構造物コード　　P8552

基本データ

1. 所在地　：山口県岩国市
2. 路線名・河川名　：祖生通津線
3. 構造物種類　：擁壁
4. 竣工年　：1974年
5. 周辺環境　：海岸線より1.8km



調査結果

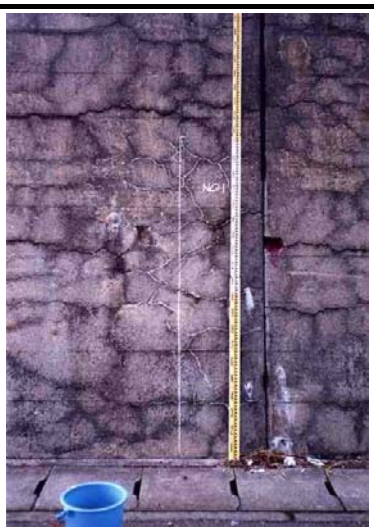
1. 調査年月　：1985年10月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：無
4. 最大ひび割れ幅　：4.0mm
5. 調査者所見　：

・当該箇所は県道141号線沿道に施工された擁壁であり，この道路沿道に施工されている擁壁は規模の大小は見られるが亀の子状のｸﾗｯｸが多数見られた。日当たりは良好であり，また温暖な地域である。調査の対象とした擁壁には亀の子状のｸﾗｯｸが多数見られ，幅が数mmにおよびｸﾗｯｸが壁面に2～3本見られた。



劣化状況の評価

・擁壁全体に亀甲状の幅の大きいひび割れが発生している。背面から常時水の影響を受けていることが考えられる。道路に面しており，第三者被害も考えられることから，ひび割れ注入による補修が必要と考えられる。よって，”補修必要”と判定。



判定結果　→　補修必要

2003年調査時点

構造物コード　　P8552

調査結果

1. 調査年月　：2004年8月
2. 調査位置　：擁壁
3. 補修の有無　：ー
4. 補修方法　：ー
5. 最大ひび割れ幅　：ー
6. 調査者所見　：

・現存せず



劣化状況の評価

・過去調査時点で対象とした擁壁は作りかえられていた。隣接している民家の擁壁は，過去調査時点のｺﾝｸﾘｰﾄと同様と思われるが，ASRによるひび割れが発生しているのを確認できた。





民家の擁壁



判定結果 → 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　P8552

調査結果

1. 調査年月　:
2. 調査位置　:
3. 補修の有無　:
4. 補修方法　:
5. 最大ひび割れ幅　:
6. 調査者所見　:

・ 判定：

・ ｺﾒﾝﾄ：

劣化状況の評価

判定結果 ⟶ 現存せず

2025年調査時点

構造物コード　P8552

損傷図

土木研究所資料
TECHNICAL NOTE of PWRI
No.4468 March 2026

編集・発行 ©国立研究開発法人土木研究所

本資料の転載・複写の問い合わせは

国立研究開発法人土木研究所 企画部 業務課
〒305－8516 茨城県つくば市南原1－6 電話029－879－6754